

目次

I. はじめに	2
II. 教育改善への教員の取り組みと学生による授業評価	3
III. 調査の実施方法と報告書の作成	
1. 調査用紙の配布から回収まで	4
2. 集計と各授業担当者への結果報告	4
3. 報告書の作成	4
IV. 調査の実施と調査用紙の回収	
1. 調査実施状況	5
2. 調査用紙の回収状況	5
V. 調査結果と分析	
1. 学生の授業評価結果（講義・演習科目）	6
2. 学生の授業評価結果（実験科目）	9
3. 授業に対する満足度の年次推移	12
4. 学生の授業への取り組み	12
VI. 授業評価結果のフィードバックの取り組み	29
付録資料	31

I. はじめに

本報告書は、平成 19 年度から 22 年度迄の授業評価などの FD 活動をまとめたものです。工学部は他の学部在先駆け、平成 13 年より FD 活動を行ってきました。授業評価はアンケート評価であり、必ずしも評価は絶対的なものとは言えないとも言えますが、報告書を見ていただくと分かりますように学生からみた評価は年度を経るに従い向上しています。これからも、教員の授業スキルの向上、さらには、教育に対する考え方も向上してきていると考えております。

平成 15 年度から FD シンポジウムを毎年開催し、年毎に FD 部会で議論をもとにさまざまなテーマを選んでおります。最近では、学生のメンタルケア、留年率の縮小、大学院への進学率向上、よい講義とは何なのかといったことについて講演会あるいはパネルディスカッションを行い、教育に関して検討を重ねてきております。

また、FD シンポジウムでは、授業評価の高い教員にベストレクチャー賞を授与し、受賞者からのアドバイスあるいは模範的な講義をして頂き、教員の教育力の向上に努めております。さらに、教員相互の授業参観（オープンクラス）を毎年実施してきております。今年度からは全ての講義をその対象としております。これらの活動を通じ教育の改善が続いていると考えております。

本報告書は分析結果だけでなく、これらの活動のデータも示されております。今後の FD 活動に役立てていただければ幸いです。

工学部長
佐藤 勇一

平成 24 年 2 月

II. 教育改善への教員の取り組みと学生による授業評価

2011 年度工学部教育企画委員会 FD 部会

本報告書は、2007 年 9 月 3 日制定の「工学部・教員研修 (FD) ガイドライン」の規程に基づき、2007 年度から 2010 年度までの 4 年間の工学部における「学生による授業評価」の結果およびその分析と評価を取りまとめたものである。2006 年度までは、毎年、全学教育・学生支援機構全学教育企画室により冊子体としてまとめられ、報告されてきたが、その後は集計結果のみを掲載した CD として各学部等に配布され、また大学のホームページ上で公表される形をとっている。したがって、2007 年度以降の工学部における「学生による授業評価」の結果およびその分析と評価は、本報告書で初めて報告することになる。なお、集計および調査結果の分析は、2011 年度工学部教育企画委員会 FD 部会が、2006 年度の全学教育企画室により作成された報告書に準じて行った。

工学部では、教員の授業技能を向上させるとともに、教育力の向上につなげて発展させることを目的として多くの FD 活動を他学部在先駆けて実施してきた。「学生による授業評価」はすでに 2001 年度から実施しているほか、2003 年度からは毎年 1 回、教職員だけでなく学生にも公開した「FD シンポジウム」を開催している。また、上述したように 2007 年 9 月に「工学部・教員研修 (FD) ガイドライン」を制定し、「学生による授業評価」と「FD シンポジウム」に加えて、「教員相互の授業参観 (オープンクラス)」を毎年前期ないし後期に実施して、授業改善への積極的な取り組み姿勢を明確にしている。授業技能優秀者の表彰、すなわち「ベストレクチャー賞」の授与も同年から実施している FD 活動の一つである。

その後現在に至るまでこれらの FD 活動を継続的に行なっており、各教員にはすでに定着しつつある。したがって、本報告書は、2007 年度以降継続して行ってきた工学部の FD 活動の成果、すなわち教員の教育改善への取り組みの結果を、学生による授業評価結果から読み取る良い資料となると考えられる。いうまでもなく、学生による授業評価には、教員の授業改善に向けた努力がいろいろな形で反映されるはずである。実際に今回の分析結果は、工学部全体としてこの 4 年間の学生による授業評価が向上しているという結果となっているが、是非すべてにお目通しいただき、本報告書に記載の調査・分析結果を更なる教育改善につなげていただくことを願うものである。

2011 年度工学部教育企画委員会 FD 部会

部会長	渋川 雅美
副部会長	柿崎 浩一
委員	加藤 寛
委員	谷治 環
委員	久野 義徳
委員	佐々木 寧
委員	王 青躍

Ⅲ. 調査の実施方法と報告書の作成

1. 調査用紙の配布から回収まで

学生による授業評価は、2003年度より全学教育企画室が全学共通のフォーマットによって実施してきたが、各学部からの意見を集約して一部改訂を行なった。主な変更点は、以下の評価項目を追加したことである。

- ①授業は、あなたの思考力を養うため、あるいは専門知識を高めるうえで役立ちましたか。
- ②授業は上記の項目も含め総合的に判断して満足できるものでしたか。

2007年度から2010年度までは、上記の改訂を行った同一の調査用紙（資料 1-1, 1-2）で、調査実施要項(資料 2-1～2-8)にしたがって授業評価を行った。

調査実施要項も2007年度以降、改訂を行っている。主な変更点は以下の通りである。

- ①教員は受講生に授業評価の意義を正しく理解させるため、以下のことを伝える。

「この授業評価は、授業内容を改善し、さらに充実させることを目的として行うものですので、皆さんは責任を持って回答をして下さい。記入欄に、授業内容とは直接関係のない内容が記入されている場合は、削除されることがあります。なお、調査用紙の記入内容は、記入欄の記載事項も含め集計データとして教員に通知されるので、調査用紙自体を教員が見ることはありません。」
(2009年度～)

- ②記入済み調査用紙は、教員が回収するのではなく、受講生に回収と学務係への提出を依頼する。
(2007年度～)

2. 集計と各授業担当者への結果報告

全学教育企画室では、学期ごとに以下の集計結果表を作成した。

- ①授業科目別（講義・演習、実験）
- ②調査項目評定平均一覧(小分類別)
- ③学科等別評定平均一覧(中分類別)
- ④学科等別集計(中分類別)
- ⑤学部等別(大分類別)
- ⑥学年別回答率・回答者数・評定平均一覧(中分類別)
- ⑦学年別回答率・回答者数・評定平均一覧(大分類別)

また、調査用紙の裏面に自由に記述された授業に対する学生の希望や感想等を、今後の授業内容の改善に資するため、授業科目別集計表と一緒に各教員に戻した。ただし、2009年度より、教員に対する根拠のない誹謗・中傷の類と判断されるものは削除して配布した。

3. 報告書の作成

本報告書は、全学教育企画室による集計結果に基づいて、工学部教育企画委員会 FD 部会が作成した。なお、基本的構成は全学教育企画室作成の「学生による授業評価の報告書 2006」（2007（平成 19）年 7 月）に準拠した。

IV. 調査の実施状況

2007～2010年度の学生による授業評価の調査実施状況を、講義本数、受講者数、回収講義本数、回答者数、回収率の集計表として、表1に示す。表中の評価対象講義本数は、10人以下(2007年度)または5人以下(2008年度以降)の少人数授業について実施対象としなかった場合などを除いた授業評価対象の講義本数である。

講義本数に対する実施率(回収講義本数/評価対象講義本数)は、2007～2010年度において95～98%で推移しており、ほぼすべての講義・実験において授業評価が実施されている。これは、工学部では授業評価が定着したことを示しているが、今後もこの実施率を維持する努力が必要である。

次に授業評価を実施した講義・実験についての回収率(回答者数2/受講者数)についてみると、71～75%の間でほぼ一定となっている。回収率があまり高くないのは、授業評価が実施される学期の終盤で実質の受講者が減っていることが主な原因と考えられるが、授業評価に協力していない学生もいる可能性もあり、この点に関する調査を検討する必要がある。

表1 授業評価アンケート調査実施結果

2007年度前期										回収講義										
評価対象講義					講義本数					受講者数					回答者数					
講義本数	受講者数		講義本数		受講者数		回答者数		講義本数	回答者数	回答者数2	講義本数	回答者数	回答者数2	C/A		E/B		E/D	
講義演習	実験	計A	講義演習	実験	計B	講義演習	実験	計C	講義演習	実験	計D	講義演習	実験	計E	C/A	E/B	E/D			
180	16	196	12426	1060	13486	177	16	193	12258	1060	13318	8928	969	9897	98%	73%	74%			
2007年度後期										回収講義										
評価対象講義					講義本数					受講者数					回答者数					
講義本数	受講者数		講義本数		受講者数		回答者数		講義本数	回答者数	回答者数2	講義本数	回答者数	回答者数2	C/A		E/B		E/D	
講義演習	実験	計A	講義演習	実験	計B	講義演習	実験	計C	講義演習	実験	計D	講義演習	実験	計E	C/A	E/B	E/D			
154	10	164	10990	763	11753	150	10	160	10838	763	11601	7751	616	8367	98%	71%	72%			
2008年度前期										回収講義										
評価対象講義					講義本数					受講者数					回答者数					
講義本数	受講者数		講義本数		受講者数		回答者数		講義本数	回答者数	回答者数2	講義本数	回答者数	回答者数2	C/A		E/B		E/D	
講義演習	実験	計A	講義演習	実験	計B	講義演習	実験	計C	講義演習	実験	計D	講義演習	実験	計E	C/A	E/B	E/D			
190	15	205	12960	1055	14015	185	15	200	12702	1055	13757	9225	977	10202	98%	73%	74%			
2008年度後期										回収講義										
評価対象講義					講義本数					受講者数					回答者数					
講義本数	受講者数		講義本数		受講者数		回答者数		講義本数	回答者数	回答者数2	講義本数	回答者数	回答者数2	C/A		E/B		E/D	
講義演習	実験	計A	講義演習	実験	計B	講義演習	実験	計C	講義演習	実験	計D	講義演習	実験	計E	C/A	E/B	E/D			
173	9	182	11392	602	11994	170	9	179	11214	602	11816	8326	534	8860	98%	74%	75%			
2009年度前期										回収講義										
評価対象講義					講義本数					受講者数					回答者数					
講義本数	受講者数		講義本数		受講者数		回答者数		講義本数	回答者数	回答者数2	講義本数	回答者数	回答者数2	C/A		E/B		E/D	
講義演習	実験	計A	講義演習	実験	計B	講義演習	実験	計C	講義演習	実験	計D	講義演習	実験	計E	C/A	E/B	E/D			
198	10	208	13183	651	13834	188	9	197	12711	536	13247	9249	498	9747	95%	70%	74%			
2009年度後期										回収講義										
評価対象講義					講義本数					受講者数					回答者数					
講義本数	受講者数		講義本数		受講者数		回答者数		講義本数	回答者数	回答者数2	講義本数	回答者数	回答者数2	C/A		E/B		E/D	
講義演習	実験	計A	講義演習	実験	計B	講義演習	実験	計C	講義演習	実験	計D	講義演習	実験	計E	C/A	E/B	E/D			
182	8	190	11028	548	11576	177	8	185	10934	548	11482	7849	492	8341	97%	72%	73%			
2010年度前期										回収講義										
評価対象講義					講義本数					受講者数					回答者数					
講義本数	受講者数		講義本数		受講者数		回答者数		講義本数	回答者数	回答者数2	講義本数	回答者数	回答者数2	C/A		E/B		E/D	
講義演習	実験	計A	講義演習	実験	計B	講義演習	実験	計C	講義演習	実験	計D	講義演習	実験	計E	C/A	E/B	E/D			
203	9	212	13015	596	13611	198	9	207	12748	596	13344	9315	529	9844	98%	72%	74%			
2010年度後期										回収講義										
評価対象講義					講義本数					受講者数					回答者数					
講義本数	受講者数		講義本数		受講者数		回答者数		講義本数	回答者数	回答者数2	講義本数	回答者数	回答者数2	C/A		E/B		E/D	
講義演習	実験	計A	講義演習	実験	計B	講義演習	実験	計C	講義演習	実験	計D	講義演習	実験	計E	C/A	E/B	E/D			
183	8	191	11556	544	12100	177	8	185	11397	544	11941	8030	499	8529	97%	70%	71%			

V. 調査結果と分析

1. 学生の授業評価結果（講義・演習科目）

講義・演習科目に対する学生の授業評価結果を表2～表5に示す。全学教育企画室作成の「学生による授業評価の報告書 2006」においては、学生の興味・関心を如何に引き出すかが教員共通の課題であろうことが指摘されている。これは質問項目のNo.5（教員は、授業の内容に対するあなたの興味や関心を引き出しましたか）に対応しているが、年次推移を見てみると、2007年度前期（後期）の平均値は3.53（3.65）であったものが年を追う毎に改善が図られ、2010年度前期（後期）の平均値は3.72（3.83）まで向上している。また、前述の報告書では講義が時間通りに行われていない可能性がある点も指摘されているが、この点についても評価結果を分析してみると、質問項目のNo.8（教員は、授業を授業時間どおり行ないましたか）は、2007年度前期（後期）の平均値が4.04（4.06）であったのに対し、2010年度前期（後期）の平均値は4.18（4.18）となり改善が見られる。これ以外の質問項目についても評価の向上が認められ、各教員が授業改善に対して取り組んでいる姿勢が伺える。ただ、全体を通して比較すると、質問項目No.5およびNo.9（教員は、授業への学生の参加（質問、発言）を促し、あなたの質問に対して、あなたが分かるように答えましたか）が相対的に低く、学生が積極的に参加できるような工夫を盛り込み、さらに興味・関心を引き出し、高める努力が引き続き求められるものと考えられる。

図1は学生による授業評価項目であるNo.1からNo.10の評定平均値の年次推移を各学科毎に示したものである。全体として評定平均値は向上する傾向にあるが、特に情報システム工学科、応用化学科および環境共生学科の向上率が顕著である。今後、これらの学科の授業改善に取り組む姿勢を調査し、他学科の参考に資することができれば有意義であると考えられる。

表2 2007年度 授業評価結果(講義・演習)

2007 前期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値													
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均	11	12	13
601	機械工学科	1,970	3.65	3.72	3.94	3.77	3.47	3.78	3.57	4.05	3.50	3.61	3.71	4.55	3.09	3.42
602	電気電子システム工学科	1,819	3.70	3.64	3.90	3.74	3.41	3.87	3.56	3.93	3.46	3.55	3.68	4.55	3.06	3.29
603	情報システム工学科	1,179	3.57	3.63	3.72	3.73	3.35	3.79	3.50	4.05	3.48	3.48	3.63	4.47	3.03	3.31
604	応用化学科	1,492	3.70	3.69	3.91	3.80	3.55	3.94	3.60	3.94	3.59	3.64	3.74	4.60	3.08	3.51
605	機能材料工学科	1,039	3.95	3.94	4.14	4.07	3.79	4.18	3.85	4.19	3.91	3.92	3.99	4.48	3.16	3.62
606	建設工学科	1,481	3.86	3.86	4.00	3.93	3.63	3.92	3.71	4.08	3.65	3.77	3.84	4.48	3.48	3.54
平均値			3.74	3.75	3.93	3.84	3.53	3.91	3.63	4.04	3.60	3.66	3.76	4.52	3.15	3.45

2007 後期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値													
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均	11	12	13
601	機械工学科	1,787	3.68	3.68	3.91	3.81	3.49	3.80	3.55	3.93	3.50	3.61	3.70	4.55	3.18	3.48
602	電気電子システム工学科	1,510	3.79	3.74	3.92	3.84	3.53	3.89	3.64	3.96	3.58	3.67	3.76	4.43	3.05	3.33
603	情報システム工学科	938	3.82	3.91	4.00	3.93	3.63	3.99	3.79	4.18	3.72	3.78	3.87	4.58	3.16	3.49
604	応用化学科	1,260	3.88	3.90	4.00	3.98	3.79	3.99	3.80	4.09	3.75	3.87	3.91	4.54	3.16	3.52
605	機能材料工学科	854	4.00	3.93	4.07	4.10	3.86	4.20	3.77	4.16	3.87	3.91	3.99	4.46	3.29	3.66
606	建設工学科	1,346	3.84	3.79	3.90	3.92	3.60	3.91	3.66	4.05	3.64	3.74	3.81	4.40	3.39	3.56
平均値			3.84	3.82	3.97	3.93	3.65	3.96	3.70	4.06	3.68	3.76	3.84	4.49	3.20	3.51

表3 2008年度 授業評価結果(講義・演習)

2008 前期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値													
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均	11	12	13
601	機械工学科	1,927	3.73	3.74	3.90	3.81	3.52	3.77	3.65	3.99	3.56	3.69	3.74	4.47	3.15	3.53
602	電気電子システム工学科	1,732	3.87	3.85	4.03	3.89	3.65	4.03	3.78	3.98	3.67	3.78	3.85	4.50	3.27	3.46
603	情報システム工学科	1,295	3.94	3.99	4.06	4.03	3.77	4.10	3.88	4.21	3.82	3.87	3.97	4.58	3.34	3.60
604	応用化学科	1,514	3.89	3.89	3.98	3.95	3.72	3.98	3.80	4.13	3.77	3.84	3.89	4.55	3.27	3.60
605	機能材料工学科	1,042	4.01	3.92	4.14	3.99	3.76	4.15	3.81	4.13	3.85	3.93	3.97	4.49	3.32	3.65
606	建設工学科	1,616	3.91	3.89	4.01	3.97	3.68	4.00	3.77	4.05	3.72	3.84	3.89	4.49	3.68	3.67
607	環境共生学科	110	3.84	3.35	4.04	3.70	3.39	3.74	3.17	3.91	3.52	3.44	3.61	4.69	3.20	3.49
平均値			3.88	3.80	4.02	3.91	3.64	3.97	3.69	4.06	3.70	3.77	3.84	4.54	3.32	3.57

2008 後期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値													
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均	11	12	13
601	機械工学科	1,722	3.78	3.75	3.95	3.92	3.65	3.95	3.67	3.99	3.67	3.76	3.81	4.45	3.48	3.65
602	電気電子システム工学科	1,377	3.90	3.80	4.00	3.88	3.59	3.97	3.70	4.02	3.66	3.76	3.83	4.45	3.29	3.39
603	情報システム工学科	1,174	3.94	3.97	4.06	4.06	3.78	4.04	3.86	4.19	3.84	3.90	3.96	4.69	3.68	3.85
604	応用化学科	1,348	3.99	3.97	4.08	4.05	3.79	4.11	3.88	4.29	3.81	3.95	3.99	4.46	3.21	3.61
605	機能材料工学科	977	3.94	3.95	4.06	4.07	3.82	4.16	3.85	4.14	3.85	3.96	3.98	4.50	3.49	3.70
606	建設工学科	1,432	3.90	3.84	3.98	3.92	3.64	3.91	3.73	4.08	3.73	3.78	3.85	4.39	3.47	3.54
607	環境共生学科	183	3.46	3.47	3.71	3.54	3.26	3.65	3.37	3.66	3.29	3.28	3.47	4.38	3.68	3.44
平均値			3.84	3.82	3.98	3.92	3.65	3.97	3.72	4.05	3.69	3.77	3.84	4.48	3.47	3.60

表4 2009年度 授業評価結果(講義・演習)

2009 前期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値													
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均	11	12	13
601	機械工学科	1,900	3.72	3.76	3.91	3.79	3.54	3.80	3.70	4.05	3.58	3.73	3.76	4.42	3.36	3.47
602	電気電子システム工学科	1,879	3.92	3.87	4.05	3.92	3.67	4.04	3.81	4.09	3.77	3.82	3.89	4.61	3.62	3.59
603	情報システム工学科	1,277	3.97	4.04	4.15	4.09	3.76	4.10	3.94	4.14	3.83	3.95	4.00	4.58	3.44	3.67
604	応用化学科	1,417	3.92	3.90	4.01	3.98	3.73	4.01	3.78	4.17	3.78	3.87	3.91	4.48	3.15	3.55
605	機能材料工学科	1,017	3.98	3.89	4.07	3.98	3.72	4.02	3.81	4.17	3.85	3.86	3.94	4.38	3.49	3.65
606	建設工学科	1,680	3.94	3.89	4.03	3.95	3.63	3.97	3.77	4.13	3.74	3.82	3.89	4.46	3.66	3.55
607	環境共生学科	287	3.78	3.74	4.03	3.76	3.52	3.98	3.63	4.08	3.58	3.64	3.77	4.47	3.62	3.58
平均値			3.89	3.87	4.04	3.92	3.65	3.99	3.78	4.12	3.73	3.81	3.88	4.49	3.48	3.58

2009 後期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値													
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均	11	12	13
601	機械工学科	1,505	3.69	3.66	3.91	3.79	3.50	3.83	3.55	3.98	3.57	3.66	3.71	4.44	3.43	3.50
602	電気電子システム工学科	1,525	3.84	3.80	3.93	3.85	3.58	3.92	3.68	4.06	3.69	3.77	3.81	4.47	3.52	3.55
603	情報システム工学科	1,134	4.08	4.11	4.22	4.18	3.91	4.15	3.98	4.22	4.00	4.05	4.09	4.53	3.72	3.80
604	応用化学科	1,172	4.07	4.10	4.19	4.13	3.91	4.15	4.00	4.29	3.90	4.08	4.08	4.46	3.23	3.58
605	機能材料工学科	867	3.99	3.97	4.07	4.06	3.81	4.13	3.91	4.22	3.84	3.98	4.00	4.38	3.65	3.72
606	建設工学科	1,487	3.81	3.75	3.88	3.90	3.59	3.89	3.67	3.98	3.61	3.72	3.78	4.42	3.62	3.50
607	環境共生学科	374	3.73	3.75	3.96	3.85	3.67	4.03	3.73	4.16	3.69	3.70	3.83	4.34	3.50	3.42
平均値			3.89	3.88	4.02	3.97	3.71	4.02	3.79	4.13	3.76	3.85	3.90	4.43	3.52	3.58

表5 2010年度 授業評価結果(講義・演習)

2010 前期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値													
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均	11	12	13
601	機械工学科	1,793	3.79	3.86	3.98	3.88	3.62	3.86	3.80	4.13	3.62	3.78	3.83	4.47	3.43	3.60
602	電気電子システム工学科	1,725	3.91	3.86	4.03	3.90	3.67	3.99	3.80	4.11	3.73	3.84	3.88	4.56	3.72	3.63
603	情報システム工学科	1,317	4.09	4.12	4.21	4.15	3.85	4.18	3.98	4.27	3.99	4.02	4.09	4.56	3.57	3.72
604	応用化学科	1,433	4.04	4.01	4.09	4.05	3.86	4.14	3.92	4.31	3.92	3.99	4.03	4.40	3.26	3.57
605	機能材料工学科	1,007	3.98	3.89	4.08	3.99	3.72	3.99	3.79	4.16	3.83	3.89	3.93	4.51	3.65	3.65
606	建設工学科	1,497	3.85	3.86	3.97	3.88	3.55	3.93	3.78	4.07	3.68	3.77	3.83	4.39	3.56	3.52
607	環境共生学科	476	3.97	3.91	4.14	3.99	3.76	4.14	3.87	4.21	3.79	3.87	3.96	4.63	3.83	3.66
平均値			3.95	3.93	4.07	3.98	3.72	4.03	3.85	4.18	3.79	3.88	3.94	4.50	3.57	3.62

2010 後期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値													
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均	11	12	13
601	機械工学科	1,541	3.78	3.75	3.86	3.79	3.58	3.87	3.64	3.99	3.63	3.70	3.76	4.36	3.46	3.60
602	電気電子システム工学科	1,522	3.97	3.97	4.07	3.99	3.78	4.01	3.93	4.12	3.86	3.93	3.96	4.46	3.67	3.61
603	情報システム工学科	957	4.25	4.33	4.39	4.30	4.10	4.31	4.25	4.29	4.16	4.25	4.26	4.48	3.61	3.85
604	応用化学科	1,180	4.19	4.19	4.29	4.22	4.02	4.24	4.05	4.38	3.97	4.15	4.17	4.43	3.47	3.66
605	機能材料工学科	902	4.05	4.01	4.11	4.07	3.83	4.11	3.91	4.18	3.87	3.96	4.01	4.50	3.69	3.74
606	建設工学科	1,378	4.00	3.98	4.07	4.07	3.77	3.99	3.88	4.23	3.84	3.93	3.98	4.45	3.64	3.53
607	環境共生学科	476	3.91	3.92	4.06	3.91	3.73	4.06	3.86	4.09	3.78	3.85	3.92	4.49	3.65	3.60
平均値			4.02	4.02	4.12	4.05	3.83	4.08	3.93	4.18	3.87	3.97	4.01	4.45	3.60	3.66

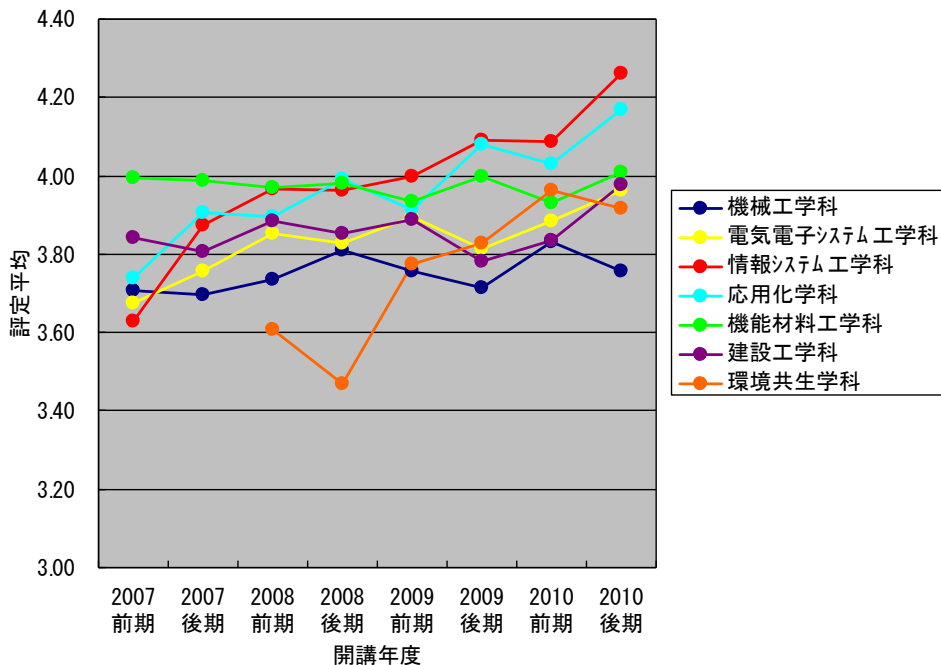


図1 学科別評定平均値の年次推移 (講義・演習科目)

2. 学生の授業評価結果（実験科目）

次に実験科目に対する学生による授業評価結果を表6～表9に示す。なお、情報システム工学科ではカリキュラムの改訂に伴い、それまでの実験科目（情報工学実験Ⅰ，Ⅱ）が演習科目（情報工学総合演習）となり、調査対象科目が無くなったため空欄となっている。また、環境共生学科は2008年度新設であり、1年次後期の実験科目が無いため2008年度後期は空欄となっている。全体的な傾向としては講義・演習科目と同様に年度毎に改善されてきていることが読み取れる。中でも質問項目No.4（実験は、あなたの思考力を養うため、あるいは専門知識を高めるうえで役立ちましたか）の評価が全ての年度・セメスタで高く、学生にとって実験科目は思考力、専門知識を高める上で重要であると認識されているようである。その一方で質問項目No.10（データの整理，レポートの書き方，また，不備なレポートの再提出や，返却されたレポートへコメント記入など，十分な指導がありましたか）の評価が相対的に低く，実験後の指導に対して不満があることが伺える。この点は今後検討の上，改善していく余地があると考えられる。

図2は学生による授業評価項目であるNo.1からNo.11の評定平均値の年次推移を各学科毎に示したものである。全体として評定平均値は向上する傾向にあるが，特に応用化学科の向上率が顕著である。これは上で指摘した実験後の指導が丁寧に行われていることを反映した結果であると推測される。

表6 2007年度 授業評価結果(実験)

2007 前期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値													
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平均	12	13
601	機械工学科	291	3.48	3.45	3.34	3.61	3.17	3.79	3.22	3.41	3.36	3.22	3.20	3.39	3.64	3.48
602	電気電子システム工学科	239	3.89	3.85	3.86	4.11	3.67	4.21	3.68	3.78	3.70	3.66	3.76	3.83	4.07	4.00
603	情報システム工学科	26	3.54	3.62	3.58	3.65	3.50	3.88	3.46	3.50	3.65	3.31	3.54	3.57	3.85	3.54
604	応用化学科	214	3.83	3.85	3.89	4.07	3.53	4.02	3.69	3.83	3.76	3.70	3.75	3.81	4.33	4.10
605	機能材料工学科	92	4.08	3.99	4.05	4.21	3.72	3.97	3.80	3.97	3.76	3.61	3.92	3.92	4.05	3.90
606	建設工学科	104	4.03	4.21	4.16	4.22	3.90	4.13	4.12	4.12	4.23	4.10	4.17	4.13	3.52	4.03
平均値			3.81	3.83	3.81	3.98	3.58	4.00	3.66	3.77	3.74	3.60	3.72	3.77	3.91	3.84

2007 後期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値													
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平均	12	13
601	機械工学科	131	3.79	3.87	3.76	4.08	3.46	3.94	3.51	3.75	3.70	3.63	3.65	3.74	4.28	3.98
602	電気電子システム工学科	152	4.03	3.93	3.92	4.31	3.98	4.35	3.84	3.96	3.78	3.70	3.93	3.98	4.53	4.12
603	情報システム工学科	53	3.96	3.72	3.83	4.36	3.81	3.82	3.68	3.62	3.82	3.75	3.71	3.83	4.92	4.51
604	応用化学科	117	4.13	4.21	4.22	4.33	3.82	4.23	4.01	4.09	4.22	4.20	4.11	4.14	4.41	4.26
605	機能材料工学科	98	4.01	4.09	3.98	4.17	3.88	4.04	3.92	4.04	3.89	3.70	3.78	3.95	4.36	3.97
606	建設工学科	68	3.44	3.56	3.19	3.50	2.97	3.55	3.10	3.04	3.13	2.75	3.01	3.21	2.58	3.38
平均値			3.89	3.90	3.82	4.13	3.65	3.99	3.68	3.75	3.76	3.62	3.70	3.81	4.18	4.04

表7 2008年度 授業評価結果(実験)

2008 前期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値													
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平均	12	13
601	機械工学科	309	3.64	3.57	3.52	3.68	3.51	3.85	3.46	3.59	3.48	3.45	3.50	3.57	3.49	3.63
602	電気電子システム工学科	220	3.93	3.97	3.94	4.09	3.83	4.13	3.80	3.89	3.86	3.85	3.81	3.92	4.23	4.04
603	情報システム工学科	10	3.70	4.00	4.00	4.00	3.90	4.40	4.30	4.40	3.90	3.70	3.78	4.01	4.60	3.80
604	応用化学科	139	3.98	3.99	3.93	4.22	3.81	4.16	3.80	3.86	3.82	3.91	3.95	3.95	4.30	4.06
605	機能材料工学科	96	3.89	3.81	3.74	3.93	3.39	3.83	3.51	3.67	3.51	3.32	3.50	3.64	4.25	3.86
606	建設工学科	85	3.92	3.93	4.06	4.23	3.75	4.13	3.70	3.95	3.92	3.74	3.89	3.93	3.79	3.90
607	環境共生学科	26	3.62	3.58	3.62	3.92	3.77	3.92	3.62	3.62	3.69	3.19	3.48	3.64	4.23	3.85
平均値			3.81	3.84	3.83	4.01	3.71	4.06	3.74	3.85	3.74	3.59	3.70	3.81	4.13	3.88

2008 後期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値													
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平均	12	13
601	機械工学科	138	3.82	3.88	3.80	4.08	3.68	4.03	3.81	3.93	3.77	3.68	3.82	3.84	3.81	4.04
602	電気電子システム工学科	147	4.14	4.08	3.91	4.31	4.01	4.42	3.94	4.09	4.01	3.90	3.97	4.07	4.54	4.14
603	情報システム工学科															
604	応用化学科	137	4.12	4.28	4.13	4.43	3.75	4.23	4.25	4.22	4.15	4.07	4.14	4.16	4.20	4.17
605	機能材料工学科	105	4.05	4.04	3.97	4.22	3.58	4.02	3.99	4.02	3.91	3.69	3.87	3.94	4.35	3.88
606	建設工学科	43	3.74	3.70	3.47	3.98	3.93	4.02	3.63	3.58	3.44	3.26	3.53	3.66	3.29	3.71
607	環境共生学科															
平均値			3.97	3.99	3.86	4.20	3.79	4.14	3.92	3.97	3.86	3.72	3.87	3.94	4.04	3.99

表8 2009年度 授業評価結果(実験)

2009 前期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値													
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平均	12	13
601	機械工学科	107	3.68	3.76	3.70	3.84	3.53	3.94	3.57	3.64	3.57	3.51	3.51	3.66	4.11	3.68
602	電気電子システム工学科	158	4.10	4.09	4.22	4.38	4.15	4.36	4.12	4.08	4.17	3.97	4.14	4.16	4.32	4.29
603	情報システム工学科	14	3.93	3.86	3.86	4.07	3.71	4.14	3.79	3.86	4.21	3.71	3.93	3.92	4.14	4.00
604	応用化学科	131	4.03	4.10	4.06	4.34	3.75	4.05	4.05	4.03	4.05	4.00	3.97	4.04	4.54	4.13
605	機能材料工学科	101	4.15	4.21	4.17	4.28	3.83	4.20	4.27	4.27	4.06	3.92	4.04	4.13	4.40	4.20
606	建設工学科	74	4.32	4.23	4.28	4.42	4.14	4.31	4.08	4.11	4.16	3.99	4.14	4.20	3.58	3.96
607	環境共生学科	27	3.38	2.85	3.31	3.15	3.48	4.08	3.38	3.37	3.30	3.19	3.08	3.32	4.63	4.11
平均値			3.94	3.87	3.94	4.07	3.80	4.16	3.89	3.91	3.93	3.76	3.83	3.92	4.25	4.05

2009 後期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値													
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平均	12	13
601	機械工学科	191	3.81	3.97	3.89	4.07	3.82	3.98	3.86	3.84	3.84	3.74	3.87	3.88	3.87	4.17
602	電気電子システム工学科	140	4.04	4.01	3.99	4.33	3.93	4.14	3.92	4.08	3.96	3.68	3.96	4.00	4.62	4.18
603	情報システム工学科															
604	応用化学科	117	4.14	4.30	4.16	4.44	3.92	4.38	4.34	4.27	4.18	4.16	4.18	4.23	4.51	4.30
605	機能材料工学科	96	4.09	3.97	3.96	4.13	3.68	4.08	3.91	4.06	3.89	3.72	3.92	3.94	4.43	4.16
606	建設工学科															
607	環境共生学科	26	4.12	4.04	4.08	4.04	4.19	4.35	4.23	4.19	4.04	4.00	3.92	4.11	4.77	4.31
平均値			4.04	4.06	4.02	4.20	3.91	4.19	4.05	4.09	3.98	3.86	3.97	4.03	4.44	4.22

表9 2010年度 授業評価結果(実験)

2010 前期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値													
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平均	12	13
601	機械工学科	109	3.77	3.82	3.73	3.95	3.72	3.93	3.67	3.65	3.67	3.67	3.55	3.74	4.27	4.00
602	電気電子システム工学科	161	4.12	4.19	4.13	4.28	4.05	4.29	4.03	4.09	4.08	4.04	4.16	4.13	4.23	4.22
603	情報システム工学科															
604	応用化学科	122	4.19	4.25	4.16	4.35	3.83	4.20	4.19	4.13	4.15	4.07	4.07	4.14	4.64	4.34
605	機能材料工学科	41	3.98	3.76	3.20	3.98	3.39	3.90	3.98	3.83	3.83	3.49	3.78	3.74	4.56	4.02
606	建設工学科	62	4.13	4.20	4.08	4.30	3.98	4.22	3.93	4.05	3.97	3.70	4.12	4.06	3.68	4.21
607	環境共生学科	52	3.50	3.52	3.52	3.71	3.52	3.75	3.19	3.45	3.54	3.48	3.43	3.51	4.08	4.19
平均値			3.95	3.95	3.80	4.10	3.75	4.05	3.83	3.87	3.87	3.74	3.85	3.89	4.24	4.17

2010 後期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値													
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平均	12	13
601	機械工学科	99	4.00	4.07	4.07	4.09	3.89	4.24	3.88	3.93	3.99	4.07	3.98	4.02	4.05	3.94
602	電気電子システム工学科	145	4.15	4.24	4.19	4.39	4.14	4.26	4.21	4.19	4.23	4.13	4.23	4.22	4.55	4.21
603	情報システム工学科															
604	応用化学科	118	4.31	4.47	4.37	4.66	4.16	4.44	4.25	4.34	4.31	4.30	4.37	4.36	4.39	4.46
605	機能材料工学科	105	4.06	3.99	4.03	4.19	3.46	3.95	3.53	3.78	3.94	3.67	3.79	3.85	4.56	4.04
606	建設工学科															
607	環境共生学科	25	4.04	4.12	4.00	4.24	4.08	4.24	4.00	4.08	4.20	4.12	4.17	4.12	4.36	4.20
平均値			4.11	4.18	4.13	4.31	3.95	4.23	3.97	4.07	4.13	4.06	4.11	4.11	4.38	4.17

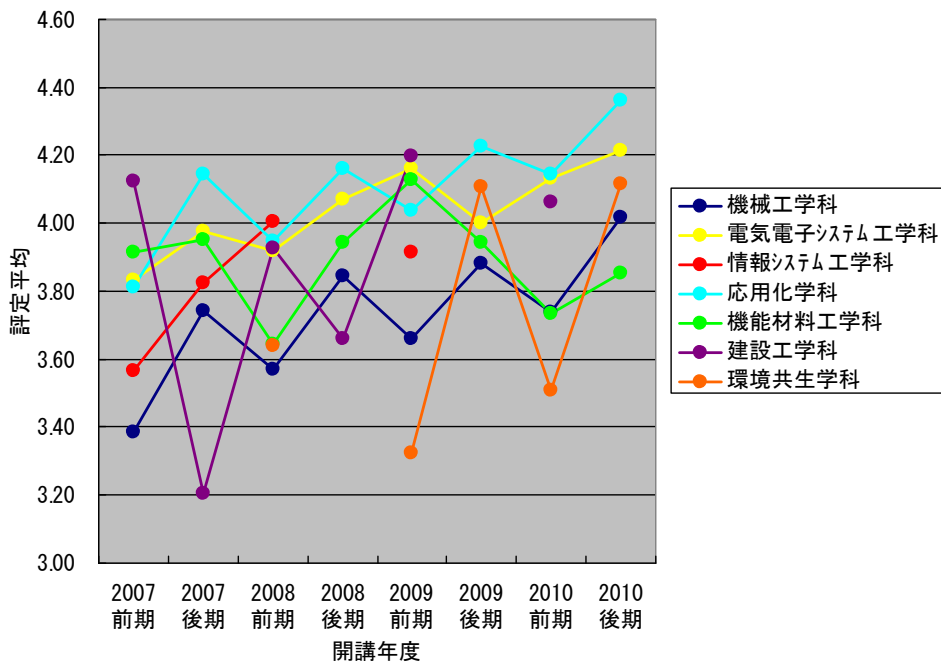


図2 学科別評定平均値の年次推移 (実験科目)

3. 授業に対する満足度の年次推移

図3は工学部全体における講義・演習および実験科目に対する学生の総合的満足度の年次推移を示す。また、図中の破線は大学全体の平均を示したものである。講義・演習科目、実験科目ともにこの4年間を通じて学生の満足度は高まってきており、FD活動の効果が顕れてきていることが伺える結果である。ただし、大学全体の平均値と比較してみた場合、工学部の授業に対する学生の総合的満足度は他学部に及ばないことが見て取れる。したがって、今後とも継続的な授業改善の努力が必要であるとともに、さらに詳細な調査と分析が必要と考えられる。

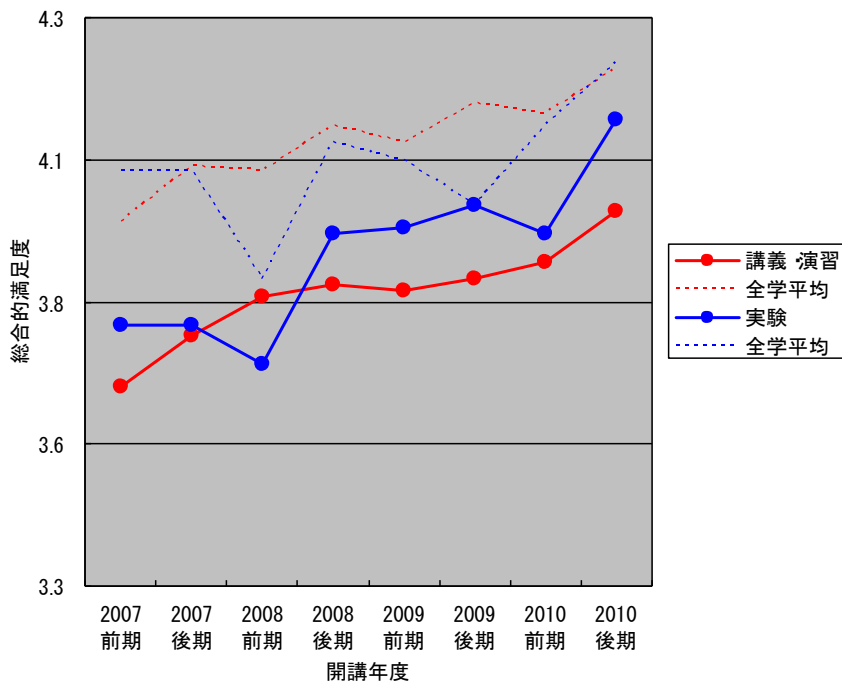


図3 授業に対する学生の総合的満足度の年次推移

4. 学生の授業への取り組み

表10～表17は各年度・セメスタにおける授業・演習科目に対する学生の取り組みの結果を示す。まず、出席状況についてみると、4年間を通じて同じ状況にあることがわかる。すなわち、4年次の出席率が低下する傾向である。これは就職活動および卒業研究に割く時間の割合が多くなるためではないかと推察される。自己学習時間および授業への集中度をみると、わずかながら改善の傾向が見受けられる。例えば2007年度前期の2年次生をみると自己学習を全くしないと回答した学生が20%であったのに対し、2010年度前期においては11.5%に減少している。これは各講義・演習において課題を与える等の工夫がなされているためではないかと推察される。

表18～表25は各年度・セメスタにおける実験科目に対する学生の取り組みの結果を示す。回答者の多い2年次および3年次生についてみると、自己学習時間および実験に取り組む姿勢ともに2009年度以降顕著な改善が認められる。予習復習に費やした時間が2時間未満と回答した学生が減少するとともに実験に集中できている様子が伺える。この原因は明らかではないが、現状をなるべく維持できるよう指導することが必要である。

表10 2007年度前期

(講義・演習用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段:回答数/下段:回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
11	授業にどれくらい出席しましたか。	A:ほぼ全回				B:3/4以上				C:3/4未満			
		1,877	2,085	2,092	550	324	581	553	233	22	64	34	14
		84.44	76.37	78.09	69.01	14.57	21.28	20.64	29.23	0.99	2.34	1.27	1.76
12	授業を受けるに当たって、予習や復習(レポート作成を含む)をしましたか。	A:よくやった				B:少しやった				C:全くしない			
		697	706	602	230	1,109	1,482	1,575	395	425	546	499	172
		31.24	25.82	22.50	28.86	49.71	54.21	58.86	49.56	19.05	19.97	18.65	21.58
13	授業中、教員の話しを理解するよう努力しましたか。	A:毎回努力した				B:普通に聴いた				C:散漫に聴いた			
		706	864	723	319	1,288	1,561	1,727	440	227	294	214	36
		31.79	31.78	27.14	40.13	57.99	57.41	64.83	55.35	10.22	10.81	8.03	4.53

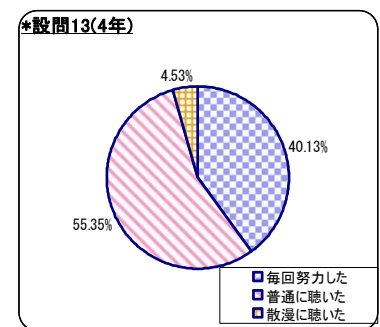
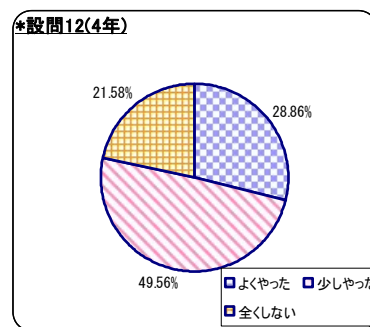
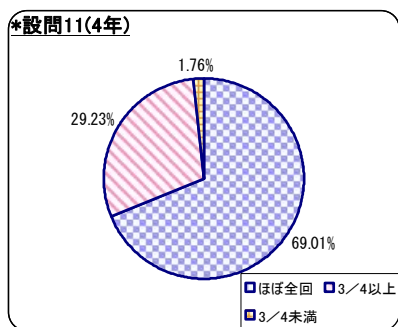
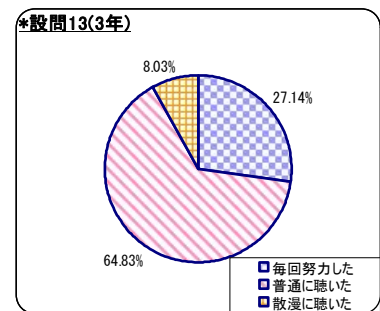
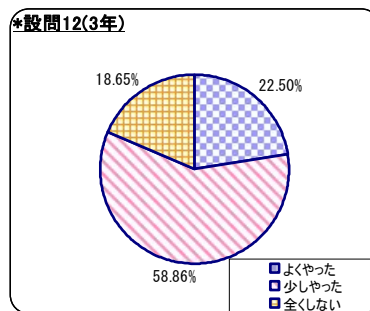
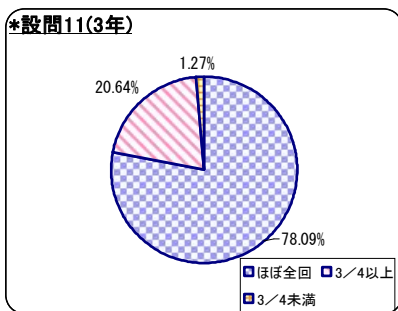
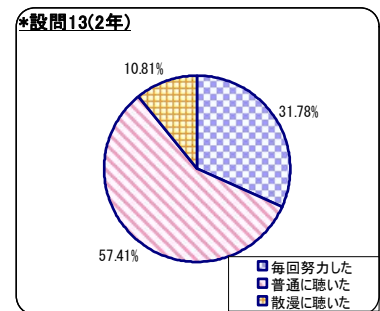
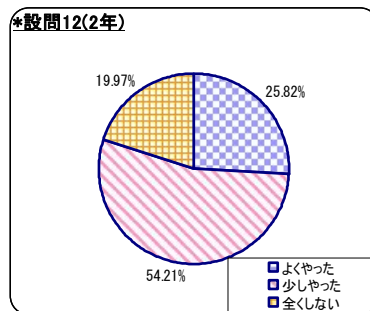
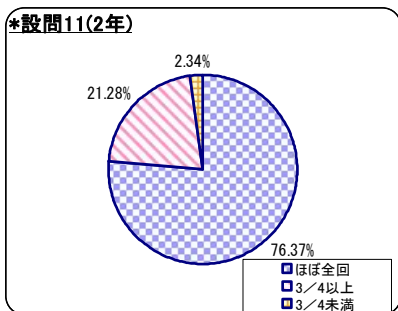
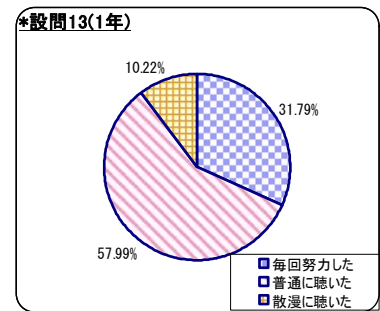
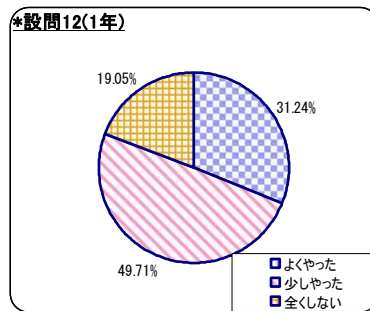
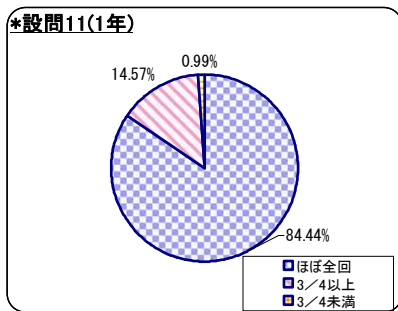


表11 2007年度後期

(講義・演習用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段:回答数/下段:回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
11	授業にどれくらい出席しましたか。	A:ほぼ全回				B:3/4以上				C:3/4未満			
		1,791	1,941	1,608	167	514	540	470	78	44	38	14	7
		76.25	77.05	76.86	66.27	21.88	21.44	22.47	30.95	1.87	1.51	0.67	2.78
12	授業を受けるに当たって、予習や復習(レポート作成を含む)をしましたか。	A:よくやった				B:少しやった				C:全くしない			
		819	543	512	65	1,174	1,455	1,199	149	350	520	375	38
		34.96	21.56	24.54	25.79	50.11	57.78	57.48	59.13	14.94	20.65	17.98	15.08
13	授業中、教員の話しを理解するよう努力しましたか。	A:毎回努力した				B:普通に聴いた				C:散漫に聴いた			
		779	737	645	111	1,348	1,588	1,309	131	212	182	126	8
		33.30	29.40	31.01	44.40	57.63	63.34	62.93	52.40	9.06	7.26	6.06	3.20

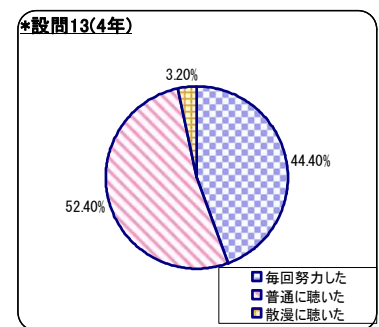
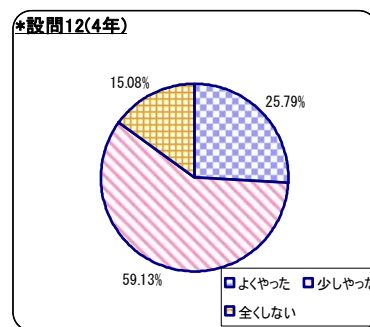
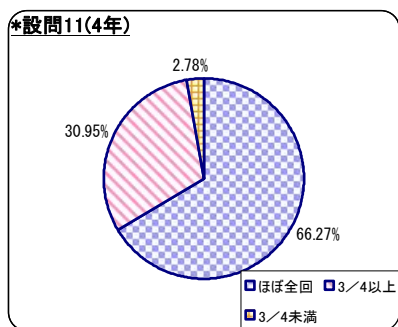
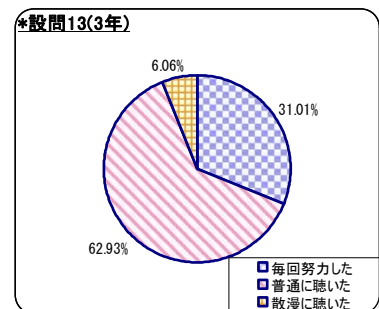
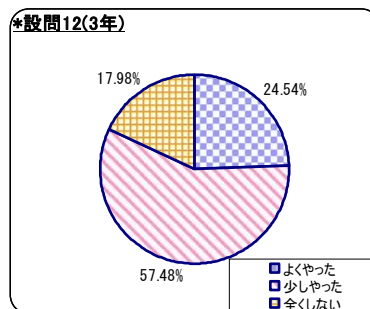
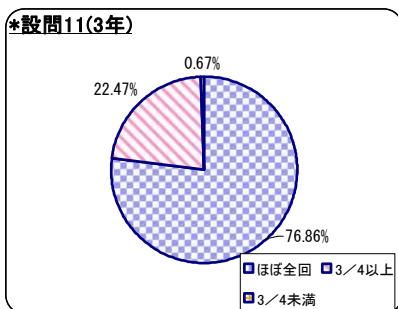
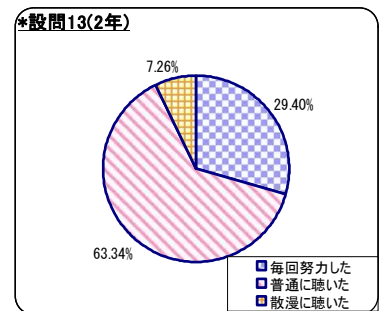
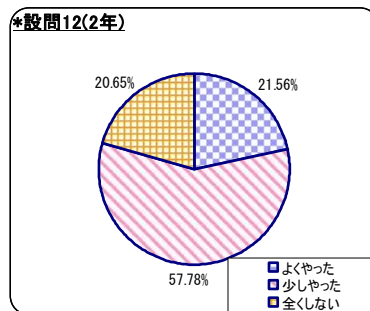
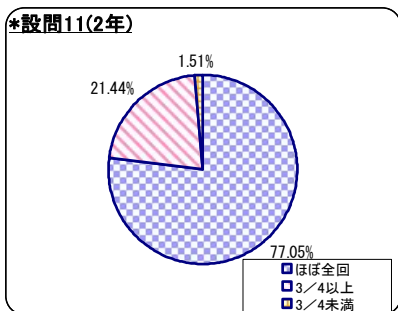
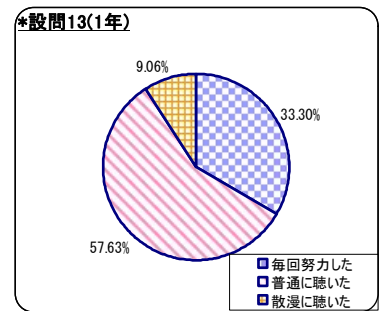
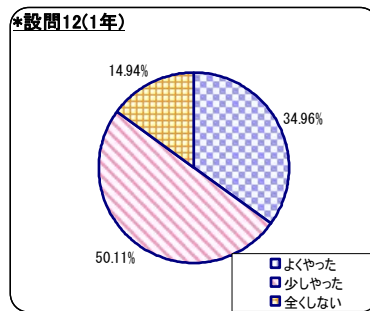
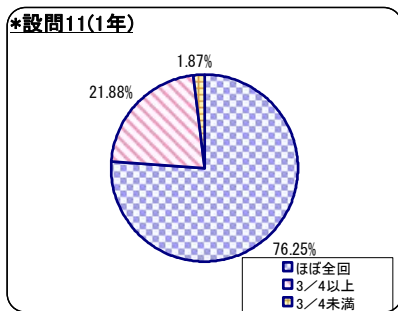


表12 2008年度前期

(講義・演習用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段:回答数/下段:回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
11	授業にどれくらい出席しましたか。	A:ほぼ全回				B:3/4以上				C:3/4未満			
		2,055	1,838	2,240	514	350	703	555	218	33	52	24	9
		84.29	70.88	79.46	69.37	14.36	27.11	19.69	29.42	1.35	2.01	0.85	1.21
12	授業を受けるに当たって、予習や復習(レポート作成を含む)をしましたか。	A:よくやった				B:少しやった				C:全くしない			
		905	871	723	217	1,140	1,363	1,607	399	392	353	482	121
		37.14	33.67	25.71	29.44	46.78	52.69	57.15	54.14	16.09	13.65	17.14	16.42
13	授業中、教員の話しを理解するよう努力しましたか。	A:毎回努力した				B:普通に聴いた				C:散漫に聴いた			
		955	847	936	265	1,297	1,507	1,717	437	177	207	151	36
		39.32	33.07	33.38	35.91	53.40	58.84	61.23	59.21	7.29	8.08	5.39	4.88

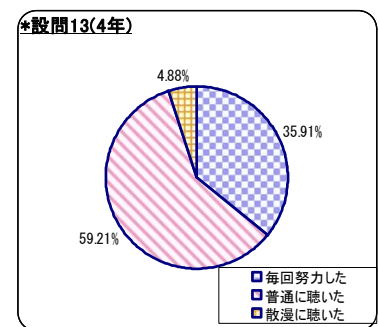
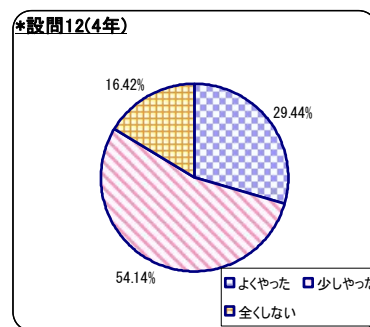
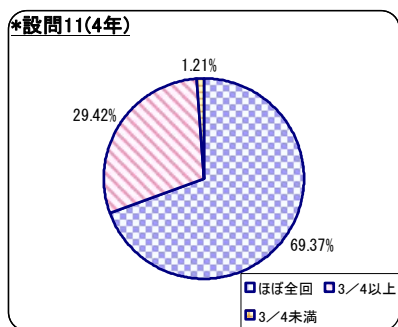
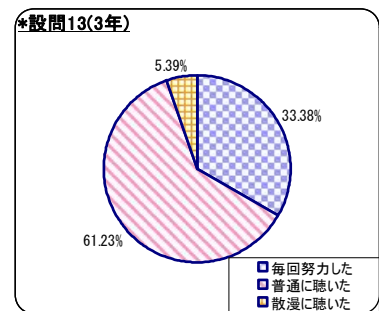
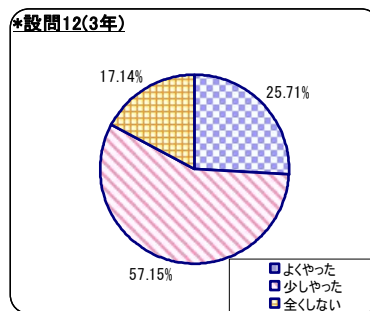
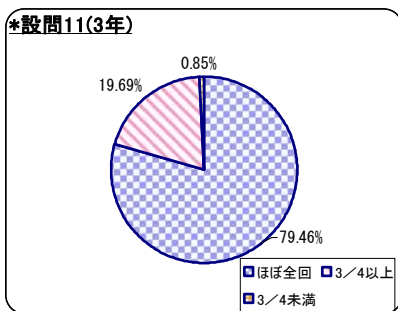
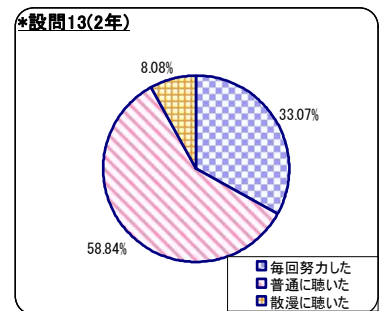
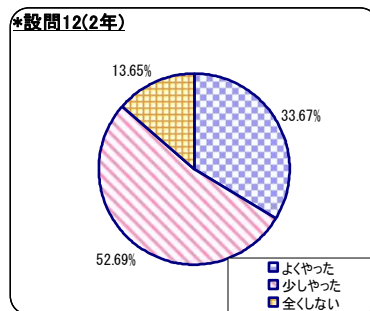
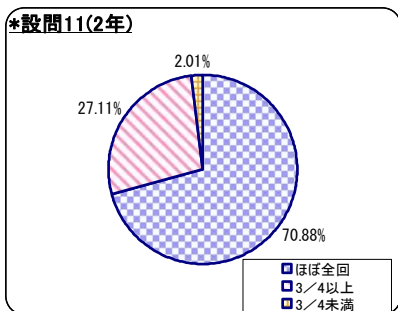
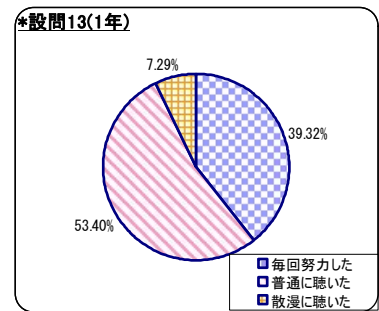
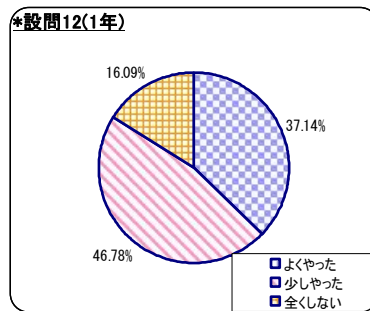
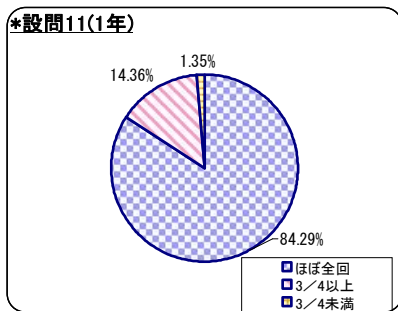


表13 2008年度後期

(講義・演習用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段:回答数/下段:回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
11	授業にどれくらい出席しましたか。	A:ほぼ全回				B:3/4以上				C:3/4未満			
		2,077	1,862	1,649	255	464	740	414	123	33	51	23	4
		80.69	70.18	79.05	66.75	18.03	27.89	19.85	32.20	1.28	1.92	1.10	1.05
12	授業を受けるに当たって、予習や復習(レポート作成を含む)をしましたか。	A:よくやった				B:少しやった				C:全くしない			
		1,090	820	649	110	1,220	1,404	1,135	231	261	426	292	40
		42.40	30.94	31.26	28.87	47.45	52.98	54.67	60.63	10.15	16.08	14.07	10.50
13	授業中、教員の話しを理解するよう努力しましたか。	A:毎回努力した				B:普通に聴いた				C:散漫に聴いた			
		1,017	843	775	140	1,384	1,584	1,168	231	154	192	120	9
		39.80	32.19	37.57	36.84	54.17	60.48	56.62	60.79	6.03	7.33	5.82	2.37

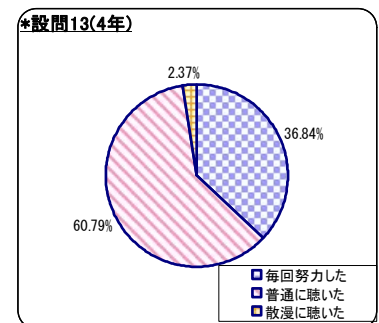
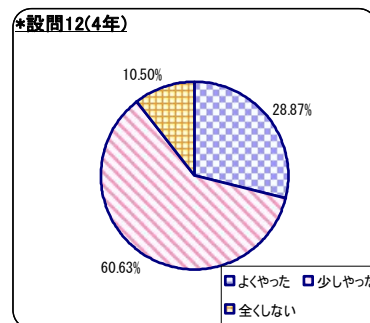
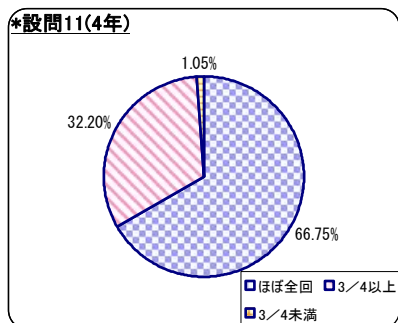
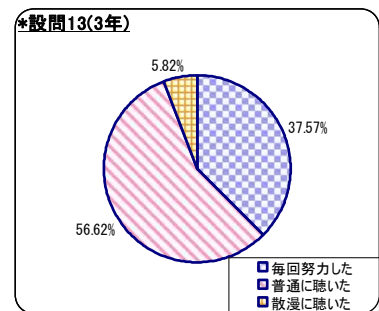
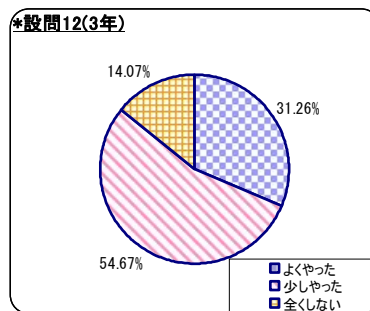
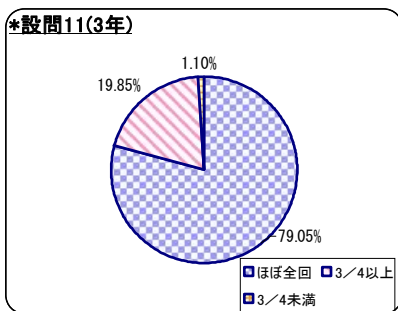
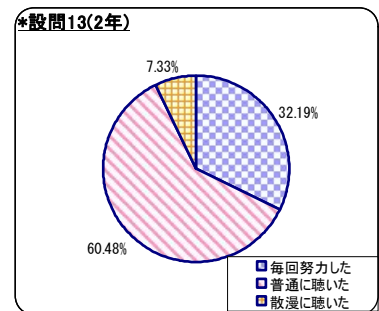
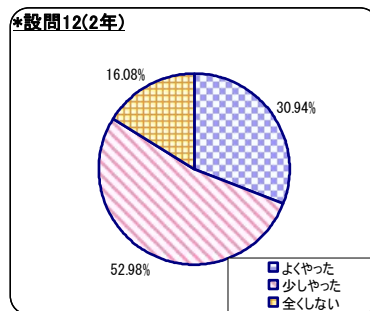
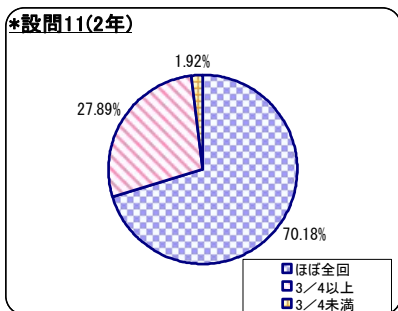
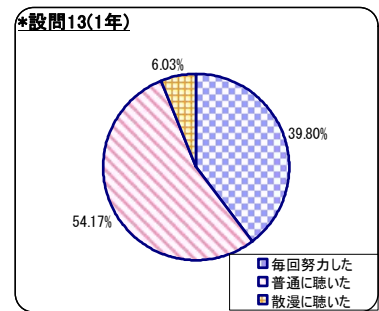
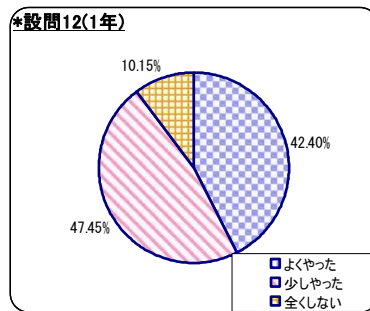
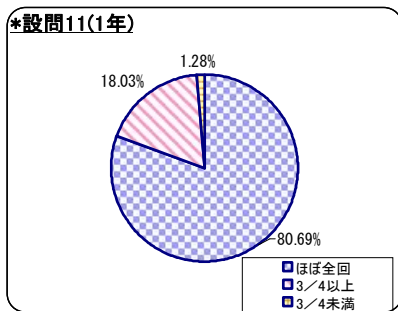


表14 2009年度前期

(講義・演習用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段:回答数/下段:回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
11	授業にどれくらい出席しましたか。	A:ほぼ全回				B:3/4以上				C:3/4未満			
		2,246	2,115	1,869	563	396	633	719	238	39	34	26	12
		83.77	76.02	71.50	69.25	14.77	22.75	27.51	29.27	1.45	1.22	0.99	1.48
12	授業を受けるに当たって、予習や復習(レポート作成を含む)をしましたか。	A:よくやった				B:少しやった				C:全くしない			
		1,062	1,048	889	229	1,236	1,390	1,389	442	379	340	330	139
		39.67	37.72	34.09	28.27	46.17	50.04	53.26	54.57	14.16	12.24	12.65	17.16
13	授業中、教員の話しを理解するよう努力しましたか。	A:毎回努力した				B:普通に聴いた				C:散漫に聴いた			
		1,028	928	889	276	1,462	1,601	1,556	474	179	232	140	58
		38.52	33.61	34.39	34.16	54.78	57.99	60.19	58.66	6.71	8.40	5.42	7.18

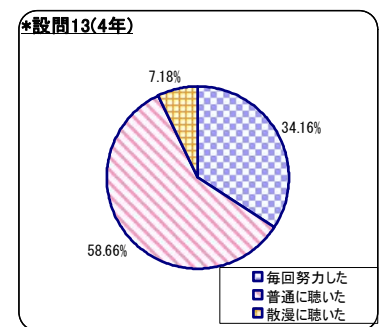
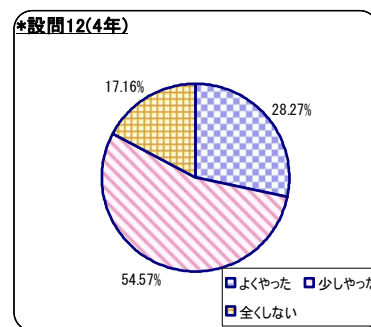
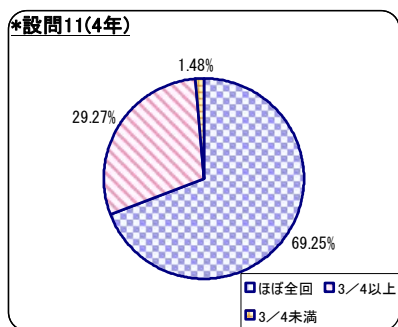
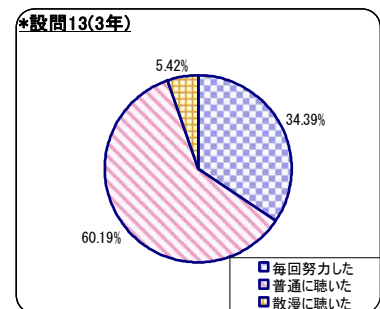
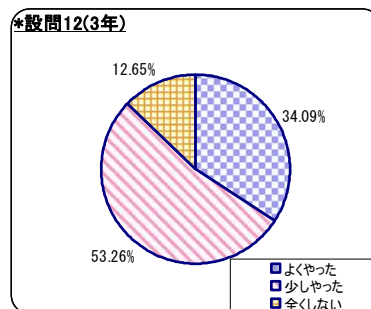
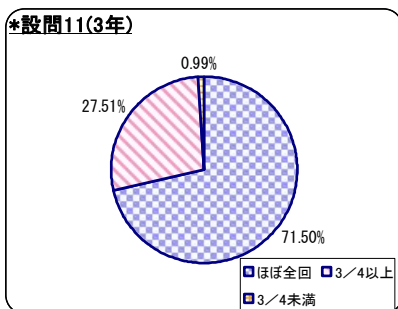
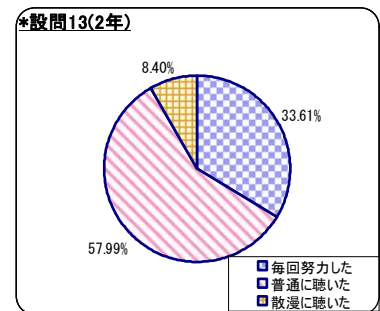
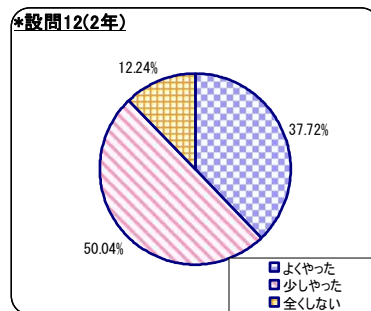
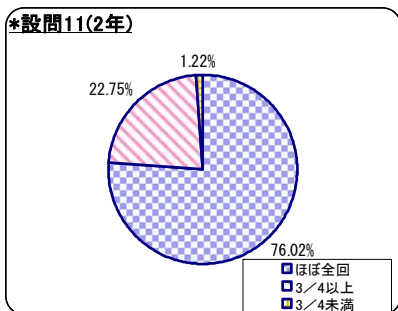
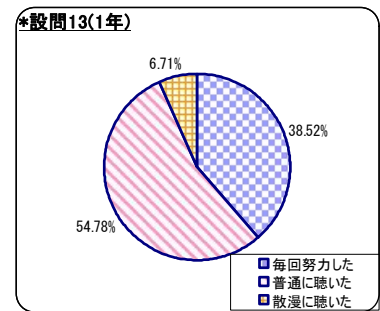
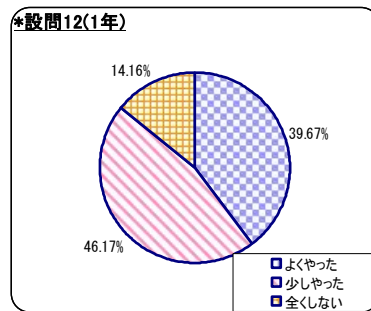
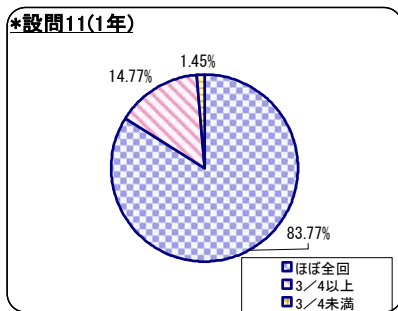


表15 2009年度後期

(講義・演習用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段:回答数/下段:回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
11	授業にどれくらい出席しましたか。	A:ほぼ全回				B:3/4以上				C:3/4未満			
		2,065	1,938	1,441	154	536	670	502	133	23	42	41	7
		78.70	73.13	72.63	52.38	20.43	25.28	25.30	45.24	0.88	1.58	2.07	2.38
12	授業を受けるに当たって、予習や復習(レポート作成を含む)をしましたか。	A:よくやった				B:少しやった				C:全くしない			
		1,081	954	742	71	1,291	1,360	986	180	253	327	253	41
		41.18	36.12	37.46	24.32	49.18	51.50	49.77	61.64	9.64	12.38	12.77	14.04
13	授業中、教員の話しを理解するよう努力しましたか。	A:毎回努力した				B:普通に聴いた				C:散漫に聴いた			
		969	862	751	98	1,476	1,582	1,111	170	162	183	99	22
		37.17	32.81	38.30	33.79	56.62	60.22	56.65	58.62	6.21	6.97	5.05	7.59

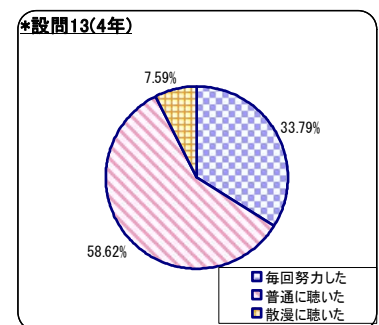
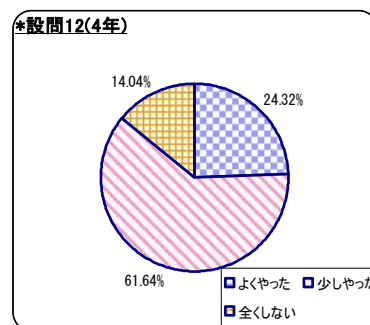
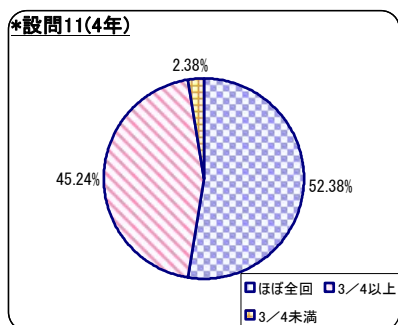
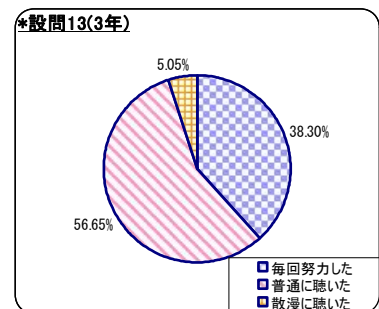
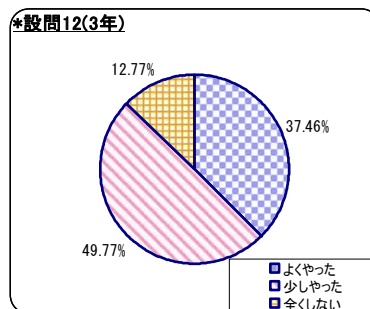
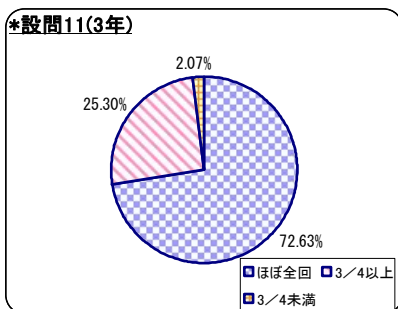
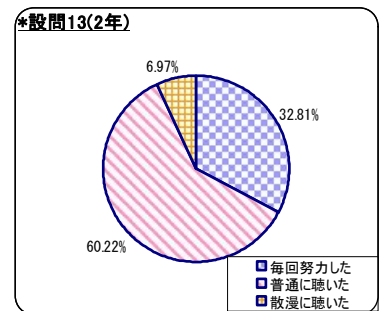
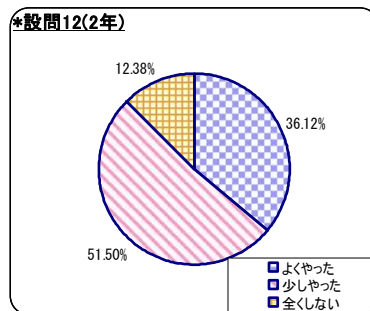
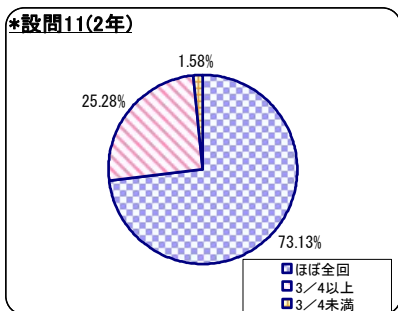
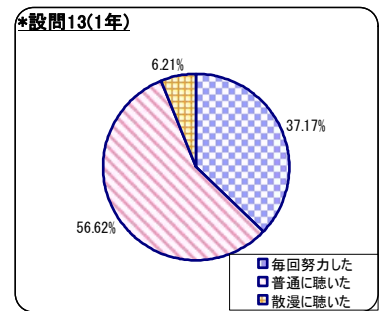
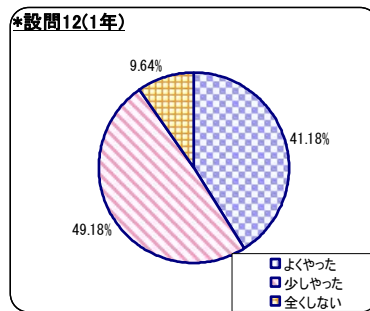
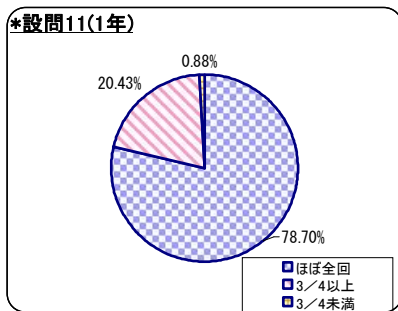


表16 2010年度前期

(講義・演習用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段:回答数/下段:回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
11	授業にどれくらい出席しましたか。	A:ほぼ全回				B:3/4以上				C:3/4未満			
		2,002	2,094	2,005	490	359	668	633	250	36	46	36	13
		83.52	74.57	74.98	65.07	14.98	23.79	23.67	33.20	1.50	1.64	1.35	1.73
12	授業を受けるに当たって、予習や復習(レポート作成を含む)をしましたか。	A:よくやった				B:少しやった				C:全くしない			
		941	1,107	1,053	275	1,090	1,371	1,337	371	360	322	270	103
		39.36	39.54	39.59	36.72	45.59	48.96	50.26	49.53	15.06	11.50	10.15	13.75
13	授業中、教員の話しを理解するよう努力しましたか。	A:毎回努力した				B:普通に聴いた				C:散漫に聴いた			
		942	981	968	272	1,294	1,596	1,526	428	150	199	161	47
		39.48	35.34	36.46	36.41	54.23	57.49	57.48	57.30	6.29	7.17	6.06	6.29

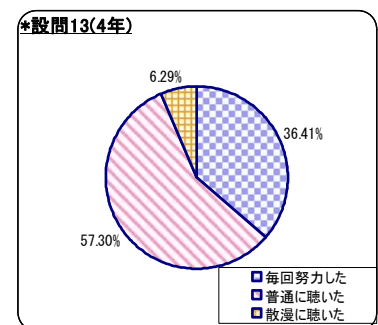
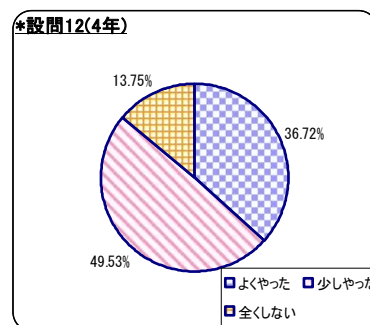
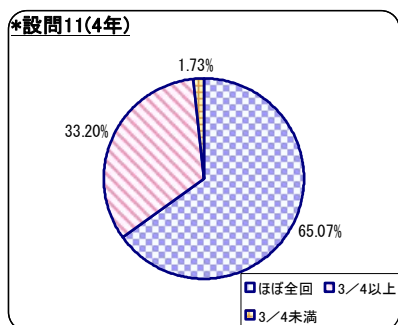
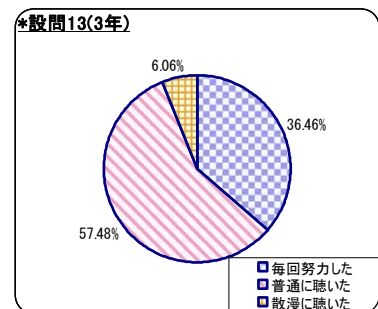
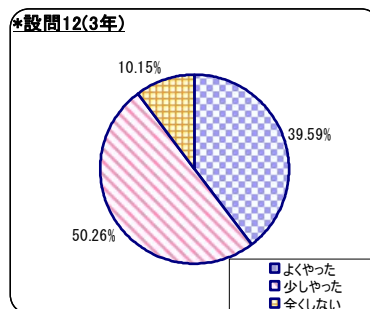
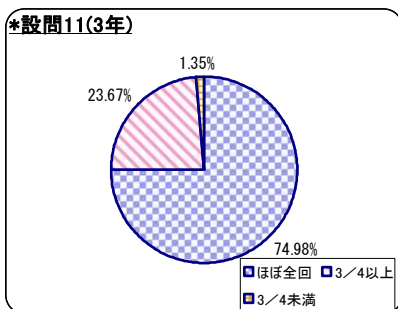
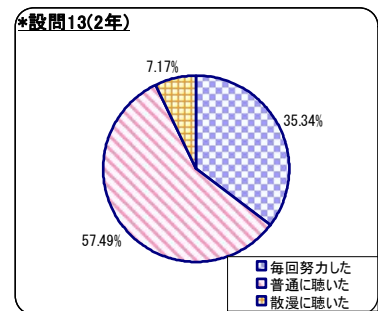
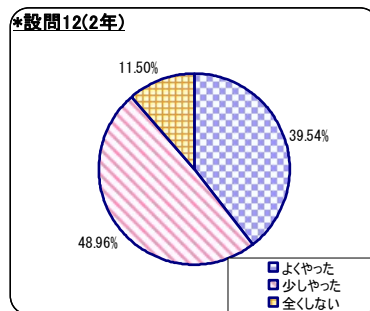
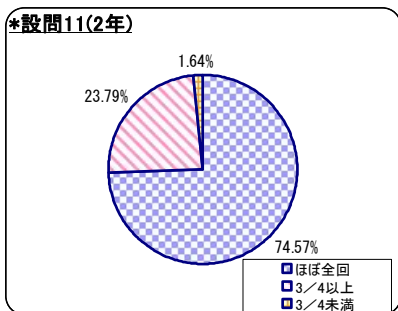
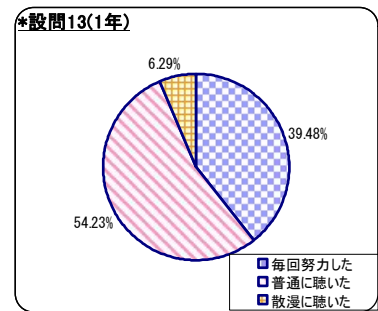
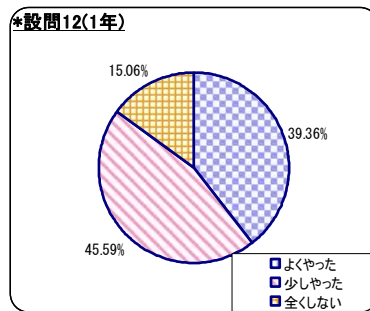
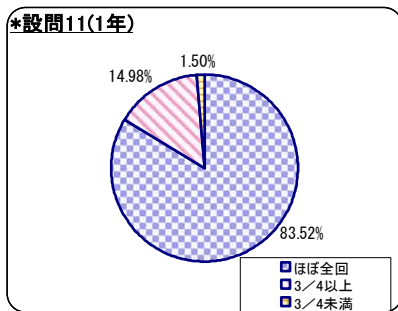


表17 2010年度後期

(講義・演習用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段:回答数/下段:回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
11	授業にどれくらい出席しましたか。	A:ほぼ全回				B:3/4以上				C:3/4未満			
		2,011	1,905	1,423	162	573	684	497	118	41	31	18	7
		76.61	72.71	73.43	56.45	21.83	26.11	25.64	41.11	1.56	1.18	0.93	2.44
12	授業を受けるに当たって、予習や復習(レポート作成を含む)をしましたか。	A:よくやった				B:少しやった				C:全くしない			
		1,106	928	822	93	1,226	1,416	942	161	289	274	170	33
		42.20	35.45	42.50	32.40	46.78	54.09	48.71	56.10	11.03	10.47	8.79	11.50
13	授業中、教員の話しを理解するよう努力しましたか。	A:毎回努力した				B:普通に聴いた				C:散漫に聴いた			
		1,030	828	772	109	1,448	1,624	1,069	168	121	145	85	9
		39.63	31.88	40.08	38.11	55.71	62.53	55.50	58.74	4.66	5.58	4.41	3.15

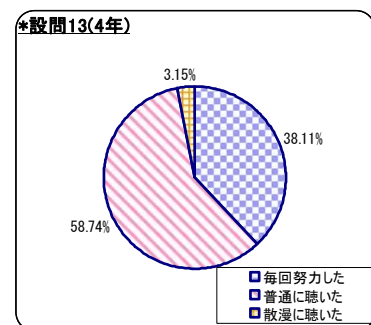
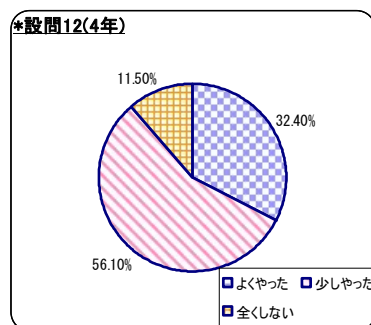
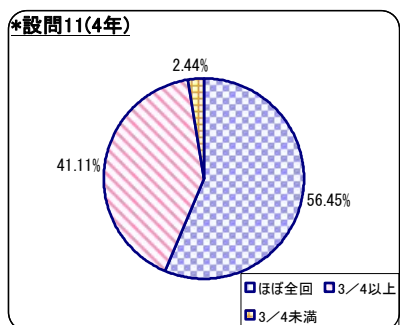
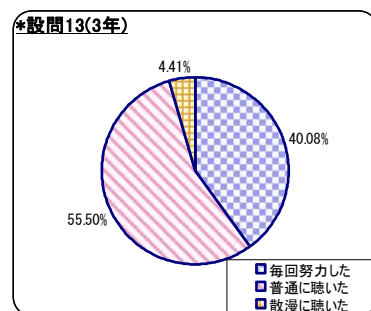
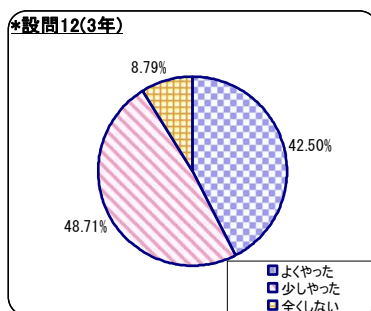
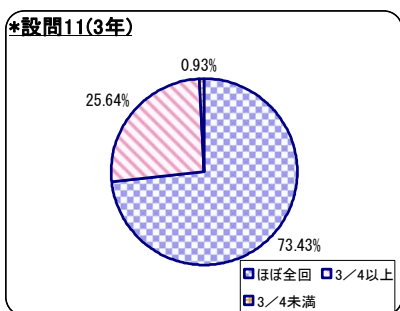
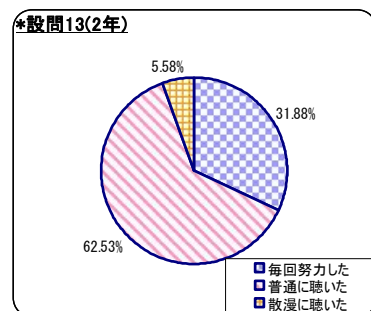
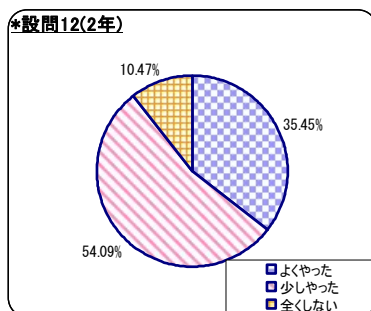
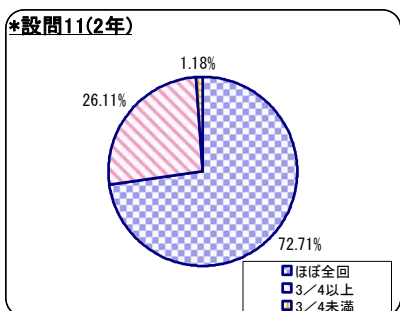
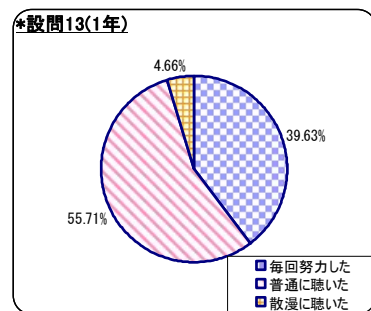
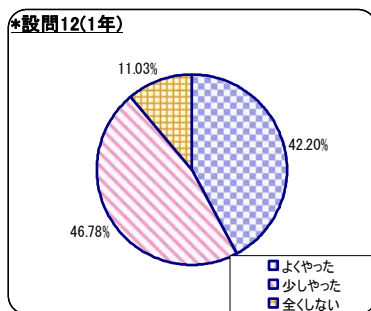
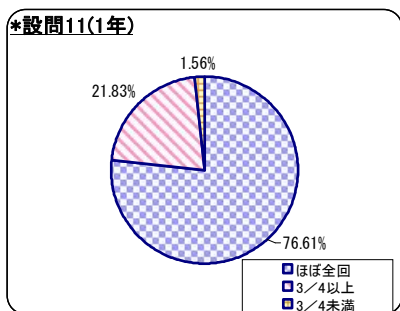


表18 2007年度前期

(実験用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段: 回答数 / 下段: 回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
12	この実験1回当たり、予習・復習・レポートに費やした時間はどのくらいですか	A: 6時間以上				B: 2~6時間				C: 2時間未満			
		141	136	222	9	137	94	98	5	12	45	12	1
		48.62	49.45	66.87	60.00	47.24	34.18	29.52	33.33	4.14	16.36	3.61	6.67
13	実験に集中できましたか。実験の意味を考えながら行うように努力しましたか	A: 毎回努力した				B: 普通に実験した				C: 散漫に実験した			
		101	139	163	11	183	119	167	4	8	14	3	0
		34.59	51.10	48.95	73.33	62.67	43.75	50.15	26.67	2.74	5.15	0.90	0.00

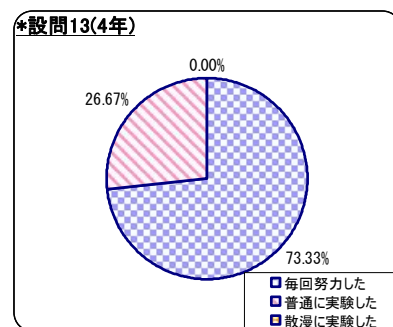
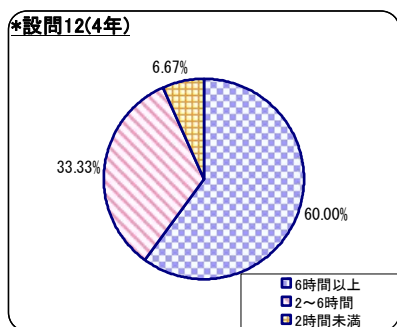
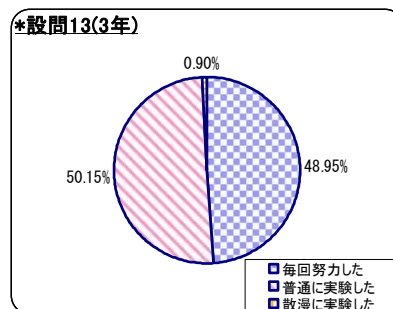
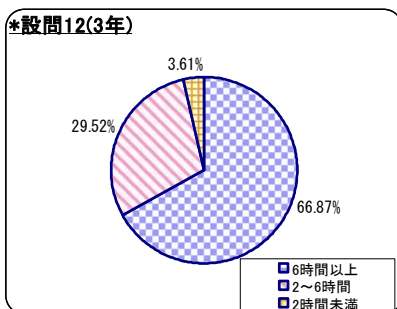
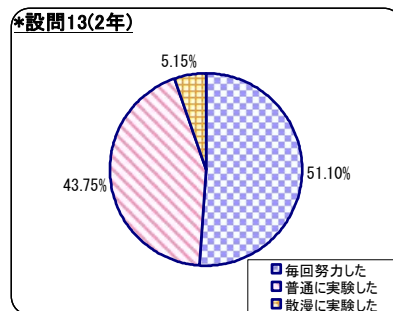
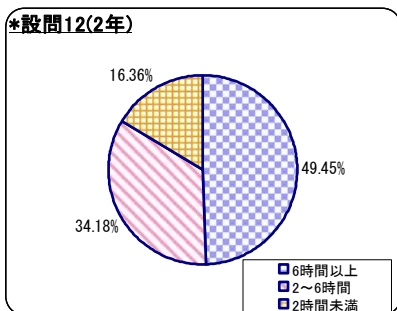
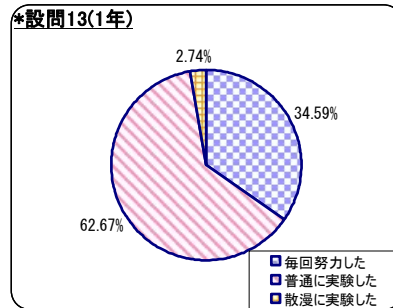
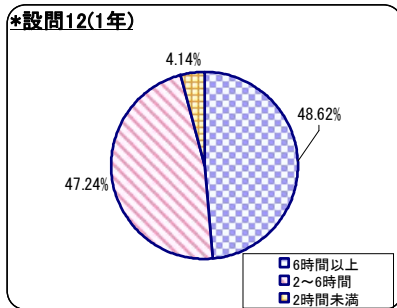


表19 2007年度後期

(実験用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段: 回答数 / 下段: 回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
12	この実験1回当たり、予習・復習・レポートに費やした時間はどのくらいですか	A: 6時間以上				B: 2~6時間				C: 2時間未満			
			208	190	6		62	78	0		8	33	0
			74.82	63.12	####		22.30	25.91	0.00		2.88	10.96	0.00
13	実験に集中できましたか。実験の意味を考えながら行うように努力しましたか	A: 毎回努力した				B: 普通に実験した				C: 散漫に実験した			
			138	175	4		136	120	2		3	6	0
			49.82	58.14	66.67		49.10	39.87	33.33		1.08	1.99	0.00

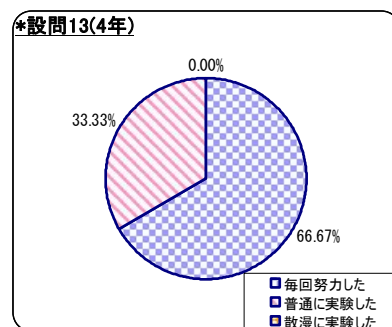
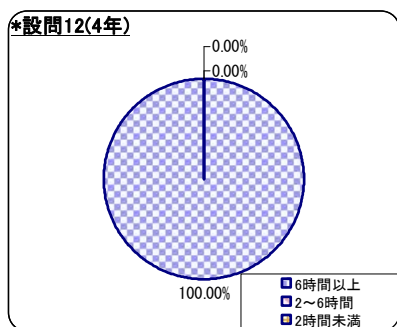
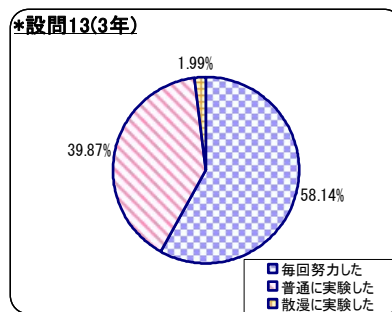
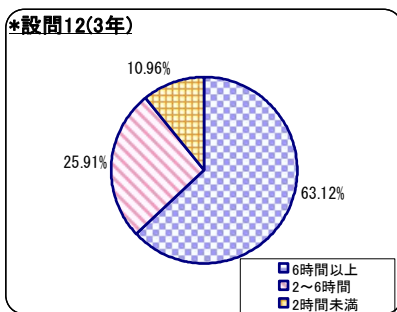
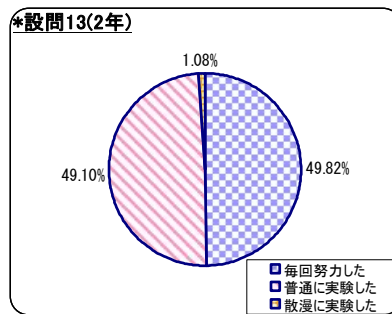
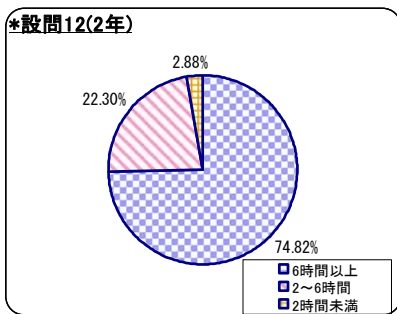
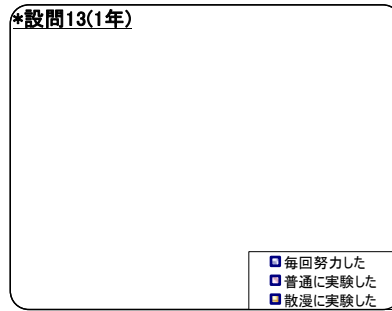
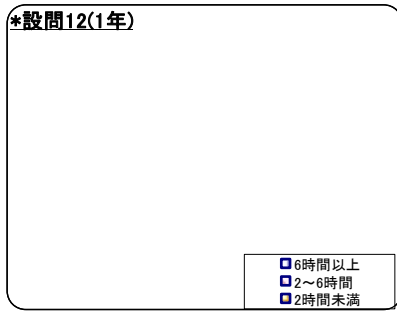


表20 2008年度前期

(実験用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段: 回答数 / 下段: 回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
12	この実験1回当たり、予習・復習・レポートに費やした時間はどのくらいですか	A: 6時間以上				B: 2~6時間				C: 2時間未満			
		163	116	180	5	101	115	96	3	15	44	8	0
		58.42	42.18	63.38	62.50	36.20	41.82	33.80	37.50	5.38	16.00	2.82	0.00
13	実験に集中できましたか。実験の意味を考えながら行うように努力しましたか	A: 毎回努力した				B: 普通に実験した				C: 散漫に実験した			
		120	114	143	4	149	144	140	4	8	15	3	0
		43.32	41.76	50.00	50.00	53.79	52.75	48.95	50.00	2.89	5.49	1.05	0.00

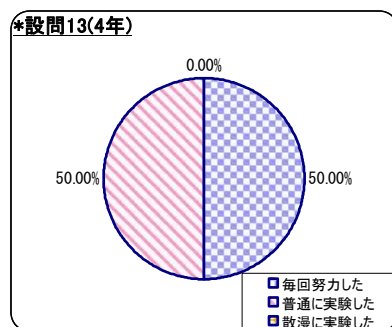
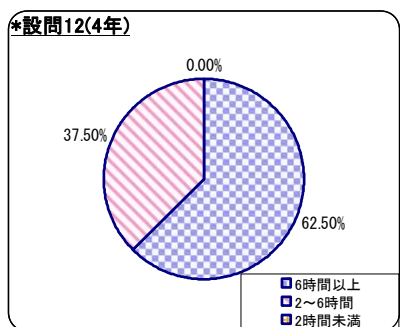
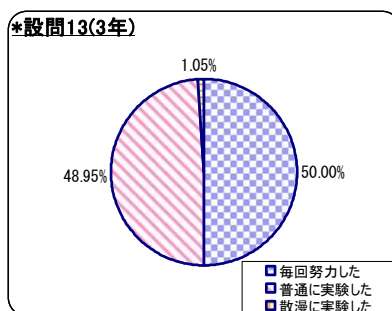
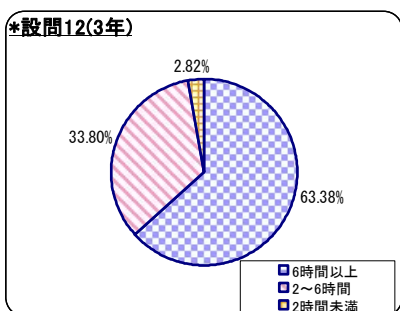
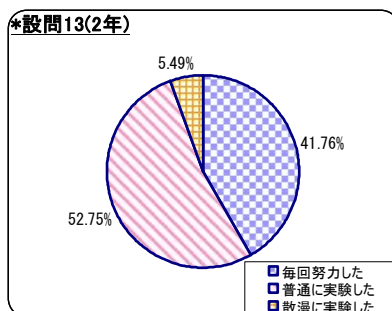
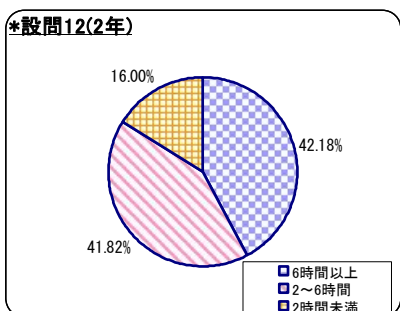
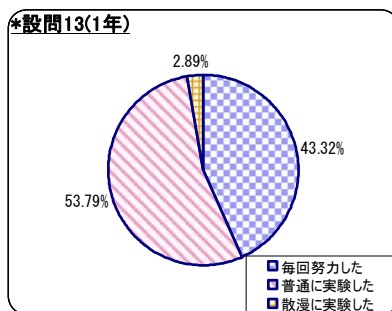
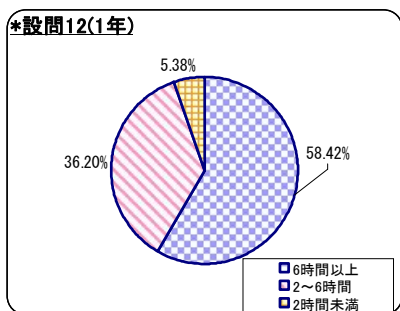


表21 2008年度後期

(実験用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段: 回答数 / 下段: 回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
12	この実験1回当たり、予習・復習・レポートに費やした時間はどのくらいですか	A: 6時間以上				B: 2~6時間未満				C: 2時間未満			
			194	166	3		70	70	3		12	31	1
			70.29	62.17	42.86		25.36	26.22	42.86		4.35	11.61	14.29
13	実験に集中できましたか。実験の意味を考えながら行うように努力しましたか	A: 毎回努力した				B: 普通に実験した				C: 散漫に実験した			
			130	160	1		145	105	6		1	3	0
			47.10	59.70	14.29		52.54	39.18	85.71		0.36	1.12	0.00

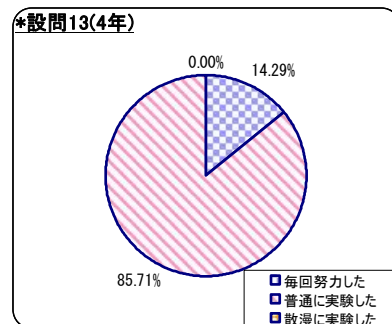
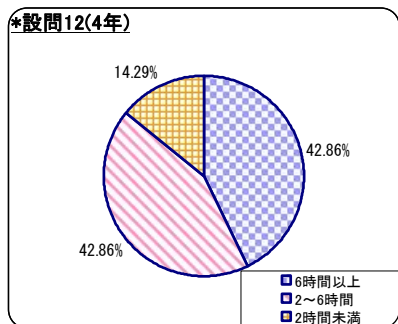
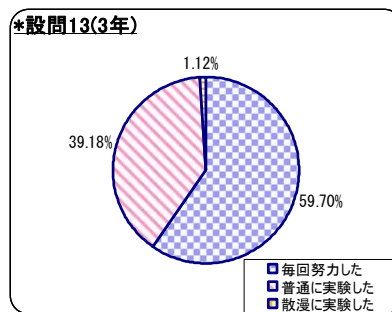
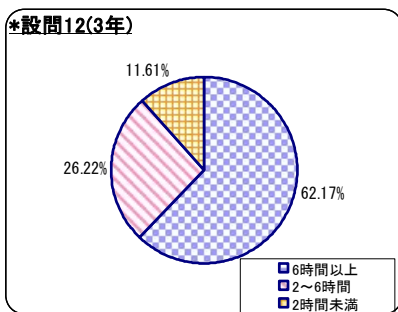
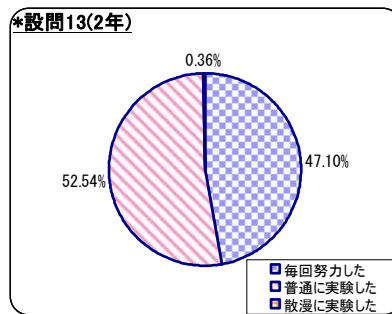
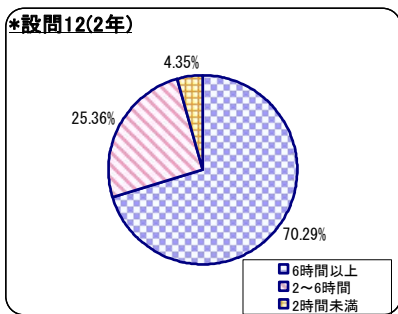
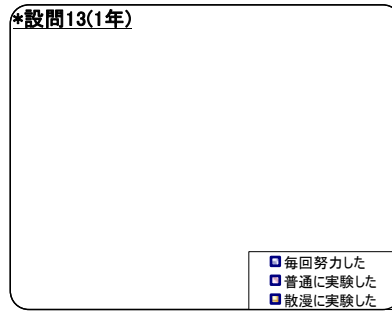
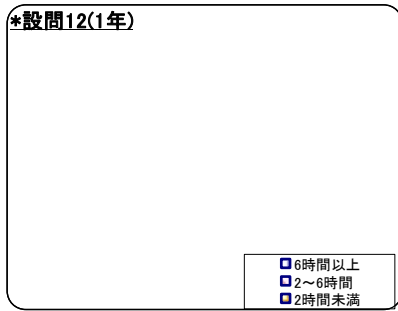


表22 2009年度前期

(実験用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段: 回答数 / 下段: 回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
12	この実験1回当たり、予習・復習・レポートに費やした時間はどのくらいですか	A: 6時間以上				B: 2~6時間未満				C: 2時間未満			
		14	141	222	10	9	54	128	2	1	6	3	1
		58.33	70.15	62.89	76.92	37.50	26.87	36.26	15.38	4.17	2.99	0.85	7.69
13	実験に集中できましたか。実験の意味を考えながら行うように努力しましたか	A: 毎回努力した				B: 普通に実験した				C: 散漫に実験した			
		9	131	181	8	15	68	168	4	0	3	5	1
		37.50	64.85	51.13	61.54	62.50	33.66	47.46	30.77	0.00	1.49	1.41	7.69

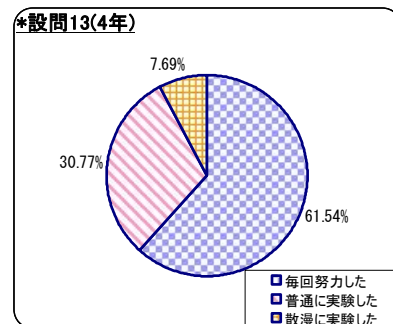
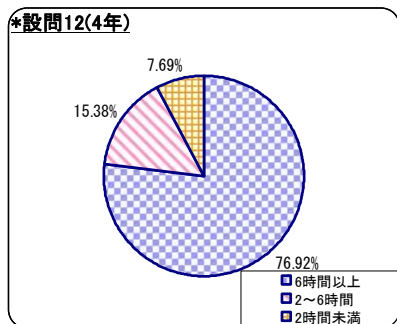
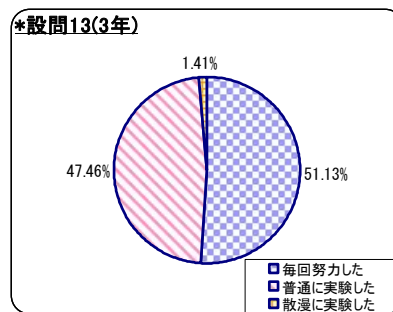
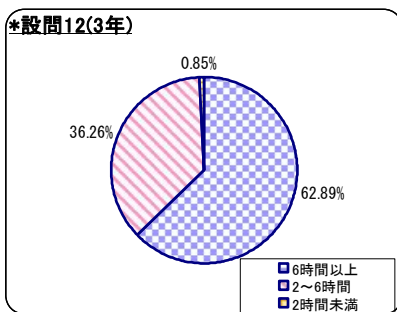
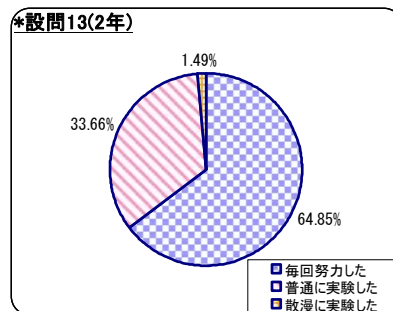
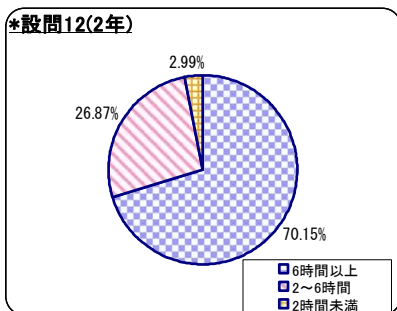
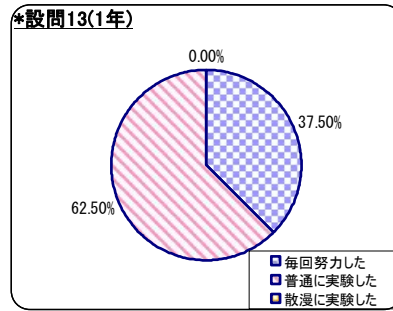
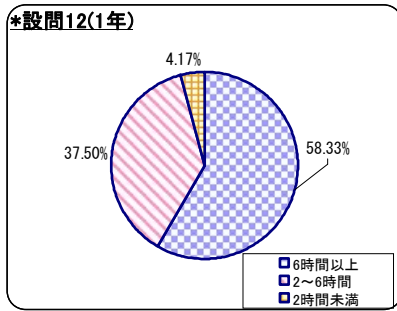


表23 2009年度後期

(実験用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段: 回答数 / 下段: 回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
12	この実験1回当たり、予習・復習・レポートに費やした時間はどのくらいですか	A: 6時間以上				B: 2~6時間未満				C: 2時間未満			
		1	213	166	5	0	57	65	3	0	10	16	0
		100.0	76.07	67.21	62.50	0.00	20.36	26.32	37.50	0.00	3.57	6.48	0.00
13	実験に集中できましたか。実験の意味を考えながら行うように努力しましたか	A: 毎回努力した				B: 普通に実験した				C: 散漫に実験した			
		1	161	164	4	0	111	81	3	0	6	0	0
		100.0	57.91	66.94	57.14	0.00	39.93	33.06	42.86	0.00	2.16	0.00	0.00

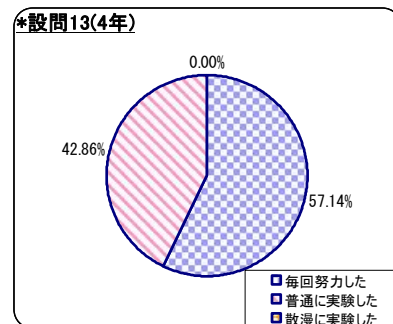
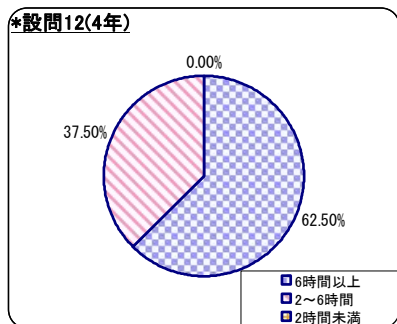
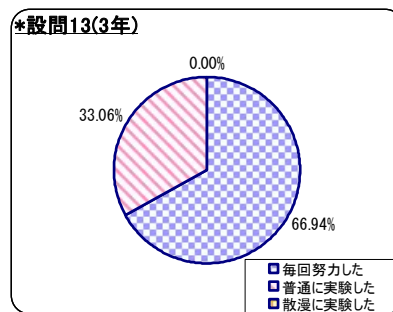
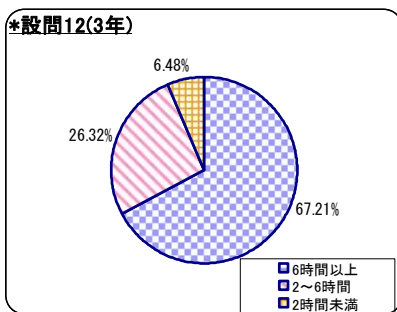
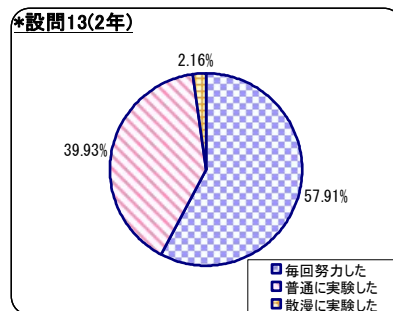
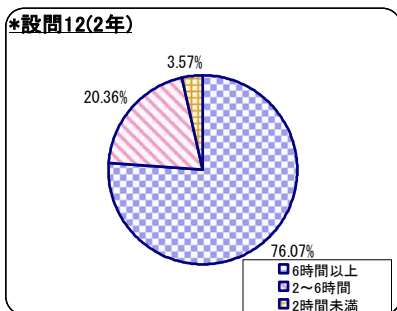
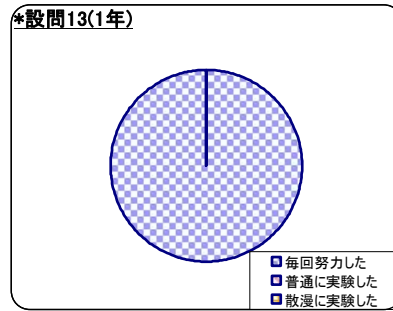
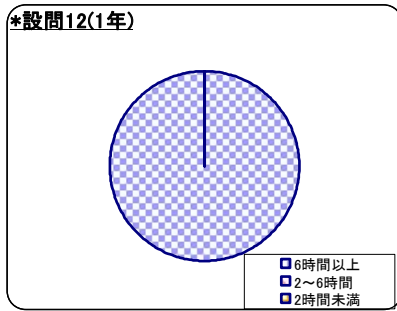


表24 2010年度前期

(実験用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段: 回答数 / 下段: 回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
12	この実験1回当たり、予習・復習・レポートに費やした時間はどのくらいですか	A: 6時間以上				B: 2~6時間未満				C: 2時間未満			
			99	230	10		55	111	1		3	7	0
			63.06	66.09	90.91		35.03	31.90	9.09		1.91	2.01	0.00
13	実験に集中できましたか。実験の意味を考えながら行うように努力しましたか	A: 毎回努力した				B: 普通に実験した				C: 散漫に実験した			
			106	200	6		50	144	5		1	6	0
			67.52	57.14	54.55		31.85	41.14	45.45		0.64	1.71	0.00

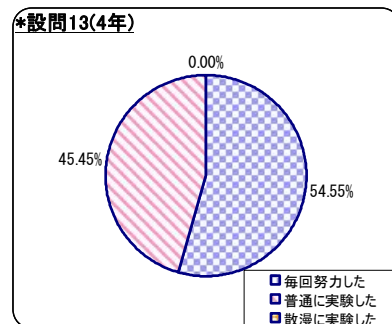
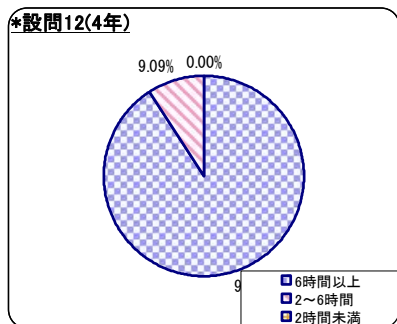
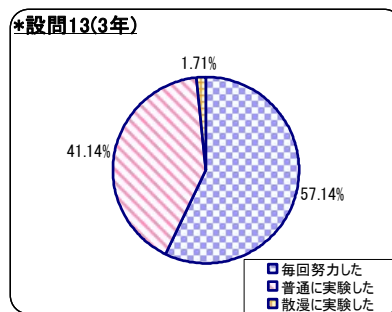
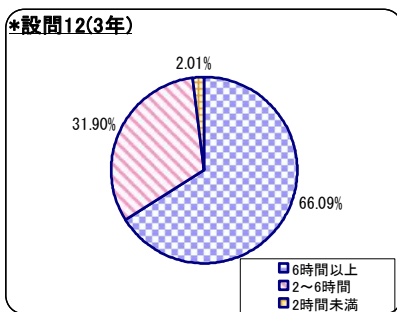
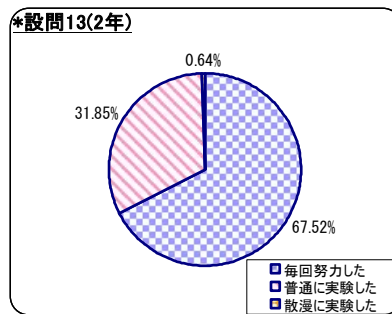
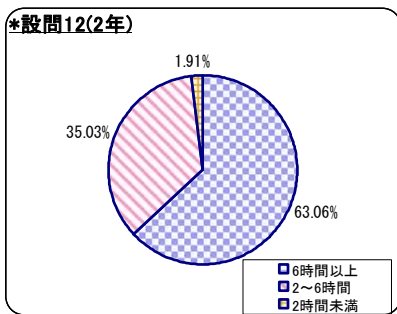
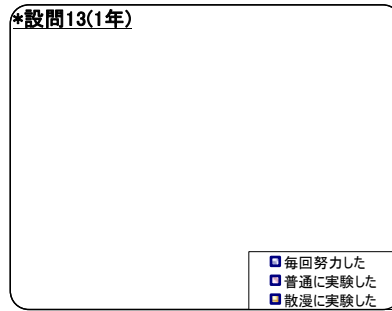
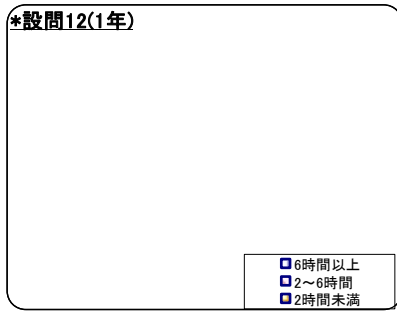
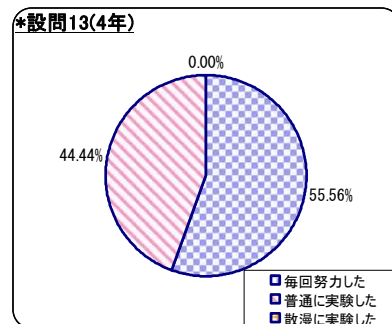
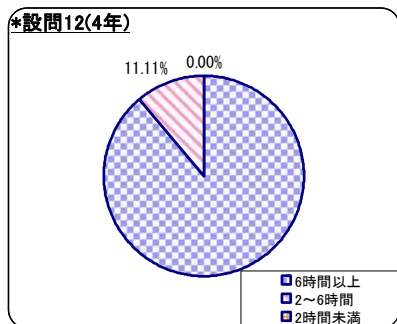
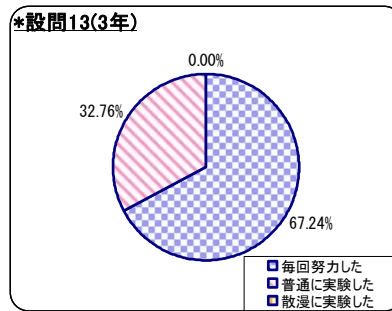
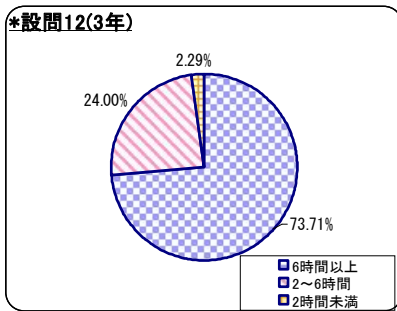
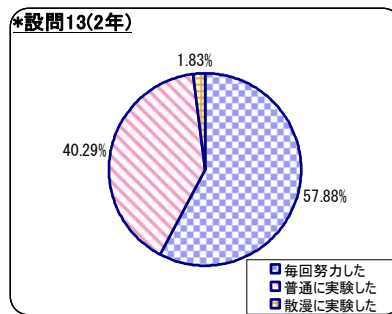
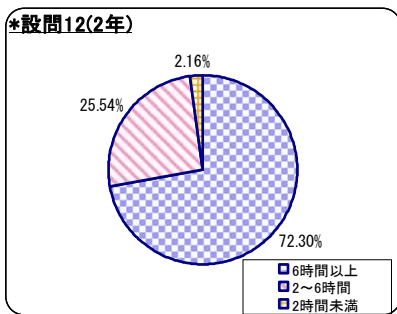
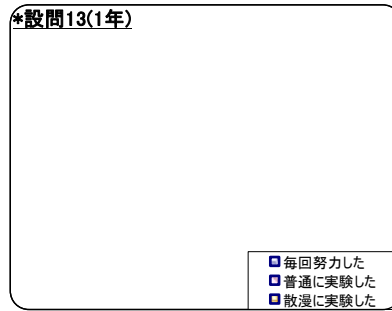
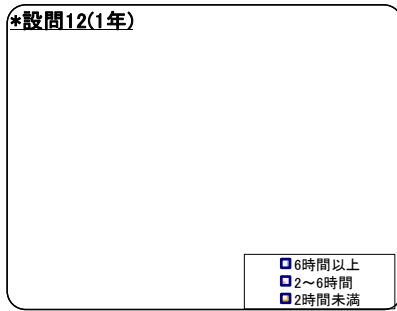


表25 2010年度後期

(実験用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段: 回答数 / 下段: 回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
12	この実験1回当たり、予習・復習・レポートに費やした時間はどのくらいですか	A: 6時間以上				B: 2~6時間未満				C: 2時間未満			
			201	129	8		71	42	1		6	4	0
			72.30	73.71	88.89		25.54	24.00	11.11		2.16	2.29	0.00
13	実験に集中できましたか。実験の意味を考えながら行うように努力しましたか	A: 毎回努力した				B: 普通に実験した				C: 散漫に実験した			
			158	117	5		110	57	4		5	0	0
			57.88	67.24	55.56		40.29	32.76	44.44		1.83	0.00	0.00



VI. 授業評価結果のフィードバックの取り組み

学生による授業評価を授業の改善に反映させるために、以下のような取り組みを行なっている。

(1) 授業評価結果の開示

2005年度に、授業評価結果の教員向け開示を学科単位で実施することをFD部会で決定し、現在すべての学科で各科目の授業評価結果が閲覧できるようにしている。

(2) 授業評価結果への対応の公開

2010年度より、シラバスに「学生へのメッセージ(授業評価結果への対応)」欄が設けられた。これにとともに、前年度の授業評価結果に対応して今年度の授業をどのように改善するかを、全教員がシラバス上で明示することをFD部会で申し合わせた。

(3) 公開シンポジウムの開催

FD部会は、教員の授業改善に資することを目的として、下記の公開FDシンポジウムを平成19～22年度において開催してきた(資料5-1～5-4)。

- 2007年度 学生のメンタルケア
- 2008年度 留年率の縮小を目指して
- 2009年度 大学院への進学率を考える
- 2010年度 よい講義について考える

このうち、2010年度のシンポジウムでは、2007年度から実施している教員相互の授業参観(オープンクラス：資料6-1～6.6)についての議論を、あらかじめアンケート(資料6-7)により聴取した各教員の意見に基づいて行なった。オープンクラスは他の教員の授業を参観することによって参考にできる点を自らの授業に取り入れること、および他の教員に参観してもらい、自分の授業に対しての率直な意見を受けることによって、授業の改善につなげることを目的としている。2010年度までは、一部の学科では参観対象授業を指定して実施しているが、2011年度からは非常勤講師の授業も含め、実験を除くすべての授業を参観対象とすることを申し合わせている。オープンクラスについてのアンケート結果をまとめたものを資料6-8に示す。回答総数は多くなかったが、多くの教員がオープンクラスは授業改善に有用であり、続けるべきであると答えている。一部の評価項目についての、2007年度から2010年度にかけての評価結果の推移を図4に示す。いずれも、4年間を通して評価が高くなってきており、授業評価の定着とオープンクラスの実施が授業改善につながっていることがうかがえる。

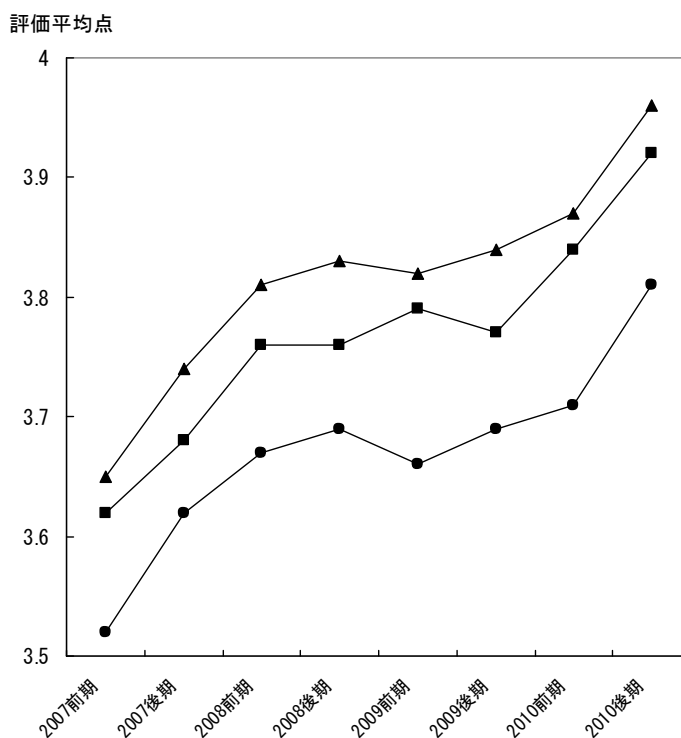


図4 2007～2010年度の授業評価の推移

- ▲ :項目5 教員は、授業の内容に対するあなたの興味や関心を引き出しましたか)
- :項目7 教員の話し方、板書の書き方、PCプロジェクタ、ビデオなどの機器の利用の仕方は、適切でしたか)
- :項目10 授業は、上記の項目も含め総合的に判断して、満足できるものでしたか)

(4)ベストレクチャー賞の設置

教員の授業改善への取り組みを奨励することを目的とし、2007年度に定めた工学部・教員研修（FD）ガイドライン（資料 7-1）の「授業技能優秀者の表彰に関する指針」にもとづいて、優れた授業技能を有する教員に「ベストレクチャー賞」を授与している。受賞者の選考は「学生による授業評価」を考慮した選考基準の下に FD 部会が行い、工学部長に推薦している（資料 7-2）。

付録資料

1. 学生による授業評価調査用紙

資料 1-1

学生による授業評価調査用紙：講義・演習用

埼玉大学

担当教員名	講義番号	科目名

この調査は、学生の皆さんから授業に関する意見を聴いて、授業内容をよりよくするために行うものです。成績評価には全く関係ありませんので、率直な意見を回答してください。

※あなたの在籍学年にマークしてください。
 ※留年生及び科目等履修生は最終年にマークしてください。
 ※特殊教育特別専攻科の学生は修士1年にマークしてください。

学部生	1年	2年	3年	4年	修士	1年	2年
	①	②	③	④		①	②

記入上の注意

- 必ずHBの黒鉛筆で、丁寧に塗りつぶすこと。
- 訂正する場合は、消しゴムできれいに消すこと。
- 用紙を汚したり、折り曲げないこと。

良い例 悪い例

I 講義・演習評価

分類	No.	評価項目	評価		
授業について	1	授業の目標・全体構成が、シラバス（講義概要）からよく理解できましたか。	← 理解できた	← ① ② ③ ④ ⑤	→ そうは言えない →
	2	教材（教科書、プリント、板書、プロジェクタ画面など）の内容は、学習効果を上げるために適切なものとなっていましたか。	← 適切なものとなっていた	← ① ② ③ ④ ⑤	→ そうは言えない →
	3	授業中に出された課題（レポート、演習問題、小テストなど）は、授業の主要な目標や目的とうまく合致していましたか。	← 合致した	← ① ② ③ ④ ⑤	→ そうは言えない →
	4	授業は、あなたの思考力を養うため、あるいは専門知識を高めるうえで役立ちましたか。	← 役立った	← ① ② ③ ④ ⑤	→ そうは言えない →
教員について	5	教員は、授業の内容に対するあなたの興味や関心を引き出しましたか。	← 興味・関心を引き出した	← ① ② ③ ④ ⑤	→ そうは言えない →
	6	教員は、授業に対して十分な熱意を持って講義していましたか。	← 熱意をもって講義をしていた	← ① ② ③ ④ ⑤	→ そうは言えない →
	7	教員の話し方、板書の書き方、P.Cプロジェクタ、ビデオなどの機器の利用の仕方は、適切でしたか。	← 適切だった	← ① ② ③ ④ ⑤	→ そうは言えない →
	8	教員は、授業を授業時間どおり行いましたか。	← 時間どおり行った	← ① ② ③ ④ ⑤	→ そうは言えない →
	9	教員は、授業への学生の参加（質問、発言）を促し、あなたの質問に対して、あなたが分かるように答えましたか。	← 参加を促し、分かるように答えた	← ① ② ③ ④ ⑤	→ そうは言えない →
授業全体について	10	授業は、上記の項目も含め総合的に判断して、満足できるものでしたか。	← 満足できる	← ① ② ③ ④ ⑤	→ そうは言えない →
あなた自身について	11	授業にどれくらい出席しましたか。	ほぼ全回	3/4以上	3/4未満
	12	授業を受けるに当たって、予習や復習（レポート作成を含む）をしましたか。	よくやった	少しやった	全くしない
	13	授業中、教員の話を理解するよう努力しましたか。	毎回努力した	普通に聴いた	散漫に聴いた
	14	*予備欄	←	← ① ② ③ ④ ⑤	→
	15	*予備欄	←	← ① ② ③ ④ ⑤	→

*予備欄は、各学部専攻の各評価項目がある場合に使用

II その他 次の各項目等について、自由記入欄に記入してください。

- この授業に対する希望や感想等、授業をよりよいものにするための意見など。
- この授業を理解するうえで、学年、前後期の時期、他の科目との関係などは適切であったかどうか。

自由記入欄

.....

.....

.....

.....

学生による授業評価調査用紙：実験用

埼玉大学

担当 教員 当名	講番 義号	科目 名
----------------	----------	---------

この調査は、学生の皆さんから授業に関する意見を聴いて、授業内容をよりよくするために行うものです。成績評価には全く関係ありませんので、率直な意見を回答してください。

※あなたの在籍学年にマークしてください。
 ※留年生及び科目等履修生は最終年にマークしてください。
 ※特殊教育特別専攻科の学生は修士1年にマークしてください。

学部生	1年 ①	2年 ②	3年 ③	4年 ④	修士	1年 ①	2年 ②
-----	---------	---------	---------	---------	----	---------	---------

記入上の注意

- ・必ずHBの黒鉛筆で、丁寧に塗りつぶすこと。
- ・訂正する場合は、消しゴムできれいに消すこと。
- ・用紙を汚したり、折り曲げないこと。



I 実験評価等

分類	No.	評価項目	評価		
実験について	1	実験の全体構成と各項目の意義と目的が、シラバスからよく理解できましたか。	← 理解できた (A) (B) (C)	(D) (E)	→ そうは言えない
	2	各実験項目は、講義との関係や実験技術習得及び原理の理解などに十分配慮して選択されていましたか。	← 十分配慮して選択されている (A) (B) (C)	(D) (E)	→ そうは言えない
	3	テキストは実験を通じた学習の効果を上げるために、適切なものになっていましたか。	← 適切なものだった (A) (B) (C)	(D) (E)	→ そうは言えない
	4	実験は、あなたの思考力を養うため、あるいは専門知識を高めるうえで役立ちましたか。	← 役立った (A) (B) (C)	(D) (E)	→ そうは言えない
設備等について	5	実験機器や設備は十分整備されていましたか。また、人数分に見合った機器が用意され、維持管理は適切になされていましたか。	← 適切になされている (A) (B) (C)	(D) (E)	→ そうは言えない
	6	化学物質、電気、機械類、重量物などを取り扱う際、安全管理面への配慮は十分になされていましたか。	← 十分になされている (A) (B) (C)	(D) (E)	→ そうは言えない
教員等について	7	担当のスタッフ（教員、技術職員、TAなど）は、実験の指導に十分な時間を費やし、きめ細かな指導をしましたか。	← きめ細かな指導をした (A) (B) (C)	(D) (E)	→ そうは言えない
	8	器具の取り扱い、機器の使用法、実験操作法など実験操作技術に関する指導は十分でしたか。	← 十分であった (A) (B) (C)	(D) (E)	→ そうは言えない
レポートについて	9	レポート課題は適切に選択されていましたか。内容の深い理解の助けになり、考える力を養う上で役立つものになっていましたか。	← 役立つものになっていた (A) (B) (C)	(D) (E)	→ そうは言えない
	10	データの整理、レポートの書き方、また、不備なレポートの再提出や、返却されたレポートへコメント記入など、十分な指導がありましたか。	← 十分な指導があった (A) (B) (C)	(D) (E)	→ そうは言えない
実験全体について	11	実験は、上記の項目も含め総合的に判断して、満足できるものでしたか。	← 満足できる (A) (B) (C)	(D) (E)	→ そうは言えない
あなた自身について	12	この実験1回当たり、予習・復習・レポートに費やした時間ほどのくらいですか。	6時間以上 (A)	2～6時間未満 (B)	2時間未満 (C)
	13	実験に集中できましたか。実験の意味を考えながら行うように努力しましたか。	毎回努力した (A)	普通に実験した (B)	放棄に実験した (C)
	14	*予備欄	←	(A) (B) (C) (D) (E)	→
	15	*予備欄	←	(A) (B) (C) (D) (E)	→

*予備欄は、各学部等独自の評価項目がある場合に使用

II その他 次の各項目等について、自由記入欄に記入してください。

1. この実験に対する希望や感想等、実験をよりよいものにするための意見など。
2. この実験を理解するうえで、学年、前後期の時期、他の科目との関係などは適切であったかどうか。

自由記入欄

2. 「学生による授業評価調査」実施要項

資料 2-1

平成19年度前期「学生による授業評価」調査実施要項

平成19年6月12日
全学教育企画室

1. 目的

学生による授業評価を実施し、授業内容の改善に資するとともに、大学教育の質の保証を図ることを目的とする。

2. 対象及び時期

- (1) 全学共通のフォーマット（マークシート方式）により、学生による授業評価を実施する。
- (2) 対象となる授業は、大学院博士後期課程の授業を除き、前期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を除く。）とする。ただし、10人以下の少人数の授業については、学部等の判断により実施するか否かを決定する。
- (3) 実施する時期は、平成19年7月9日（月）から7月30日（月）の間とする。

3. 実施方法

- (1) 学生による授業評価は無記名とする。
- (2) 各学部等から、授業科目名、講義番号、教員名、受講生数、調査用紙記入枚数及び講義・演習又は実験の区分が付記された角2の糊付き封筒（調査用紙封入済み）を、担当教員に配付する。
- (3) 調査を実施する授業にあつては、上記期間中のいずれかの授業時に、教員が受講生に調査用紙を配付し、記入に必要な時間（15分位）を設けて、行なうものとする。
- (4) 調査用紙の配付に先立ち、教員は講義番号、授業科目名及び教員名（姓名とも）を板書する。また、調査用紙は、鉛筆又はシャープペンで記入させる。
- (5) 評価項目のうち調査しない項目又は予備欄を使用する場合は、教員自身の判断ではなく、部局単位で実施するので部局等からの指示を受ける。ただし、教育学部及び教養教育（共通教育を含む。）で行われる実技科目については、調査しない項目又は予備欄の使用は教員自身の判断により決定する。
- (6) 教員は、受講生に次のように伝える。
「調査用紙の記入内容は、自由記入欄の記載事項も含め集計データとして教員に通知されるので、調査用紙自体を教員が見ることはありません。」

(7) 教員は、当該授業について、調査用紙の回収を依頼する受講生を（大人数講義の場合は複数名）指名する。指名した受講生への依頼内容は、下記(8)のとおり。

教員は、学生が記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をするところまでを見届けることとする。

(8) 回収を担当する受講生への依頼内容

① 記入済みの調査用紙の枚数を数え、封筒の「回答者数」欄に人数を鉛筆又はシャープペンで記入する。

② 記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をする。

③ 記入済み調査用紙の封入された封筒と、未使用の調査用紙を担当学部学務係又は全学教育課教養教育係へ直ちに提出する。

4. その他

(1) 自由記入欄への記載内容を含め、評価結果は集計して、当該担当教員に配付する。

(2) 調査用紙は、当該担当教員に戻さない。

以上

平成19年度後期「学生による授業評価」調査実施要項

平成19年11月20日

全学教育企画室

1. 目的

学生による授業評価を実施し、授業内容の改善に資するとともに、大学教育の質の保証を図ることを目的とする。

2. 対象及び時期

- (1) 全学共通のフォーマット（マークシート方式）により、学生による授業評価を実施する。
- (2) 対象となる授業は、大学院博士後期課程の授業を除き、後期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を含む。）とする。ただし、10人以下の少人数の授業については、学部等の判断により実施するか否かを決定する。
- (3) 実施する時期は、平成20年1月17日（木）から2月6日（水）の間とする。

3. 実施方法

- (1) 学生による授業評価は無記名とする。
- (2) 各学部等から、授業科目名、講義番号、教員名、受講生数、調査用紙記入枚数及び講義・演習又は実験の区分が付記された角2の糊付き封筒（調査用紙封入済み）を、担当教員に配付する。
- (3) 調査を実施する授業にあつては、上記期間中のいずれかの授業時に、教員が受講生に調査用紙を配付し、記入に必要な時間（15分位）を設けて、行なうものとする。
- (4) 調査用紙の配付に先立ち、教員は講義番号、授業科目名及び教員名（姓名とも）を板書する。また、調査用紙は、鉛筆又はシャープペンで記入させる。
- (5) 評価項目のうち調査しない項目又は予備欄を使用する場合は、教員自身の判断ではなく、部局単位で実施するので部局等からの指示を受ける。ただし、教育学部及び教養教育（共通教育を含む。）で行われる実技科目については、調査しない項目又は予備欄の使用は教員自身の判断により決定する。
- (6) 教員は、受講生に次のように伝える。
「調査用紙の記入内容は、自由記入欄の記載事項も含め集計データとして教員に通知されるので、調査用紙自体を教員が見ることはありません。」

(7) 教員は、当該授業について、調査用紙の回収を依頼する受講生を（大人数講義の場合は複数名）指名する。指名した受講生への依頼内容は、下記(8)のとおり。

教員は、学生が記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をするところまでを見届けることとする。

(8) 回収を担当する受講生への依頼内容

- ① 記入済みの調査用紙の枚数を数え、封筒の「回答者数」欄に人数を鉛筆又はシャープペンで記入する。
- ② 記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をする。
- ③ 記入済み調査用紙の封入された封筒と、未使用の調査用紙を担当学部学務係又は全学教育課教養教育係へ直ちに提出する。

4. その他

(1) 自由記入欄への記載内容を含め、評価結果は集計して、当該担当教員に配付する。

(2) 調査用紙は、当該担当教員に戻さない。

以上

平成20年度前期「学生による授業評価」調査実施要項

平成20年6月12日

全学教育企画室

1. 目的

学生による授業評価を実施し、授業内容の改善に資するとともに、大学教育の質の保証を図ることを目的とする。

2. 対象及び時期

- (1) 全学共通のフォーマット（マークシート方式）により、学生による授業評価を実施する。
- (2) 対象となる授業は、大学院博士後期課程の授業を除き、前期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を除く。）とする。ただし、個人情報保護の精神に留意し、履修登録者5人以下の少人数の授業については実施しないものとする。
- (3) 実施する時期は、平成20年7月7日（月）から7月28日（月）の間とする。

3. 実施方法

- (1) 学生による授業評価は無記名とする。
- (2) 各部局から、授業科目名、講義番号、教員名、受講生数、調査用紙記入枚数及び講義・演習又は実験の区分が付記された角2の糊付き封筒（調査用紙封入済み）を、担当教員に配付する。
- (3) 調査を実施する授業にあつては、上記期間中のいずれかの授業時に、教員が受講生に調査用紙を配付し、記入に必要な時間（15分位）を設けて、行なうものとする。
- (4) 調査用紙の配付に先立ち、教員は講義番号、授業科目名及び教員名（姓名とも）を板書する。また、調査用紙は、鉛筆又はシャープペンで記入させる。
- (5) 評価項目のうち調査しない項目又は予備欄を使用する場合は、教員自身の判断ではなく、部局単位で実施するので部局からの指示を受ける。ただし、教育学部及び教養教育（共通教育を含む。）で行われる実技科目の調査しない項目の決定ならびに予備欄の使用については教員自身の判断による。
- (6) 教員は、受講生に次のように伝える。
「調査用紙の記入内容は、自由記入欄の記載事項も含め集計データとして教員に通知されるので、調査用紙自体を教員が見ることはありません。」
- (7) 教員は、当該授業について、調査用紙の回収を依頼する受講生を（大人数講義の場合は複数名）指名する。指名した受講生への依頼内容は、下記(8)のとおり。
教員は、学生が記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をするところまでを見届けることとする。
- (8) 回収を担当する受講生への依頼内容
 - ① 記入済みの調査用紙の枚数を数え、封筒の「回答者数」欄に人数を鉛筆又はシャープペンで記入する。
 - ② 記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をする。
 - ③ 記入済み調査用紙の封入された封筒と、未使用の調査用紙を担当学部学務係又は全学教育課教養教育係へ直ちに提出する。

4. その他

- (1) 自由記入欄への記載内容を含め、評価結果は集計して、当該担当教員に配付する。
- (2) 調査用紙は、当該担当教員に戻さない。

以上

平成 20 年度後期「学生による授業評価」調査実施要項

平成 20 年 11 月 20 日

全学教育企画室

1. 目的

学生による授業評価を実施し、授業内容の改善に資するとともに、大学教育の質の保証を図ることを目的とする。

2. 対象及び時期

(1) 全学共通のフォーマット（マークシート方式）により、学生による授業評価を実施する。

(2) 対象となる授業は、大学院博士後期課程の授業を除き、後期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を含む。）とする。ただし、個人情報保護の精神に留意し、履修登録者 5 人以下の少人数の授業については実施しないものとする。

(3) 実施する時期は、平成 21 年 1 月 15 日（木）から 2 月 4 日（水）の間とする。

3. 実施方法

(1) 学生による授業評価は無記名とする。

(2) 各部局から、授業科目名、講義番号、教員名、受講生数、調査用紙記入枚数及び講義・演習又は実験の区分が付記された角 2 の糊付き封筒（調査用紙封入済み）を、担当教員に配付する。

(3) 調査を実施する授業にあつては、上記期間中のいずれかの授業時に、教員が受講生に調査用紙を配付し、記入に必要な時間（15 分位）を設けて、行なうものとする。

(4) 調査用紙の配付に先立ち、教員は講義番号、授業科目名及び教員名（姓名とも）を板書する。また、調査用紙は、鉛筆又はシャープペンで記入させる。

(5) 評価項目のうち調査しない項目又は予備欄を使用する場合は、教員自身の判断ではなく、部局単位で実施するので部局からの指示を受ける。ただし、教育学部及び教養教育（共通教育を含む。）で行われる実技科目の調査しない項目の決定ならびに予備欄の使用については教員自身の判断による。

(6) 教員は、受講生に次のように伝える。

「調査用紙の記入内容は、自由記入欄の記載事項も含め集計データとして教員に通知されるので、調査用紙自体を教員が見ることはありません。」

(7) 教員は、当該授業について、調査用紙の回収を依頼する受講生を（大人数講義の場合は複数名）指名する。指名した受講生への依頼内容は、下記(8)のとおり。

教員は、学生が記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をするところまでを見届けることとする。

(8) 回収を担当する受講生への依頼内容

① 記入済みの調査用紙の枚数を数え、封筒の「回答者数」欄に人数を鉛筆又はシャープペンで記入する。

② 記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をする。

③ 記入済み調査用紙の封入された封筒と、未使用の調査用紙を担当学部学務係又は全学教育課教養教育係へ直ちに提出する。

4. その他

(1) 自由記入欄への記載内容を含め、評価結果は集計して、当該担当教員に配付する。

(2) 調査用紙は、当該担当教員に戻さない。

以上

平成 21 年度前期「学生による授業評価」調査実施要項

平成 21 年 6 月 18 日

全学教育企画室

1. 目的

学生による授業評価を実施し、授業内容の改善に資するとともに、大学教育の質の保証を図ることを目的とする。

2. 対象及び時期

- (1) 全学共通のフォーマット（マークシート方式）により、学生による授業評価を実施する。
- (2) 対象となる授業は、大学院博士後期課程の授業を除き、前期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を含まない。）とする。ただし、個人情報保護の精神に留意し、履修登録者 5 人以下の少人数の授業については実施しないものとする。
- (3) 実施する時期は、平成 21 年 7 月 6 日（月）から 7 月 27 日（月）の間とする。

3. 実施方法

- (1) 学生による授業評価は無記名とする。
- (2) 各部局から、授業科目名、講義番号、教員名、受講生数、調査用紙記入枚数及び講義・演習又は実験の区分が付記された角 2 の糊付き封筒（調査用紙封入済み）を、担当教員に配付する。
- (3) 調査を実施する授業にあつては、上記期間中のいずれかの授業時に、教員が受講生に調査用紙を配付し、記入に必要な時間（15 分位）を設けて、行なうものとする。
- (4) 調査用紙の配付に先立ち、教員は講義番号、授業科目名及び教員名（姓名とも）を板書する。また、調査用紙は、鉛筆又はシャープペンで記入させる。
- (5) 評価項目のうち調査しない項目又は予備欄を使用する場合は、教員自身の判断ではなく、部局単位で実施するので部局からの指示を受ける。ただし、教育学部及び教養教育（共通教育を含む。）で行われる実技科目の調査しない項目の決定ならびに予備欄の使用については教員自身の判断による。
- (6) 教員は、受講生に次のように伝える。
「この授業評価は、授業内容を改善し、さらに充実させることを目的として行うも

ので、皆さんは責任をもって回答をしてください。自由記入欄に、授業内容とは直接関係のない内容が記入されている場合は、削除されることがあります。なお、調査用紙の記入内容は、自由記入欄の記載事項も含め集計データとして教員に通知されるので、調査用紙自体を教員が見ることはありません。」

(7) 教員は、当該授業について、調査用紙の回収を依頼する受講生を（大人数講義の場合は複数名）指名する。指名した受講生への依頼内容は、下記(8)のとおり。

教員は、学生が記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をするところまでを見届けることとする。

(8) 回収を担当する受講生への依頼内容

- ① 記入済みの調査用紙の枚数を数え、封筒の「回答者数」欄に人数を鉛筆又はシャープペンで記入する。
- ② 記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をする。
- ③ 記入済み調査用紙の封入された封筒と、未使用の調査用紙を担当学部学務係又は全学教育課教養教育係へ直ちに提出する。

4. その他

(1) 自由記入欄への記載内容を含め、評価結果は集計して、当該担当教員に配付する。

(2) 調査用紙は、当該担当教員に戻さない。

以上

平成 21 年度後期「学生による授業評価」調査実施要項

平成 21 年 11 月 19 日

全学教育企画室

1. 目的

学生による授業評価を実施し、授業内容の改善に資するとともに、大学教育の質の保証を図ることを目的とする。

2. 対象及び時期

(1) 全学共通のフォーマット（マークシート方式）により、学生による授業評価を実施する。

(2) 対象となる授業は、大学院博士後期課程の授業を除き、後期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を含む。）とする。ただし、個人情報保護の精神に留意し、履修登録者 5 人以下の少人数の授業については実施しないものとする。

(3) 実施する時期は、平成 22 年 1 月 14 日（木）から 2 月 3 日（水）の間とする。

3. 実施方法

(1) 学生による授業評価は無記名とする。

(2) 各部局から、授業科目名、講義番号、教員名、受講生数、調査用紙記入枚数及び講義・演習又は実験の区分が付記された角 2 の糊付き封筒（調査用紙封入済み）を、担当教員に配付する。

(3) 調査を実施する授業にあっては、上記期間中のいずれかの授業時に、教員が受講生に調査用紙を配付し、記入に必要な時間（15 分位）を設けて、行なうものとする。

(4) 調査用紙の配付に先立ち、教員は講義番号、授業科目名及び教員名（姓名とも）を板書する。また、調査用紙は、鉛筆又はシャープペンで記入させる。

(5) 評価項目のうち調査しない項目又は予備欄を使用する場合は、教員自身の判断ではなく、部局単位で実施するので部局からの指示を受ける。ただし、教育学部及び教養教育（共通教育を含む。）で行われる実技科目の調査しない項目の決定ならびに予備欄の使用については教員自身の判断による。

(6) 教員は、受講生に次のように伝える。

「この授業評価は、授業内容を改善し、さらに充実させることを目的として行うも

ので、皆さんは責任をもって回答をしてください。自由記入欄に、授業内容とは直接関係のない内容（誹謗中傷等）が記入されていた場合は、その内容を含む文章を集計データから削除する場合があります。なお、調査用紙の記入内容は、自由記入欄の記載事項も含め集計データとして教員に通知されるので、調査用紙自体を教員が見ることはありません。」

- (7) 教員は、当該授業について、調査用紙の回収を依頼する受講生を（大人数講義の場合は複数名）指名する。指名した受講生への依頼内容は、下記(8)のとおり。
教員は、学生が記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をするところまでを見届けることとする。

- (8) 回収を担当する受講生への依頼内容

- ① 記入済みの調査用紙の枚数を数え、封筒の「回答者数」欄に人数を鉛筆又はシャープペンで記入する。
- ② 記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をする。
- ③ 記入済み調査用紙の封入された封筒と、未使用の調査用紙を担当学部学務係又は全学教育課教養教育係へ直ちに提出する。

4. その他

- (1) 自由記入欄への記載内容を含め、評価結果は集計して、当該担当教員に配付する。

- (2) 調査用紙は、当該担当教員に戻さない。

以上

平成 22 年度前期「学生による授業評価」調査実施要項

平成 22 年 5 月 20 日
全学教育企画室

1. 目的

学生による授業評価を実施し、授業内容の改善に資するとともに、大学教育の質の保証を図ることを目的とする。

2. 対象及び時期

- (1) 全学共通のフォーマット（マークシート方式）により、学生による授業評価を実施する。
- (2) 対象となる授業は、大学院博士後期課程の授業を除き、前期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を含まない。）とする。ただし、個人情報保護の精神に留意し、履修登録者 5 人以下の少人数の授業については実施しないものとする。
- (3) 実施する時期は、平成 22 年 7 月 5 日（月）から 7 月 26 日（月）の間とする。

3. 実施方法

- (1) 学生による授業評価は無記名とする。
- (2) 各部局から、授業科目名、講義番号、教員名、受講生数、調査用紙記入枚数及び講義・演習又は実験の区分が付記された角 2 の糊付き封筒（調査用紙封入済み）を、担当教員に配付する。
- (3) 調査を実施する授業にあつては、上記期間中のいずれかの授業時に、教員が受講生に調査用紙を配付し、記入に必要な時間（15 分位）を設けて、行なうものとする。
- (4) 調査用紙の配付に先立ち、教員は講義番号、授業科目名及び教員名（姓名とも）を板書する。また、調査用紙は、鉛筆又はシャープペンで記入させる。
- (5) 評価項目のうち調査しない項目又は予備欄を使用する場合は、教員自身の判断ではなく、部局単位で実施するので部局からの指示を受ける。ただし、教育学部及び教養教育（共通教育を含む。）で行われる実技科目の調査しない項目の決定ならびに予備欄の使用については教員自身の判断による。
- (6) 教員は、受講生に次のように伝える。
「この授業評価は、授業内容を改善し、さらに充実させることを目的として行うも

ですので、皆さんは責任をもって回答をしてください。自由記入欄に、授業内容とは直接関係のない内容が記入されている場合は、削除されることがあります。なお、調査用紙の記入内容は、自由記入欄の記載事項も含め集計データとして教員に通知されるので、調査用紙自体を教員が見ることはありません。」

(7) 教員は、当該授業について、調査用紙の回収を依頼する受講生を（大人数講義の場合は複数名）指名する。指名した受講生への依頼内容は、下記(8)のとおり。

教員は、学生が記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をするところまでを見届けることとする。

(8) 回収を担当する受講生への依頼内容

- ① 記入済みの調査用紙の枚数を数え、封筒の「回答者数」欄に人数を鉛筆又はシャープペンで記入する。
- ② 記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をする。
- ③ 記入済み調査用紙の封入された封筒と、未使用の調査用紙を担当学部学務係又は全学教育課教養教育係へ直ちに提出する。

4. その他

- (1) 自由記入欄への記載内容を含め、評価結果は集計して、当該担当教員に配付する。
- (2) 調査用紙は、当該担当教員に戻さない。

以上

平成 22 年度後期「学生による授業評価」調査実施要項

平成 22 年 11 月 18 日

全学教育企画室

1. 目的

学生による授業評価を実施し、授業内容の改善に資するとともに、大学教育の質の保証を図ることを目的とする。

2. 対象及び時期

(1) 全学共通のフォーマット（マークシート方式）により、学生による授業評価を実施する。

(2) 対象となる授業は、大学院博士後期課程の授業を除き、後期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を含む。）とする。ただし、個人情報保護の精神に留意し、履修登録者 5 人以下の少人数の授業については実施しないものとする。

(3) 実施する時期は、平成 23 年 1 月 7 日（金）から 1 月 31 日（月）の間とする。

3. 実施方法

(1) 学生による授業評価は無記名とする。

(2) 各部局から、授業科目名、講義番号、教員名、受講生数、調査用紙記入枚数及び講義・演習又は実験の区分が付記された角 2 の糊付き封筒（調査用紙封入済み）を、担当教員に配付する。

(3) 調査を実施する授業にあつては、上記期間中のいずれかの授業時に、教員が受講生に調査用紙を配付し、記入に必要な時間（15 分位）を設けて、行なうものとする。

(4) 調査用紙の配付に先立ち、教員は講義番号、授業科目名及び教員名（姓名とも）を板書する。また、調査用紙は、鉛筆又はシャープペンで記入させる。

(5) 評価項目のうち調査しない項目又は予備欄を使用する場合は、教員自身の判断ではなく、部局単位で実施するので部局からの指示を受ける。ただし、教育学部及び教養教育（共通教育を含む。）で行われる実技科目の調査しない項目の決定ならびに予備欄の使用については教員自身の判断による。

(6) 教員は、受講生に次のように伝える。

「この授業評価は、授業内容を改善し、さらに充実させることを目的として行うも

のですので、皆さんは責任をもって回答をしてください。自由記入欄に、授業内容とは直接関係のない内容（誹謗中傷等）が記入されていた場合は、その内容を含む文章を集計データから削除する場合があります。なお、調査用紙の記入内容は、自由記入欄の記載事項も含め集計データとして教員に通知されるので、調査用紙自体を教員が見ることはありません。」

(7) 教員は、当該授業について、調査用紙の回収を依頼する受講生を（大人数講義の場合は複数名）指名する。指名した受講生への依頼内容は、下記(8)のとおり。

教員は、学生が記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をするところまでを見届けることとする。

(8) 回収を担当する受講生への依頼内容

- ① 記入済みの調査用紙の枚数を数え、封筒の「回答者数」欄に人数を鉛筆又はシャープペンで記入する。
- ② 記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をする。
- ③ 記入済み調査用紙の封入された封筒と、未使用の調査用紙を担当学部学務係又は全学教育課教養教育係へ直ちに提出する。

4. その他

(1) 自由記入欄への記載内容を含め、評価結果は集計して、当該担当教員に配付する。

(2) 自由記入欄に、授業内容とは直接関係のない内容（誹謗中傷等）が記入されていた場合は、その内容を含む文章を全学教育企画室で検討の上で、集計データから削除する。

(3) 調査用紙は、当該担当教員に戻さない。

以上

3. 「学生による授業評価調査」調査のスケジュール

資料 3-1

平成19年度前期「学生による授業評価」調査のスケジュール

5 / 29 (火)	全学教育企画室に調査項目案及び実施要項案を提出
6 / 12 (火)	全学教育企画室で調査項目及び実施要項を決定
6 / 12 (火)	マークシートの印刷発注 → 6 / 25 (月) 納品 (2週間)
6 / 14 (木)	全学運営会議に授業評価の実施を報告
6 / 14 (木)	部局に照会及び実施要項の通知 (封筒用ラベルデータ)
6 / 27 (水)	ラベルシール・封入作業→6 / 29 (1週間)
7 / 3 (火)	部局に調査用紙 (マークシート) 配付
7 / 9 (月) ~ 7 / 30 (月)	* 学生による授業評価調査期間
8 / 3 (金)	部局より調査用紙の回収
8 / 7 (火)	調査枚数の確定
8 / 上旬	外注によるデータ入力及び集計業務契約手続き ↓
9 / 上旬	納期
9 / 中旬	集計結果を部局等に報告
10 / 上旬以降	各部局にて分析・評価し、全学教育企画室に報告

平成19年度後期「学生による授業評価」調査のスケジュール

11 / 20 (火)	全学教育企画室で調査項目及び実施要項を決定
11 / 22 (木)	全学運営会議に授業評価の実施を報告
11 / 26 (月)	部局に照会及び実施要項の通知 (封筒用ラベルデータ)
12 / 10 (月)	マークシートの印刷発注 → 12 / 25 (火) 納品 (2週間)
1 / 4 (金)	ラベルシール・封入作業 → 1 / 9 (水)
1 / 10 (木)	部局に調査用紙 (マークシート) 配付
<u>1 / 17 (木) ~ 2 / 6 (水)</u>	<u>* 学生による授業評価調査期間</u>
2 / 13 (水)	部局より調査用紙の回収
2 / 20 (水)	調査枚数の確定
2 / 下旬	外注によるデータ入力及び集計業務契約手続き ↓
3 / 下旬	納期
4 / 中旬	集計結果を部局等に報告
4 / 中旬以降	各部局にて分析・評価し、全学教育企画室に報告

資料 3-3

平成20年度前期「学生による授業評価」調査のスケジュール

- 5 / 22 (木) 全学教育企画室に調査項目案及び実施要項案を提出・決定
- 6 / 5 (木) マークシートの印刷発注 → 6 / 19 (木) 納品 (2週間)
- 6 / 12 (木) 全学運営会議に授業評価の実施を報告
- 6 / 12 (木) 部局に照会及び実施要項の通知
(封筒用ラベルデータ)
- 6 / 24 (火) ラベルシール・封入作業 → 6 / 30 (1週間)
- 7 / 1 (火) 部局に調査用紙 (マークシート) 配付
- 7 / 7 (月) ~ 7 / 28 (月) *学生による授業評価調査期間
- 8 / 1 (金) 部局より調査用紙の回収
- 8 / 5 (火) 調査枚数の確定
- 8 / 上旬 外注によるデータ入力及び集計業務契約手続き
↓
- 9 / 上旬 納期
- 9 / 中旬 集計結果を部局等に報告

平成20年度後期「学生による授業評価」調査のスケジュール

- 11 / 20 (木) 全学教育企画室で調査項目及び実施要項を決定
- 11 / 27 (木) 全学運営会議に授業評価の実施を報告
- 12 / 1 (月) 部局に照会及び実施要項の通知
(封筒用ラベルデータ)
- 12 / 12 (金) マークシートの印刷発注 → 12 / 25 (木) 納品 (約2週間)
- 1 / 5 (月) ラベルシール・封入作業 → 1 / 7 (水)
- 1 / 8 (木) 部局に調査用紙 (マークシート) 配付
- 1 / 15 (木) ~ 2 / 4 (水) *学生による授業評価調査期間
- 2 / 10 (火) 部局より調査用紙の回収
- 2 / 18 (水) 調査枚数の確定
- 2 / 下旬 外注によるデータ入力及び集計業務契約手続き
↓
- 3 / 下旬 納期
- 4 / 中旬 集計結果を部局等に報告
- 4 / 中旬以降 各部局にて分析・評価し、全学教育企画室に報告

平成 21 年度前期「学生による授業評価」調査のスケジュール

- 5 / 21 (木) 全学教育企画室に調査項目案及び実施要項案を提出・決定
- 6 / 4 (木) マークシートの印刷発注 → 6 / 18 (木) 納品 (2 週間)
- 6 / 11 (木) 全学運営会議に授業評価の実施を報告
- 6 / 11 (木) 部局に照会及び実施要項の通知
(封筒用ラベルデータ)
- 6 / 23 (火) ラベルシール・封入作業 → 6 / 29 (1 週間)
- 6 / 30 (火) 部局に調査用紙 (マークシート) 配付
- 7 / 6 (月) ~ 7 / 27 (月) * 学生による授業評価調査期間
- 7 / 31 (金) 部局より調査用紙の回収
- 8 / 4 (火) 調査枚数の確定
- 8 / 上旬 外注によるデータ入力及び集計業務契約手続き
↓
- 9 / 上旬 納期
- 9 / 中旬 集計結果を部局等に報告

平成 21 年度後期「学生による授業評価」調査のスケジュール

- 11 / 19 (木) 全学教育企画室に調査項目案及び実施要項案を提出・決定
- 11 / 26 (木) 全学運営会議に授業評価の実施を報告
- 11 / 30 (月) 部局に照会及び実施要項の通知
(封筒用ラベルデータ)
- 12 / 4 (金) マークシートの印刷発注 → 12 / 17 (木) 納品 (約 2 週間)
- 1 / 4 (月) ラベルシール・封入作業 → 1 / 6 (水)
- 1 / 7 (木) 部局に調査用紙 (マークシート) 配付
- 1 / 14 (木) ~ 2 / 3 (水) * 学生による授業評価調査期間
- 2 / 9 (火) 部局より調査用紙の回収
- 2 / 17 (水) 調査枚数の確定
- 2 / 下旬 外注によるデータ入力及び集計業務契約手続き
↓
- 3 / 下旬 納期
- 4 / 中旬 集計結果を部局等に報告
- 4 / 中旬以降 各部局にて分析・評価し、全学教育企画室に報告

平成 22 年度前期「学生による授業評価」調査のスケジュール

- 5 / 20 (木) 全学教育企画室に調査項目案及び実施要項案を提出・決定
- 6 / 3 (木) マークシートの印刷発注 → 6 / 17 (木) 納品 (2 週間)
- 6 / 10 (木) 全学運営会議に授業評価の実施を報告
- 6 / 10 (木) 部局に照会及び実施要項の通知
(封筒用ラベルデータ)
- 6 / 22 (火) ラベルシール・封入作業 → 6 / 28 (1 週間)
- 6 / 29 (火) 部局に調査用紙 (マークシート) 配付
- 7 / 5 (月) ~ 7 / 26 (月) * 学生による授業評価調査期間
- 7 / 30 (金) 部局より調査用紙の回収
- 8 / 3 (火) 調査枚数の確定
- 8 / 月上旬 外注によるデータ入力及び集計業務契約手続き
↓
- 9 / 月上旬 納期
- 9 / 中旬 集計結果を部局等に報告

平成 22 年度後期「学生による授業評価」調査のスケジュール

- 11 / 18 (木) 全学教育企画室に調査項目案及び実施要項案を提出・決定
- 11 / 25 (木) 全学運営会議に授業評価の実施を報告
- 11 / 26 (金) 部局に照会及び実施要項の通知
(封筒用ラベルデータ)
- 12 / 3 (金) マークシートの印刷発注 → 12 / 16 (木) 納品 (約 2 週間)
- 12 / 21 (火) ラベルシール・封入作業 → 12 / 28 (火)
- 1 / 4 (火) 部局に調査用紙 (マークシート) 配付
- 1 / 7 (金) ~ 1 / 31 (月) * 学生による授業評価調査期間
- 2 / 4 (金) 部局より調査用紙の回収
- 2 / 8 (火) 調査枚数の確定
- 2 / 中旬 外注によるデータ入力及び集計業務契約手続き
↓
- 3 / 下旬 納期
- 4 / 上旬 集計結果を部局等に報告
- 4 / 上旬以降 各部局にて分析・評価し、全学教育企画室に報告

平成19年6月12日

学生各位

埼玉大学

平成19年度前期「学生による授業評価」調査の実施について

本学では、授業内容の改善に資するとともに教育のレベルアップを図ることを目的として、平成19年度前期の「学生による授業評価」調査を下記のとおり実施することといたしました。

この調査は、現在受講している授業について、学習と授業内容がどのようなものであったかをマークシートにより、回答いただくものです。協力をお願いいたします。

記

1. 調査期間

平成18年7月9日(月)～平成18年7月30日(月)

※上記期間内のいずれかの授業時間中に行います。

2. 調査対象授業

教養教育科目(共通教育科目を含む。)及び専門教育科目(大学院博士後期課程の授業を除く。)で前期終了の授業

3. 調査方法等

本調査は、無記名で行われます。調査の結果は一括して処理され、個々の調査用紙が公表されることはありません。

また、当然のことですが、成績評価には全く影響することはありませんので、真摯で率直な感想や意見を記入して下さい。

平成 19 年 12 月 3 日

学生各位

埼玉大学

平成 19 年度後期「学生による授業評価」調査の実施について

本学では、授業内容の改善に資するとともに教育のレベルアップを図ることを目的として、平成 19 年度後期の「学生による授業評価」調査を下記のとおり実施することといたしました。

この調査は、現在受講している授業について、学習と授業内容がどのようなものであったかをマークシートにより、回答いただくものです。協力をお願いいたします。

記

1. 調査期間

平成 20 年 1 月 17 日(木)～平成 20 年 2 月 6 日(水)

※上記期間内のいずれかの授業時間中に行います。

2. 調査対象授業

大学院博士後期課程の授業を除き、後期に開講されている全ての授業科目(通年授業科目を含む)。ただし、10人以下の少人数の授業の実施については、学部等の判断によります。

3. 調査方法等

本調査は、無記名で行われます。調査の結果は一括して処理され、個々の調査用紙が公表されることはありません。

また、当然のことですが、成績評価には全く影響することはありませんので、真摯で率直な感想や意見を記入して下さい。

平成 20 年 6 月 11 日

学生各位

埼玉大学

平成 20 年度前期「学生による授業評価」調査の実施について

本学では、授業内容の改善に資するとともに教育のレベルアップを図ることを目的として、平成 20 年度前期の「学生による授業評価」調査を下記のとおり実施することといたしました。

この調査は、現在受講している授業について、学習と授業内容がどのようなものであったかをマークシートにより、回答いただくものです。協力をお願いいたします。

記

1. 調査期間

平成 20 年 7 月 7 日(月)～平成 20 年 7 月 28 日(月)

※上記期間内のいずれかの授業時間中に行います。

2. 調査対象授業

教養教育科目(共通教育科目を含む。)及び専門教育科目(大学院博士後期課程の授業を除く。)で前期終了の授業

3. 調査方法等

本調査は、無記名で行われます。調査の結果は一括して処理され、個々の調査用紙が公表されることはありません。

また、当然のことですが、成績評価には全く影響することはありませんので、真摯で率直な感想や意見を記入して下さい。

平成20年12月1日

学生各位

埼玉大学

平成20年度後期「学生による授業評価」調査の実施について

本学では、授業内容の改善に資するとともに教育のレベルアップを図ることを目的として、平成20年度後期の「学生による授業評価」調査を下記のとおり実施することといたしました。

この調査は、現在受講している授業について、学習と授業内容がどのようなものであったかをマークシートにより、回答いただくものです。協力をお願いいたします。

記

1. 調査期間

平成21年1月15日(木)～平成21年2月4日(水)

※上記期間内のいずれかの授業時間中に行います。

2. 調査対象授業

教養教育科目(共通教育科目を含む。)及び専門教育科目(大学院博士後期課程の授業を除く。)で後期終了の授業(通年授業含む。)

3. 調査方法等

本調査は、無記名で行われます。調査の結果は一括して処理され、個々の調査用紙が公表されることはありません。

また、当然のことですが、成績評価には全く影響することはありませんので、真摯で率直な感想や意見を記入して下さい。

平成 21 年 6 月 15 日

学生各位

埼玉大学

平成 21 年度前期「学生による授業評価」調査の実施について

本学では、授業内容の改善に資するとともに教育のレベルアップを図ることを目的として、平成 21 年度前期の「学生による授業評価」調査を下記のとおり実施することといたしました。

この調査は、現在受講している授業について、学習と授業内容がどのようなものであったかをマークシートにより、回答いただくものです。協力をお願いいたします。

記

1. 調査期間

平成 21 年 7 月 6 日(月)～平成 21 年 7 月 27 日(月)

※上記期間内のいずれかの授業時間中に行います。

2. 調査対象授業

教養教育科目(共通教育科目を含む。)及び専門教育科目(大学院博士後期課程の授業を除く。)で前期終了の授業

3. 調査方法等

本調査は、無記名で行われます。調査の結果は一括して処理され、個々の調査用紙が公表されることはありません。

また、当然のことですが、成績評価には全く影響することはありませんので、真摯で率直な感想や意見を記入して下さい。

平成 21 年 12 月 1 日

学生各位

埼玉大学

平成 21 年度後期「学生による授業評価」調査の実施について

本学では、授業内容の改善に資するとともに教育のレベルアップを図ることを目的として、平成 21 年度後期の「学生による授業評価」調査を下記のとおり実施することといたしました。

この調査は、現在受講している授業について、学習と授業内容がどのようなものであったかをマークシートにより、回答いただくものです。協力をお願いいたします。

記

1. 調査期間

平成 22 年 1 月 14 日(木)～平成 22 年 2 月 3 日(水)

※上記期間内のいずれかの授業時間中に行います。

2. 調査対象授業

教養教育科目(共通教育科目を含む。)及び専門教育科目(大学院博士後期課程の授業を除く。)で前期終了の授業(通年授業含む)

3. 調査方法等

本調査は、無記名で行われます。調査の結果は一括して処理され、個々の調査用紙が公表されることはありません。

また、当然のことですが、成績評価には全く影響することはありませんので、真摯で率直な感想や意見を記入して下さい。

平成 22 年 6 月 10 日

学生各位

埼玉大学

平成 22 年度前期「学生による授業評価」調査の実施について

本学では、授業内容の改善に資するとともに教育のレベルアップを図ることを目的として、平成 22 年度前期の「学生による授業評価」調査を下記のとおり実施することといたしました。

この調査は、現在受講している授業について、学習と授業内容がどのようなものであったかをマークシートにより、回答いただくものです。協力をお願いいたします。

記

1. 調査期間

平成 22 年 7 月 5 日(月)～平成 22 年 7 月 26 日(月)

※上記期間内のいずれかの授業時間中に行います。

2. 調査対象授業

教養教育科目(共通教育科目を含む。)及び専門教育科目(大学院博士後期課程の授業を除く。)で前期終了の授業

3. 調査方法等

本調査は、無記名で行われます。調査の結果は一括して処理され、個々の調査用紙が公表されることはありません。

また、当然のことですが、成績評価には全く影響することはありませんので、真摯で率直な感想や意見を記入して下さい。

平成 22 年 12 月 1 日

学生各位

埼玉大学

平成 22 年度後期「学生による授業評価」調査の実施について

本学では、授業内容の改善に資するとともに教育のレベルアップを図ることを目的として、平成 22 年度後期の「学生による授業評価」調査を下記のとおり実施することといたしました。

この調査は、現在受講している授業について、学習と授業内容がどのようなものであったかをマークシートにより、回答いただくものです。協力をお願いいたします。

記

1. 調査期間

平成 23 年 1 月 7 日(金)～平成 23 年 1 月 31 日(月)

※上記期間内のいずれかの授業時間中に行います。

2. 調査対象授業

教養教育科目及び専門教育科目（大学院博士後期課程の授業を除く。）で前期終了の授業（通年授業含む）

3. 調査方法等

本調査は、無記名で行われます。調査の結果は一括して処理され、個々の調査用紙が公表されることはありません。

また、当然のことですが、成績評価には全く影響することはありませんので、真摯で率直な感想や意見を記入して下さい。

平成19年度 工学部FDシンポジウム

～学生のメンタルケア～

日時：2007年12月6日(木) 15:00～17:00

会場：総合研究棟1階 シアター教室

対象：教職員および学生（自由参加）

主催：工学部教育企画委員会FD部会

後援：全学教育・学生支援機構 全学教育企画室

不安を感じたり、様々な悩みからいつまでも抜け出せず、学業や人間関係等に支障をきたしそうに感じる時はありませんか？

また、不眠や食欲不振などの身体的不調がしばらく続くようなことはありませんか？

工学部FDシンポジウムの第二部では、もしそういった状況になった場合、あるいはそのような悩みを抱えた学生にどう対応したら良いのかについて、できるだけ分かりやすく話してもらいますので、自由に参加してください。

第一部 工学部FDガイドラインについて

平成19年 工学部ベストレクチャー賞 表彰式

（平成18年度の工学部におけるベストレクチャー）

☆受賞者の先生による授業のワンポイント・アドバイス

第二部 講演会

題目：「学生のメンタルケア」

講師：関 直彦 教授（埼玉大学保健センター）

詳しい内容 <http://www.saitama-u.ac.jp/kougaku/fd/>
問い合わせ先 理工学研究科支援室 工学部学務係 tel：048-858-3429, 内線4408

平成20年度埼玉大学工学部FDシンポジウム

留年率の縮小を目指して

留年は全ての学生にとって切実な問題であることは勿論ですが、大学側にとっては教育力・指導力を問われることとなります。去年度の埼玉大生が在籍期間4年で卒業できた割合は82.5%で、残念ながら全国立大学平均を大きく下回っております。工学部はさらに低い状況にあり、早急に改善しなくてはなりません。

このような憂慮すべき現状に鑑み、本年度の工学部FDシンポジウム第二部では留年率の改善をテーマに取り上げることにいたしました。この問題は工学部教職員、学生が一丸となって取り組まなければ解決はなりません。それぞれがそれぞれの立場で意見を交換することが改善の第一歩であると心得ます。

教職員、学生の多くのご参加をお願いします。

日時:平成20年12月5日(金) 午後3時から

場所:シアター教室 総合研究棟 1階

■あいさつ 山口 宏樹 学部長

■第一部 ベストレクチャー賞表彰式

1. ベストレクチャー賞について 森田 真史 FD部会長
2. ベストレクチャー賞表彰式
3. 講義を行うにあたってのワンポイント・アドバイス

■第二部 パネルディスカッション「留年率の縮小を目指して」

アドミッション委員会での取り組み

進路指導部会での取り組み

FD部会での取り組み

カリキュラム部会での取り組み

パネラー：山口学部長、佐藤副学部長、内田カリキュラム部会長、
奥井進路指導部会長、平塚アドミッション委員長、森田FD部会長



主催/工学部教育企画委員会FD部会

後援/全学教育・学生支援機構 全学教育企画室

問い合わせ先/埼玉大学工学部学務係 (TEL048-858-3429 内線4408)



平成 21 年度埼玉大学工学部 FD シンポジウム



大学院への進学率を考える

大学院博士前期課程（修士課程）での勉学や研究が必要とされる情勢は今後も継続し、その成果が社会からも期待されています。一方、首都圏国立大学での理工系大学院進学率と比較して埼玉大学では理工学研究科への進学率が多少低い水準に留まっています。修士課程に進学する意欲は、学生の眼から見た教育に対する満足度を反映したものであるとも考えられ、この満足度をいかに高めることが出来るかとの観点も含めて、埼玉大学工学部 FD 部会では、FD ガイドラインの策定、昨年度 FD シンポジウム「留年率の縮小を目指して」の開催、「授業進行の手引き Ver.1.0」の配布、などの活動を続けてきました。

本年度は、修士課程への進学率の推移を調査すると共に、大学院に在籍している学生にアンケートを実施し、学生生活の満足度について考える機会を設けることにしました。教職員、学生の皆さんの多くのご参加をお願いします。

日時：平成21年12月4日（金）午後3時から

場所：シアター教室 総合研究棟1階

- ◆ はじめに 工学部長
- ◆ 第一部 ベストレクチャー賞表彰式
 1. ベストレクチャー賞について FD部会長
 2. ベストレクチャー賞表彰式
 3. 講義を行うためのワンポイント・アドバイス
- ◆ 第二部 パネルディスカッション
「大学院への進学率を考える」FD部会での取り組み
 1. 修士課程への進学率の推移
 2. 進学動機に関するアンケート結果

パネラー：工学部長、副学部長、FD部会委員、理工学研究科FD部会委員、
カリキュラム部会長、進路指導部会長、アドミッション委員長



主催／工学部教育企画委員会FD部会 共催／理工学研究科教育企画委員会FD部会
後援／全学教育・学生支援機構 全学教育企画室

問い合わせ先／埼玉大学工学部学務係（ TEL 048-858-3429 内線 4408 ）

よい講義について考える

何をどのように教えるかは、大学に限らず教育に携わる者にとって大きな課題となっております。埼玉大学工学部 FD 部会では、教育の質の維持・向上のために、FD ガイドラインの策定、学生への授業評価アンケートの実施、教員相互の授業参観（オープンクラス）の実施、「授業進行の手引き Ver.2.0」の配布、などの活動を行って参りましたが、オープンクラスにおけるアンケートの中で、学生からの評価の高い講義が参観できるようにして欲しい、といった意見が多数寄せられました。

そこで本年度は、これまでに二度ベストレクチャー賞を受賞された先生にお願いをして講義の進め方について具体的にご紹介いただき、良い講義のためには何が重要であるかを考える機会を設けることにしました。教職員、学生の皆さんの多くのご参加をお願いします。

日時：平成22年12月3日（金） 午前10時から

場所：シアター教室 総合研究棟1階

- ◆ はじめに 工学部長
- ◆ 第一部 ベストレクチャー賞表彰式
 1. ベストレクチャー賞について FD部会長
 2. ベストレクチャー賞表彰式
 3. 講義を行うためのワンポイント・アドバイス
- ◆ 第二部 講演「良い講義を行うためのワンポイント・アドバイス」
 1. 授業評価アンケートの推移
 2. オープンクラスに関するアンケート結果
 3. 良い講義を行うためのワンポイント・アドバイス講師：池口 徹 先生

主催／工学部教育企画委員会FD部会

後援／全学教育・学生支援機構 全学教育企画室

問い合わせ先／埼玉大学工学部学務係（ TEL 048-858-3429 内線 4408 ）

6. 教員相互授業参観（オープンクラス）の実施について

資料 6-1

平成 19 年 11 月 5 日
工学部教育企画委員会 FD 部会

平成 19 年度教員相互授業参観の実施について

1. 実施目的

工学部では学生による授業評価を積極的に導入し、授業に対して学生側からの率直な評価を受けています。また、授業評価の結果は次年度以降の授業改善に役立てられており、効果を発揮していると思われます。工学部に所属する教員の多くは授業を開始するにあたって特別な教育を受けたわけではありません。そこで、自らが教壇に立つ立場になっても経験豊かな教員や他の教員の授業を参観し参考にする姿勢は必要です。また、自分の授業の善し悪しについて客観的な評価をくださことは難しく、同様の授業を行っている教員から率直な意見をもらい、今後の授業改善に役立てることを目的として授業参観を行います。

2. 実施期間

平成 19 年 11 月 12 日(月)～16 日(金)

3. 参観対象科目

各学科より予め指定された授業を参観科目とします。ただし、非常勤講師が担当する授業科目は除くことにします。

学科名	授業名	教員名	日付・時限	教室
機械工学科	材料工学 I	加藤 寛 教授	11/13 (火)・5～6	工-12 番
	微分方程式 II	鈴木 章彦 教授	11/16 (金)・3～4	工-11 番
電気電子 システム工学科	学生実験を除く全授業 科目(学科推奨科目を示 す)	次頁に詳細を記載		
情報システム工学科	情報工学総合演習を除 く全授業科目	次頁に詳細を記載		
応用化学科	有機化学 I	廣瀬 卓司 教授	11/12 (月)・5～6	工-32 番
	プロセス工学 II	古閑 二郎 教授	11/14 (水)・3～4	工-51 番
	触媒化学	三浦 弘 教授	11/15 (木)・5～6	工-26 番
	分析化学 II	渋川 雅美 教授	11/16 (金)・1～2	工-12 番
機能材料工学科	学生実験、機能材料基礎 演習 II を除く全授業	次頁に詳細を記載		
建設工学科	交通システム	久保田 尚 教授	11/12 (月)・1～2	工-31 番
	コンクリート工学 I	睦好 宏史 教授	11/14 (水)・3～4	工-12 番
	構造力学 II	山口 宏樹 教授	11/15 (木)・3～4	工-11 番
	耐震・地震工学	谷山 尚 助教	11/16 (金)・3～4	工-32 番

4. 参観方法およびアンケート

- (1) どの学科の授業を参観されても結構ですので、上記した科目のうち 2 科目以上の授業を参観してください。
- (2) 参観時間は 1 科目あたり 20 分以上としてください。
- (3) 参観終了後、1 週間以内にアンケート用紙に記入していただき(無記名)、各学科の FD 委員へ電子メール添付で提出してください。FD 委員は送信者の氏名について守秘義務を負います。
- (4) アンケートの質問内容は、(i)参観した授業への感想や意見、(ii)ご自身の授業において改善しようと思った点、(iii)授業参観実施に対する感想や意見とします。
- (5) 質問(i)に対する回答を参観した授業ごとに授業参観アンケート(a)に記入してください。また、項目(ii)と(iii)に対する回答をまとめて授業参観アンケート(b)に記入してください。
- (6) 質問(i)の回答内容については、公開科目の担当教員に無記名のまま伝えます。

参観対象科目一覧

日付	時限	学科	講義番号	講義名	対象学年	教員名	教室	備考
11月12日 (月)	1~2	電電	T62230	数値解析とアルゴリズム演習	電2	高久銀夫	情メ-3,4	
		情報	T73460	情報セキュリティ工学	情3	程京徳	工-62	
		建設	T76310	交通システム	建2	久保田尚	工-31	
	3~4	電電	T72010	基礎電気回路・演習	電1	高田進	工-11	
		電電	T72160	電子デバイス	電2	明達広昭	工-41	
		電電	T72440	情報通信工学Ⅱ	電3	長谷川孝明	工-50	学科推奨科目
		情報	T73410	CAD工学	情3	川崎洋	工-62	
	5~6	機能	T75190	有機機能材料	機能3	照沼太陽	工-71	
		電電	T72030	電磁気学Ⅰ	電1	木村雄一	工-11	学科推奨科目
		電電	T72380	計算機システム	電2	伊藤和人	工-62	
		情報	T73200	プログラミング入門	情1	前川仁	工-55	
		情報	T73330	計算機システム構成原理Ⅱ	情3	吉田紀彦	工-54	
		応化	T74140	有機化学Ⅰ	応1	廣瀬卓司	工-32	
	7~8	機能	T75130	金属・セラミックス材料	機能2	平塚信之	工-71	
電電		T72250	デジタル制御	電3	山根敏	工-11		
情報		T73580	信号処理	情3	鳥村徹也	工-62		
機能		T65090	基礎物理学Ⅱ	機能1	酒井政道	工-71		
9~10	情報	T73210	プログラミング入門演習	情1	子安大士	端末演習室		
11月13日 (火)	1~2	電電	T72200	電気機器学Ⅰ	電2	阿部茂	工-41	
		情報	T73350	関数型言語	情3	三島健稔	工-62	
		機能	T75200	生物物理化学	機能2	伏見謙	工-71	
	3~4	情報	T73560	情報通信工学Ⅱ	情3	吉川宣一	工-62	
		機能	T65160	基礎化学Ⅰ	機能1	幡野健	教養1-302	教養教育科目
		機能	T75160	電子機能材料	機能3	平塚信之	工-71	
	5~6	機械	T71130	材料工学Ⅰ	機2	加藤寛	工-12	教養教育科目
		情報	T73070	応用解析学	情1	池口徹	工-11	
	7~8	情報	T73320	ソフトウェア基礎論	情2	吉浦紀晃	工-62	
		情報	T73520	ヒューマンコンピュータインタラクション	情3	久野義徳	工-52	
9~10	情報	T63060	数値解析Ⅱ	情3	重原孝臣	工-62		
11月14日 (水)	1~2	情報	T73270	確率・情報理論	情2	鳥村徹也	工-62	
		機能	T75110	材料無機化学	機能2	石丸雄大	工-71	
	3~4	電電	T72150	計測工学	電2	谷治環	工-41	
		電電	T72420	マイクロ波デバイス	電3	馬哲旺	工-52	
		情報	T73180	プログラミング言語論	情2	程京徳	工-62	
		応化	T74100	プロセス工学Ⅱ	応2	古閑二郎	工-51	
	5~6	機能	T75020	量子力学Ⅰ	機能2	鎌田憲彦	工-71	
		建設	T76200	コンクリート工学Ⅰ	建2	睦好宏史	工-12	
	7~8	電電	T72330	超伝導工学	電3	明達広昭	工-54	
		情報	T73160	計算論	情2	小柴健史	工-51	
	9~10	電電	T72240	パワーエレクトロニクス	電3	阿部茂	工-12	
		情報	T73490	生体情報工学	情3	池口徹	工-54	
		情報	T73170	計算論演習	情2	後藤祐一	工-51	
	11月15日 (木)	1~2	情報	T63030	線形代数Ⅰ	情2	横口博樹	工-62
情報			T73450	コンピュータネットワーク	情3	吉川宣一	工-50	
機能			T65150	物理化学Ⅱ	機能1	石丸雄大	工-71	
3~4		機能	T65230	基礎電子回路	機能2	柿崎浩一	工-21	
		機能	T75220	分子生物学Ⅱ	機能3	伏見謙	工-54	
		電電	T62020	微分積分学Ⅱ	電1	金子裕良	工-41	
		情報	T73120	データ構造とアルゴリズム	情2	大澤裕	工-62	
5~6		機能	T65060	確率統計学	機能2	松岡浩司	工-21	
		機能	T75090	光物性工学	機能3	鎌田憲彦	工-71	
		建設	T76170	構造力学Ⅱ	建2	山口宏樹	工-11	
		電電	T72310	電気電子材料工学	電3	土方泰斗	工-50	
		情報	T73130	データ構造とアルゴリズム演習	情2	桑島豊	端末演習室	
		応化	T74350	触媒化学	応3	三浦 弘	工-26	
7~8		機能	T75080	半導体物性	機能3	白井肇	工-71	
	機能	T75030	量子力学演習	機能2	本多善太郎	工-22		
9~10	電電	T72230	高電圧工学	電3	小林信一	工-41		
	情報	T73050	応用線形代数	情1	久野義徳	工-12		
	情報	T73060	応用線形代数演習	情1	小林貴訓	工-12		
11月16日 (金)	1~2	機能	T75051	応用電磁気学	機能2	酒井政道	工-22	
		機能	X61032	情報基礎	機能1	柿崎浩一	情メ-3,4	教養教育科目
		電電	T62040	ベクトル解析	電1	前山光明	工-41	
		電電	T72470	科学技術とシステム創成	電3	鬼沢武	工-50	学科推奨科目
	3~4	応化	T74190	分析化学Ⅱ	応2	洪川雅美	工-12	
		機能	T75170	材料有機化学	機能2	松岡浩司	工-71	
		機械	T61130	微分方程式Ⅱ	機2	鈴木章彦	工-11	
	5~6	電電	T72470	科学技術とシステム創成	電3	鬼沢武	工-50	学科推奨科目
		建設	T76150	耐震・地震工学	建3	谷山尚	工-32	
	7~8	電電	T72450	デジタル信号処理	電3	伊藤和人	工-41	
		電電	T72010	基礎電気回路・演習	電1	田井野徹	工-55	

平成20年度教員相互授業参観(オープンクラス)の実施について

1. 実施目的

工学部では学生による授業評価を積極的に導入し、授業に対して学生側からの率直な評価を受けています。また、授業評価の結果は次年度以降の授業改善に役立てられており、効果を発揮していると思われます。工学部に所属する教員の多くは授業を開始するにあたって特別な教育を受けたわけではありません。そこで、自らが教壇に立つ立場になっても経験豊かな教員や他の教員の授業を参観し参考にする姿勢は必要です。また、自分の授業の善し悪しについて客観的な評価をくださことは難しく、同様の授業を行っている教員から率直な意見をもらい、今後の授業改善に役立てることを目的として授業参観を行います。

2. 実施期間

平成20年6月16日(月)～6月27日(金)

3. 参観対象科目

各学科より予め指定された授業を参観科目とします。(別紙参照) ただし、非常勤講師が担当する授業科目は除きます。

4. 参観方法およびアンケート

- (1) どの学科の授業を参観されても結構ですので、上記した科目のうち2科目以上の授業を参観してください。
- (2) 参観時間は1科目あたり20分以上としてください。
- (3) 参観終了後、1週間以内にアンケート用紙に記入していただき(無記名)、各学科のFD委員へ電子メール添付で提出してください。FD委員は送信者の氏名について守秘義務を負います。
- (4) アンケートの質問内容は、(i)参観した授業への感想や意見、(ii)ご自身の授業において改善しようと思った点、(iii)授業参観実施に対する感想や意見とします。
- (5) 質問(i)に対する回答を参観した授業ごとに授業参観アンケート(a)に記入してください。また、項目(ii)と(iii)に対する回答をまとめて授業参観アンケート(b)に記入してください。
- (6) 質問(i)の回答内容については、公開科目の担当教員に無記名のまま伝えます。

実施日	学科	曜日	時限	講義番号	講義名	単位数	対象学年	専任○	教員名	教室	備考
6/18,6/25	機械	水	3~4	T61120	複素関数	2	機2	○	平原裕行、高崎正也、 荒木稚子	工-55	
6/25	機械	水	5~10	T71060	機械設計製図Ⅱ	3	機2	○	大滝英征、琴坂信哉	機械製図室	参観時間15:30~16:30
6/16,6/23	電電	月	1~2	T72270	ロボティクス	2	電4	○	山根敏	工-54	
6/16,6/23	電電	月	1~2	T62210	プログラミング演習Ⅰ	1	電2	○	長谷川有貴	情メ-3,4	
6/16,6/23	電電	月	3~4	T72040	電磁気学Ⅱ	2	電2	○	羽石操	工-11	
6/16,6/23	電電	月	3~4	T72180	システム創成学概論	2	電3	○	長谷川孝明	工-51	学科推奨科目
6/16,6/23	電電	月	5~6	T62050	数学演習Ⅰ	1	電1	○	森涼太郎	工-12	学科推奨科目
6/16,6/23	電電	月	5~6	T72170	自動制御	2	電3	○	金子裕良	工-51	
6/17,6/24	電電	火	1~2	T72020	電気回路	2	電2	○	小林信一	工-12	
6/17,6/24	電電	火	3~4	T72390	電子回路Ⅰ	2	電3	○	高橋幸郎	工-55	
6/17,6/24	電電	火	3~4	T72260	電力発生工学	2	電4	○	阿部茂	工-50	学科推奨科目
6/17,6/24	電電	火	5~6	T72120	論理回路	2	電2	○	伊藤和人	工-41	17日中間試験, 24日試験解除
6/17,6/24	電電	火	7~8	T62070	微分方程式	2	電2	○	馬哲旺	工-12	17日中間試験
6/17,6/24	電電	火	7~8	T72360	光エレクトロニクス	2	電4	○	吉田貞史	工-41	
6/18,6/25	電電	水	1~2	T62090	複素関数	2	電2	○	馬哲旺	工-41	18日中間試験
6/18,6/25	電電	水	1~2	T62030	線形代数Ⅰ	2	電1	○	矢口裕之	工-11	
6/25	電電	水	3~4	T72430	情報通信工学Ⅰ	2	電3	○	長谷川孝明	工-51	
6/18,6/25	電電	水	3~4	T72460	電磁波工学	2	電4	○	羽石操	工-22	
6/18,6/25	電電	水	3~4	T72130	基礎電子物性	2	電2	○	谷治環	工-41	
6/18,6/25	電電	水	5~6	T72410	マイクロ波工学	2	電3	○	羽石操	工-41	
6/18,6/25	電電	水	5~6	T72350	プラズマ物性工学	2	電4	○	前山光明	工-52	
6/18,6/25	電電	水	5~6	T72050	電磁気学演習	1	電2	○	木村雄一	工-12	学科推奨科目
6/18,6/25	電電	水	7~8	T62200	プログラミング言語Ⅰ	2	電2	○	伊藤和人	工-12	
6/19,6/26	電電	木	3~4	T62010	微分積分学Ⅰ	2	電1	○	明連広昭	工-12	
6/19,6/26	電電	木	3~4	T72210	電気機器学Ⅱ	2	電3	○	金子裕良	工-51	
6/19,6/26	電電	木	5~6	T72220	電力系統工学	2	電3	○	前山光明	工-41	
6/19,6/26	電電	木	7~8	T62100	物理学概論	2	電1	○	谷治環	工-11	
6/19,6/26	電電	木	7~8	T72300	固体物性論	2	電3	○	矢口裕之	教養1-104	学科推奨科目
6/19,6/26	電電	木	9~10	T62150	機械工学概論	2	電1~4	○	鈴木章彦	工-11	
6/20,6/27	電電	金	5~6	X61016	情報基礎	2	電1	○	内田秀和	工-41	教養教育科目
6/20,6/27	電電	金	7~8	T62180	情報処理演習	1	電1	○	長谷川靖洋	情メ-3,4	
6/16,6/23	情報	月	1~2	T73300	情報倫理	2	情1	○	三島健稔	工-62	情報システム工学科向け
6/16,6/23	情報	月	3~4	T73380	ソフトウェア工学	2	情3	○	吉田紀彦	工-50	
6/16,6/23	情報	月	3~4	T73230	基本情報技術概論演習	2	情2	○	松本倫子	工-62講末演習室	情報システム工学科向け
6/16,6/23	情報	月	5~6	T73340	コンパイラ工学	2	情3	○	吉浦紀晃	工-62	
6/16,6/23	情報	月	5~6	T73260	電気・電子回路	2	情2	○	山田敏規	工-54	
6/16,6/23	情報	月	5~6	T73030	情報数学入門	2	情1	○	重原孝臣	工-11	
6/16,6/23	情報	月	7~8	T73500	画像処理工学	2	情3	○	久野義徳	工-62	
6/16,6/23	情報	月	9~10	T73040	情報数学入門演習	2	情1	○	桑島豊	工-11	
6/16,6/23	情報	月	9~10	T73121	データ構造とアルゴリズム	2	情	○	大澤裕	工-62	過年度生向け
6/17,6/24	情報	火	3~4	T73530	コンピュータグラフィックス	2	情3	○	川崎洋	工-62	
6/17,6/24	情報	火	5~6	T73480	非線形システム概論	2	情3	○	池口徹	工-50	
6/17,6/24	情報	火	7~8	T73360	情報素子工学	2	情3	○	内田淳史	工-62	
6/17,6/24	情報	火	7~8	X61018	情報基礎	2	情1	○	橋口博樹	端末演習室	教養教育科目
6/17,6/24	情報	火	9~10	T63050	数値解析Ⅰ	2	情3	○	重原孝臣	工-11	
6/17,6/24	情報	火	9~10	T73020	情報基礎演習	2	情1	○	後藤祐一	端末演習室	
6/18,6/25	情報	水	1~2	T73090	数理論理学	2	情2	○	堀山貴史	工-52	
6/18,6/25	情報	水	3~4	T73190	形式言語とオートマトン	2	情2	○	小柴健史	工-52	
6/18,6/25	情報	水	3~4	T73570	符号理論	2	情3~4	○	島村徹也	工-62	
6/18,6/25	情報	水	5~6	T73370	オペレーションズリサーチ	2	情3~4	○	橋口博樹	工-62	
6/18,6/25	情報	水	5~6	T73240	論理回路	2	情2	○	山田敏規	工-51	
6/18,6/25	情報	水	7~8	T73250	論理回路演習	2	情2	○	山田敏規	工-51	
6/18,6/25	情報	水	7~8	T73440	データベースシステム	2	情3	○	大澤裕	工-62	
6/18,6/25	情報	水	9~10	T73510	パターン情報処理	2	情3	○	前川仁	工-62	
6/19,6/26	情報	木	1~2	T63010	離散数学	2	情1	○	程京徳	工-12	
6/19	情報	木	3~4	T73140	計算機システム構成原理Ⅰ	2	情3	○	吉浦紀晃	工-52	6/26休講
6/19,6/26	情報	木	5~6	T73150	計算機システム構成原理Ⅰ演習	2	情3	○	子安大士	工-52講末演習室	
6/19,6/26	情報	木	7~8	T73470	人工知能	2	情3	○	吉田紀彦	工-52	
6/19,6/26	情報	木	7~8	T73220	基本情報技術概論	2	情2	○	堀山貴史	工-12	情報システム工学科向け
6/19,6/26	情報	木	9~10	T73550	情報通信工学Ⅰ	2	情3	○	吉川宣一	工-62	
6/20,6/27	情報	金	5~6	T63020	離散数学演習	2	情1	○	後藤祐一	工-12	

実施日	学科	曜日	時限	講義番号	講義名	単位数	対象学年	専任 ○	教員名	教室	備考
6/16,6/23	応化	月	1~2	T74160	無機化学 I	2	応2	○	小林秀彦	工-12	
6/16,6/23	応化	月	9~10	T74090	プロセス工学 I	2	応2	○	本間俊司	工-21	
6/19,6/26	応化	木	1~2	T74200	環境分析	2	応3	○	大塚壮一	工-21	
6/20,6/27	応化	金	5~6	T64130	基礎電気回路	2	応4	○	土方泰斗	教養1-104	教養教育科目(X48051)
6/16,6/23	機能	月	3~4	T65080	基礎物理学 I	2	機能1	○	鎌田憲彦	工-12	
6/23	機能	月	3~4	T75140	薄膜・表面工学	2	機能3	○	白井肇	工-71	6/16休講
6/16,6/23	機能	月	5~6	T65100	電磁気学	2	機能2	○	平塚信之	工-71	6/16中間試験
6/17,6/24	機能	火	1~2	T65040	線形代数 I	2	機能1	○	神島謙二	工-31	
6/17,6/24	機能	火	1~2	T65190	分子生物学	2	機能2	○	西垣功一	工-22	
6/17,6/24	機能	火	1~2	T75040	量子力学 II	2	機能3	○	鎌田憲彦	工-71	
6/17,6/24	機能	火	3~4	T75150	磁性材料	2	機能3	○	柿崎浩一	工-71	6/24中間試験
6/18,6/25	機能	水	1~2	T65140	物理化学 I	2	機能1	○	西垣功一	工-71	
6/18,6/25	機能	水	1~2	T65110	基礎量子力学	2	機能2	○	本多善太郎	工-22	教養教育科目(X50051)
6/18,6/25	機能	水	1~2	T75260	構造解析	2	機能3	○	幡野健	工-54	
6/18,6/25	機能	水	5~6	T65180	基礎化学 III	2	機能2	○	照沼大陽	工-71	
6/18,6/25	機能	水	7~10	T65210	情報処理演習	2	機能2	○	神島謙二	工-54情メ-3.4	
6/19,6/26	機能	木	1~2	T75210	分子生物工学 I	2	機能3	○	西垣功一	工-71	
6/19,6/26	機能	木	3~4	T75180	高分子科学	2	機能3	○	松岡浩司	工-71	
6/20,6/27	機能	金	1~2	T75060	結晶物理学	2	機能3	○	本多善太郎	工-71	
6/16	建設	月	5~6	T76250	応用水理学	2	建3	○	田中規夫	工-32	
6/18	建設	水	3~4	T76290	計画数理	2	建2	○	角川浩二	工-31	学籍番号奇数の学生
6/19	建設	木	3~4	T76161	構造力学 I	2	建2	○	岩下和義	工-22	学籍番号偶数の学生
6/19	建設	木	7~8	T76110	岩盤力学	2	建3	○	山辺正	工-31	
6/23	環境	月	1~2	T77010	環境科学概論	2	環境1	○	坂本和彦・河村清史	工-52	
6/16,6/23	環境	月	3~4	T67100	微分積分学	2	環境1	○	深堀清隆	工-52	
6/17,6/24	環境	火	3~4	T67010	化学序説	2	環境1	○非	河村清史・田口光正	工-52	
6/18,6/25	環境	水	1~2	X61019	情報基礎	2	環境1	○	山根敏・窪田陽一	工-55	教養教育科目
6/20,6/27	環境	金	1~2	T67170	情報処理演習	2	環境1	○	長谷川靖洋・藤野 毅・門野博史	情メ-3	

平成21年度教員相互授業参観(オープンクラス)の実施について

1. 実施目的

工学部では学生による授業評価を積極的に導入し、授業に対して学生側からの率直な評価を受けています。また、授業評価の結果は次年度以降の授業改善に役立てられており、効果を発揮していると思われます。工学部に所属する教員の多くは授業を開始するにあたって特別な教育を受けたわけではありません。そこで、自らが教壇に立つ立場になっても経験豊かな教員や他の教員の授業を参観し参考にする姿勢は必要です。また、自分の授業の善し悪しについて客観的な評価をくださことは難しく、同様の授業を行っている教員から率直な意見をもらい、今後の授業改善に役立てることを目的として授業参観を行います。

2. 実施期間

平成21年11月9日(月)～11月20日(金)

3. 参観対象科目

各学科より予め指定された授業を参観科目とします。(別紙参照) ただし、非常勤講師が担当する授業科目は除きます。

4. 参観方法およびアンケート

- (1) どの学科の授業を参観されても結構ですので、上記した科目のうち2科目以上の授業を参観してください。
- (2) 参観時間は1科目あたり20分以上としてください。
- (3) 参観終了後、1週間以内にアンケート用紙に記入していただき(無記名)、各学科のFD委員へ電子メール添付で提出してください。FD委員は送信者の氏名について守秘義務を負います。
- (4) アンケートの質問内容は、①参観した授業への感想や意見、②ご自身の授業において改善しようと思った点、③授業参観実施に対する感想や意見とします。
- (5) 質問①に対する回答を参観した授業ごとに授業参観アンケート(a)に記入してください。また、質問②と③に対する回答は授業参観アンケート(b)に記入してください。
- (6) 質問①の回答内容については、公開科目の担当教員に無記名のまま伝えます。

平成22年度教員相互授業参観(オープンクラス)の実施について

1. 実施目的

工学部では学生による授業評価を積極的に導入し、授業に対して学生側からの率直な評価を受けています。また、授業評価の結果は次年度以降の授業改善に役立てられており、効果を発揮していると思われま。工学部に所属する教員の多くは授業を開始するにあたって特別な教育を受けたわけではありません。そこで、自らが教壇に立つ立場になっても経験豊かな教員や他の教員の授業を参観し参考にする姿勢は必要です。また、自分の授業の善し悪しについて客観的な評価をくださことは難しく、同様の授業を行っている教員から率直な意見をもらい、今後の授業改善に役立てることを目的として授業参観を行います。

2. 実施期間

平成22年6月21日(月)～7月2日(金)

3. 参観対象科目

各学科より予め指定された授業を参観科目とします。(別紙参照)

4. 参観方法およびアンケート

- (1) どの学科の授業を参観されても結構です。対象科目のうち2科目以上の授業を参観してください。
- (2) 参観時間は1科目あたり20分以上としてください。
- (3) 参観終了後、1週間以内にアンケート用紙に記入していただき(無記名)、工学部学務係に提出してください。提出はEメールでも結構です。その場合はアンケート用紙のファイルを添付するか、もしくは必要事項のみ送信してください。
送信先: kiryu@mail.saitama-u.ac.jp
アンケート用紙ファイルの場所: 工学部HP→教職員向け情報(学内限定)→FD部会
→教員相互の授業参観(オープンクラス)
- (4) アンケートの質問内容は、①参観した授業への感想や意見、②ご自身の授業において改善しようと思った点、③授業参観実施に対する感想や意見とします。
- (5) 質問①に対する回答を参観した授業ごとに授業参観アンケート(a)に記入してください。また、質問②と③に対する回答は授業参観アンケート(b)に記入してください。
- (6) 質問①の回答内容については、公開科目の担当教員に無記名のまま伝えます。

平成 22 年度(前期) 授業参観アンケート (a)

工学部 FD 部会

【回答方法】

授業参観に参加した感想や意見を無記名で自由にお書きください。記入後は、工学部学務係に提出してください。寄せられました感想や意見につきましては、担当教員に無記名のままお渡しします。

授 業 科 目 名		学 科 名	
担 当 教 員 名	先生	講 義 室	
① 参観した授業への感想・意見			

平成 22 年度(前期) 授業参観アンケート (b)

工学部 FD 部会

【回答方法】

授業参観に参加した感想や意見を無記名で自由にお書きください。記入後は、工学部学務係に提出してください。寄せられました感想や意見につきましては、工学部 FD 部会のウェブ上に無記名のまま開示します。

所属学科：

②授業を参観して、ご自身の授業で改善しようと思ったことがあればお書きください。

③授業参観の実施に対して感想や意見を自由にお書きください。

教員相互授業参観（オープンクラス）に関するアンケート用紙

資料 6-7

教員相互の授業参観(オープンクラス)に関するアンケート(案)

1. あなたは今年度のオープンクラスで、授業を参観しましたか。
 - (a) 参観した
 - (b) 参観しなかった
2. 問1において(b)とお答えした方に。参加しなかった理由をお聞かせ下さい。
 - (a) 参観を行う時間がなかった
 - (b) 参観する意義を見出せなかった
 - (c) その他(自由形式)
3. 今後もオープンクラスを続けるべきであると思いますか。また、その理由もお答え下さい。
 - (a) 続けるべきである
 - (b) やめるべきである
 - (c) どちらでもない
4. 問3で(a),(c)とお答えした方に。現在、参観時間は30分以上となっておりますが、何分が適当だと思いますか。
 - (a) 30分以上
 - (b) 1時間以上
 - (c) 1時間半
 - (d) その他 []
5. 問3で(a),(c)とお答えした方に。現在、参観期間は2週間ですが、どのくらいが適当だと思いますか。
 - (a) 2週間
 - (b) 3週間
 - (c) 4週間以上
 - (d) その他 []
6. これまでのオープンクラスで参観者からの意見で授業改善の役に立ったことがありましたら、お答え下さい。
7. これまでのオープンクラスで他の教員の講義を参観して授業改善の役に立ったことがありましたら、お答え下さい。

オープンクラスに関するアンケート結果

資料 6-8

オープンクラスに関するアンケート結果

Q 今年度のオープンクラスで授業を参観しましたか。

- (a) 参観した：40
- (b) 参観しなかった：27

Q 参観した科目について、それを選んだ理由を教えてください。

- (a) 過去にベストレクチャー賞を受賞した科目もしくは学生による授業評価の高い科目だから：9
- (b) 都合のつく日時が限られていたから：25
- (c) 現在担当している講義と関連している科目だから：9
- (d) その他：1

Q 参加しなかった理由を教えてください。

- (a) 参観を行う時間がなかった：22
- (b) 参加する意義を見出せなかった：2
- (c) その他：3

Q オープンクラスについて不満な点・改善して欲しい点がございましたらお書き下さい。

- ・実施期間を長く：4
- ・自由参加に：2
- ・良い(悪い) 講義とはどういうものか、文章ではなく具体的に示して欲しい
- ・期間内は学内の会議を控えるよう申し合わせては？

Q 授業参観の実施に対して感想や意見を自由にお書き下さい。

- ・実施期間を長くする
- ・毎年行う必要があるか
- ・参観対象を全科目にする
- ・参観対象を一部に限る

Q 今後もオープンクラスを続けるべきだと思いますか。

- (a) 続けるべきである：39
- (b) やめるべきである：2
- ・オープンクラスで講義を改善することに効果はあると思うが、それだけでは限界があるのではないか。それよりもカリキュラムから見直しが必要になってきていると思う。
- (c) どちらでもない：25
- ・毎年でなくてもよいのでは
- ・レポートが面倒
- ・対象授業を限定すべき

Q 参観時間は何分が適当だと思いますか。

(a) 30 分以上: 42

(b) 1 時間以上: 3

(c) 1 時間半: 5

(d) その他: 13

(10 分: 1、15 分以上: 2、20 分: 1、30 分: 1、時間設定しない: 8)

Q 参観期間はどのくらいが適当だと思いますか。

(a) 2 週間: 44

(b) 3 週間: 3

(c) 4 週間以上: 6

(d) その他: 7

(1 週間: 4、期間設定しない: 3)

Q これまでのオープンクラスで参観者からの意見で授業改善の役に立ったことがありましたら、お答え下さい。

(a) 講義内容(分量の加減): 0

(b) 板書の仕方: 9

(c) スライドの工夫: 4

(d) 配布資料: 4

(e) 話し方、講義を進めるテンポ、スピード: 24

(f) 予習、復習のさせ方: 3

(g) その他: 2

7. 工学部・教員研修（FD）ガイドライン

資料 7-1

工学部・教員研修（FD）ガイドライン

平成 19 年 9 月 3 日 工学部 FD 部会制定

埼玉大学工学部では、教員研修（FD）の一環として、平成 12 年度からは学生による授業評価アンケートを、また平成 14 年度からはFDシンポジウム実施してきました。黎明期・導入期を経て、現在は、安定した普及期にあると言えます。学生、教職員の協力のもとに行われてきたこれらのFD活動を、各教員の授業技能の向上につなげ、教育力向上に発展させてゆくことが今後の課題です。一方、教育力の維持・向上には、学生と教職員間のみならず教員同士のコミュニケーションも今後、益々重要になると考えられます。フィードバックとコミュニケーション、それらを円滑にするために、ここに、工学部教員研修（FD）ガイドラインを制定します。

1. 授業評価アンケートに関する指針

工学部 FD 部会は、学期毎に実施される学生による授業評価結果を（4-5 年）毎に調査・解析し、その結果を公開する。

各学科は、所属する教員が学科内の個々の教員に対する授業評価結果を自由に閲覧できるように適切な公開方法を検討し、それを実施する。

各教員は、授業評価結果や自己の反省などにもとづいて、次年度における授業改善計画を作成し、教員活動報告書の中で、それを記述する。

2. 授業技能向上に関する指針

各学科の教育改善委員会や教科間連携委員会等は、委員会を学期毎に開催し、授業評価結果を参考に授業技能向上に関する検討を行う。また、その審議内容を記録・保存し、必要な場合に開示できるようにする。

各学科の FD 活動の責任者は、学生による授業評価が数年間（3-4 年）著しく低い教科の担当教員に対してヒアリングをおこない、その授業技能向上に向けての改善計画をたて、実施させることができる。

3. FD 活動に関する情報の交換に関する指針

工学部 FD 部会は、FD シンポジウムあるいは公開討論会（フォーラム）を年 1 回開催する。

工学部 FD 部会は、教職員のみならず、教職員と学生間で FD 活動に関する正確・

最新の情報を共有し、情報交換に役立てるようになるため、FD 活動に関するホームページを開設する。

各学科の教科間連携委員会や教育改善委員会等は、受講生の動向やFD 活動に関する正確・最新な情報を共有する。

各教員は、講義を履修する学生に対して授業改善事項を初回講義時に説明する。

4. 授業マニュアルの作成に関する指針

工学部 FD 部会は、教員が授業を行う際に最低限守るべきマナーおよび励行すべき事例をリーフレットとして作成し、これを教員に配布する。数年毎に内容の更新を行う。

5. 教員相互の授業参観（オープンクラス）に関する指針

工学部 FD 部会は、学部単位で共通の授業公開期間を設ける。その期間、教員は授業を参観できる。

6. 授業技能優秀者の表彰に関する指針

工学部 FD 部会からの推薦を受けて、工学部長は優れた授業技能を有する教員に「ベストレクチャー賞」を授与する。選考は、「学生による授業評価」を考慮した適切な選考基準のもとに行う。選考基準は工学部FD部会が作成する。

7. 教員に対する研修活動参加要請に関する指針

工学部 FD 部会は、工学部全教員に対して本学内外で開催される授業参観、FD シンポジウム等のFD活動への参加を要請することができる。特に、本学着任間もない授業経験の少ない教員に対しては、着任後 2 年間を目処に、これを強く要請することができる。

ベストレクチャー賞について

平成 19 年 9 月 3 日 工学部 FD 部会制定

1. 選考基準

以下のカテゴリー及び対象科目において、「学生による授業評価」の結果の最高評価点の者をベストレクチャー賞の該当者として工学部長へ推薦する。

2. カテゴリー

- 1)50 人までの講義
- 2)90 人までの講義
- 3)それ以上の講義
- 4)演習(授業名に「演習」と付く講義が該当)

3. 対象講義条件

回答率 6 割以上

4. 評価点の算出方法

項目1から10までの平均点に、「あなた自身について」の項目中「授業にどれだけ出席しましたか」の問いに対して次のように重み付けを行い、評価点を算出する。

- 1)ほぼ全回 そのままの点数・・・a
- 2)3/4 以上 点数の 8 割を考慮・・・b
- 3)3/4 未満 点数の 6 割を考慮・・・c

評価点= a 平均 * a 人数 * 1.0 + b 平均 * b 人数 * 0.8 + c 平均 * c 人数 * 0.6 / 全回答者数